其事業ハ國家ガ造リ出シタニモ拘ラズ、サウ云フ事ヲ是迄國家ガヤツテ居ナイ、人ヲ造ルト云フ事モセナカツタ、又吾々國民自身ハ別段學校衛生ヲ了解シテヰナイ、夫レデ國家ハ規則ヲ出シタキリ、地方ハ學校醫ノ置イタ儘ト云ツタ狀態デアツタ、又手當モ一般ニハ甚ダ乏シイ、報酬無シデ十分ノ仕事ヲセイト云フ事モ六ケシイ、カク色々ノ事情ガアル、サウシテ又學校衛生ノ必要ヲ唱ヘル人モ甚ダ乏シク、指導監督スル者モ無イト云フ狀況デアツタ、唯偶マニ熱心ナ學校醫ガアツテ時ヲ費ヤシ、自分ノ金ヲ學校ニ寄附シテヤモ、學校衛生ヲ造ツテ行クト云フノガアツタ位ニスギナイ、夫故ニ學校衛生ハ進歩セズ、兒童ノ身體上ニ就テ、當然學校衛生ガヤラナケレバナラヌ仕事迄放擲シテアツタト、斯ウ云フヤウナ狀態デアツタ爲メニ、實際上見タ所デ、學校ノ衛生ト云フモノハ、所謂消極的ノモノデアル、病人ノ手當ヲスル、救急療法ヲスル、「トラホーム」治療ヲ遣ル位ノ事ガ學校衛生デアルカノ如クニナツテ居ル、夫レデ教育方面ニハ體操ハ固ヨリ其他一般體育ノ事ガ、學校衛生ト沒交渉デ今日迄遣ツテ來テ居ツタ、夫レハ日本ノ制度ナリ或ハ實地ナリガ惡イカラデアル、サウ云フモノデハ決シテナイ、夫レヲ良クシテ往カナケレバナラヌト思フノデアリマス、

元來衛生學ト云フモノハ根本的ノ仕事ヲスルモノデアル、病人ヲ取扱フト云フ事ハ特別ノ場合デアル、

第一ノ仕事ハ豫防的ノ仕事デアル、豫防醫學デアル、病氣ニ罹ラナイヤウニ、人ノ身體ヲ丈夫ニシテ、抵抗力ヲ強クシテ置クト云フ事ガ衛生ノ目的デ、其研究ガ衛生學ノ目的デアリマス、病人ヤ弱イ者ヲ造ラヌト云フガ其專門ノ目的デアリマスカラ、夫レデ病氣ノ者ヲ發見スレバ之ハ治サナケレバナラヌ、其治ス工夫ハ之レヲ治療醫ノ手ニ委スル、今日ニ於テハ醫藥ノ方面デナク、モツト衛生的ノ治療法ガアル、榮養ヲ良クスルトカ、或ハ空氣、日光ノ作用ヲ同時ニ働カセルト云フヤウナ方針ガアル、又弱イ者ニ對シマシテハ全然衛生的ノ方法ニ依ツテ健康ノ度ヲ強メテ當リ前ノ者ニスル、夫レカラ當リ前ノ者、卽チ普通ノ水準ノ健康狀態ノ者ハ、更ニ夫レヲ衛生的ノ取扱ヒヲスレバ水準以上ノ健康度ニシ抵抗力ヲ增强スル事ガ出來ルノデアツテ、是レ卽チ根本的、豫防的ノ仕事デアツテ、夫レガ卽チ衛生デアル、夫故、病氣ヲ取扱フ事、或ハ病氣ノ兒童ヲ治ス事ハ、元來ハ學校衛生ノ仕事トシテハ認メナイノデアル、學校醫ハ擔當兒童ノ治療ヲ禁ズルノガ學校衛生上ノ一般原則デアリマス、所ガ日本ノ教育社會ノ人ハ發達シナカツタ學校衛生ノ微々タル活動ノ一部分ヲ、十年モ二十年間モ見慣レテ來テ居ル、又教員養成所ニ於テ十分衛生ヲ學ブノデナク、夫レハ他科ノ學者ノ書イタ解剖生理、又ハ生理衛生等ノ教科書ガアル、夫ヲ見レバ大抵ワカルノデアツテ、其内デモ殊ニ衛生學トナルト他ノ教科目ニ比シテ低度デ不徹底ノ感ガアル、如此狀態デアルカラ已ムヲ得ナイ、又同時ニ學校醫ノ方ニモ監督指導者モ無イ、學校衛生學ハ進ンデモ日本ノ學校衛生ノ内容トハ沒交渉デアツタト云フヤウナ狀態デ、多年遣ツテ來テ居ルノデアリマスカラ、終ニ衛生トイフモノハ所謂消極的ノモノト云フ風ニ了解サレタハ遺憾デアルガ、仕方ノ無イ事ト思ヒマス、併シ此衛生ハサウ云フモノデハナイ、一

般ノ衛生學ノ他ニ、又學校衛生學ト云フ一ツノ專門ガアル。之レハ主トシテ發育期ニアル者、卽チ小學校及ビ中等學校ノ生徒ノ健康ヲ保護シテ往タモノデアッテ、建物、設備ノ衛生ノ他ニ兒童ノ身體其ノモノ、健康ヲ保護シテ往ク方法ヲ講ズル、卽チ豫防的ノ仕事ヲ主モニ遣ルモノデアル。急病ノ發シタトカ、或ハ怪我ヲシタト云フ時ハ、當然救急處置ヲスルケレドモ、學校醫ノ立場トシテハ治療ハセヌ、學校醫ハ學校ノ衛生ヲスルモノデアル、日本ノ學校、トラホーム治療ノ如キハ別ノ意味デ不得已スベキ仕事デアル、決シテ學校衛生ノ原則トシテ命ズル所デハナイノデアリマス。

夫レデ學校衛生學ニ於テハ、先ヅ學校ノ校地、校舍、教室竝ニ內部ノ設備、教授衛生ノ事、夫レカラ、兒童ノ衛生＝兒童各個ノ健康ノ保護增進ヲ擔當スル事トナリ從來ノ學校醫卽チ建物ノ醫者ト云フ名前ハ變ラナケレバナラヌ、學校醫ト云フ名前ハ此內容ニ對シテ不適當デアルト云フ事ニナッテ來タ位デアル。＝兒童ノ衛生トシテハ、就學前ノ幼兒ノ衛生ニモ關係シ連絡スル、學校兒童ニツキテハ學齡期ニ於ケル身體ノ發育及ビ保護ヲ考究スルガ、其內デ、在學期ノ身體發育、精神發育、兩者ノ關係、體育ニヨル身體發育ノ促進ト云フコトヲ研究スル、此內ニ主ナルコトハ諸種ノ體育法ノ價値、各年齡階級卽チ發育狀態ニ對シ合理的適當ナル運動ノ種類等ヲ研究スル、ソコデ學校ニ於ケル運動遊戲等ハ此ノ研究ノ結果ノ實際的應用デアッテ、此基礎ニ立チ此準繩ノ下ニ行ハレ行クヲ合理適當トスル、次ニハ此他ニ特殊養護ト稱スルモノガアル。之ハ身體ノ發育ヲ、佳良ナラシムル目的デ、普通デ



ナイ身體ノ者ニ對シテ行フノデアル、脊柱ノ不正者ニハ一部筋肉ノ發育不良ナル爲メノモノガアル、依テ學校矯正體操ヲ施行セシメル、腺病、貧血、肺ノ弱キ者、心臟疾患、神經質ナドノ體質ノ者ハ重キハ林間學校ヘ、輕キハ「フェリエンコロニー」ニ送ル、榮養ノ惡キ者ニハ學校食事ヲ給スル又沐浴ヲ奬勵スル等ハ皆身體ノ狀態ヲ良クシ發育ヲ良クスル特殊體育法デアル。

右ハ體育ト學校衛生トノ關係デアッテ、體育ハ學校衛生學上發育ヲ促進スル、健康ヲ增進スルノガ目的デアル、教育上ニハ同時ニ訓練其他ノ目的ヲ伴フテ居ルハ勿論デアルガ、體育ノ主タル目的ハ發育、健康デアル。其基礎準繩ガ學校衛生學ニアルト申スノデアリマス。

學校衛生學ノ中、兒童ノ保健トシテハ右體育事項ノ他ニ兒童ノ疾病ナル箇條ガアル。之ハ主トシテ學校兒童期ニ多ク發スル疾病、又兒童ノ健康ニ影響ノ大ナルモノヲ目標トシ、之ガ豫防及救濟ヲ考究スルノデアルガ、治療其物ハ學校醫ノ任務デハナイ、早ク發見シテ早ク善後策ヲ指定スレバ足ルノデアル。

尙ホ十分ニ注意シタイ事ハ、健康上缺點ノナイ兒童デモ、體育ニ力ヲ入レルダケデハ完全ニ其健康ヲ增進シ難イノデアリマス、同時ニ他ノ衛生的事項ヲ注意セネバナラヌ、之ヲ忘レテハナラヌ。

今日ノ學校衛生學ニ於テハ如右　(一)建物及設備ノ衛生　(二)教授衛生　(三)兒童ノ衛生

(四)教員ノ衛生　(五)補助學校兒童　ト云フモノヲ含ミ、是ヲ學校衛生學ノ範圍トシテ研究シテ居ルノデアリマス。日本デ早ク起シタ學校衛生ガ發達セズニ其ノ儘デ殘リ、一方教育ダケ進ンデ學校衛生ガ進マナイ。其ノ間ノ連絡ガ十分ノ發達ヲシ得ナカツタノデアルカト思ハレル、夫レデ學校衛生ト云フモノハ唯ダ「トラホーム」デモ豫防スルトカ、或ハ私共ガ考ヘマスト、實ニ奇異ノコトヲ遣ツテ居ル。普通ノ人ガ旅行ノ時ニ醫者ヲ伴レテ往タト云フハ珍ラシイ、所ガ日本ノ學校デハ遠足旅行ナドニ醫者ヲ連レテ往タ事ニナツテ居ル。之レハ實際ノ必要ノアル爲メデアラウケレドモ、元來ソウ云フ筈ノモノデ無イ。平時ニナスベキコトヲ十分ニセズ、隔時ニ學校衛生ガ本來ト變ツタ目的ニ使ハレテ居ルト云ハネバナラヌ、却説此學校體育ノ基礎ハ學術ノ專門カラ見マシテ、學校衛生學ト云フモノヽ範圍ニ屬スルノデアリマス。如斯區別ガ學術上ニ立ツテ居リマスガ、普通ノ人ガヨク知ラナイカラ詰マリ體育ト云フモノハ、其實行ダケヲ見タ上カラ、終ニ學校衛生デナイト云フ觀念ニナツタノデナイカト思フノデアリマス。勿論體育ヲ實行スルト云フニハ、夫々ノ當局者ガアリ、學校醫ガ決シテ體操ノ先生デハナイノデアリマスカラシテ、實行ガ學校醫ノ責任ト云フ事デハアリマセヌガ、其科目ノ學術上ノ研究ノ所屬ハチヤント決マツテ居ルノデアル。學校衛生モサウ云フ關係カラシテ今後改良シテ往クニハ、教科書ヲ改善シ、又教員養成所ノ教科目ノ中デ此衛生ニ關シタ教ヘ方ヲ改善セネバナラヌト思フノデス。夫レデ此體操ナドニツキマシテモ、多少研究シテ居ル人モアリマスガ、未ダ一般ニ學校衛生上カラハ餘リ注意ヲシテ居ナカツタノデアリマス、女子ニハ十三、十四、十五歳ノ時ニ月經ガ來ル夫レニ對スル注意位ハ文部省デ訓令ガ出シテアルガ、夫レト同等ノ事情ガ他ニ隨分澤山アルケレドモ、其面倒ヲ見テ居ナイ。兒童ハ勉强ヲシナケレバナラヌ、先ヅ第一ニ精神的ニ勉强ヲスルト云フ考ヘヲ有タナケレバナラヌ、其考ヘノ上ニ立ツテ、學校ヲ缺席スル事ハ非常ニ宜シクナイ事デアルノハ勿論デアリマス、併シ一方ニハ衛生ノ事ヲ熱心ニ唱道スル者ガ無イ爲メニ、身體ノ事ヲ考ヘナイ、出席歩合ガ何ウダト云フヤウナ事ガ起リ、病後早ク出席ヲサセル弊害ガ起ツタ土地モアリ、サウ云フ土地デハ病氣ノ爲メノ缺席ハ出席歩合ニ影響サセナイ、缺席ニシナイト云フ事ニ改メテ夫ヲ實行シテ居ル土地モ近年出來タ、之ニ類シタ教育上ノ當然必要カラ起ツタ事デ衛生ト云フ事ヲ考ヘナイ事ガアル。之レハ畢竟是迄ノ罪デアルト考ヘマス。學校醫ハ遠足ノ御伴スル必要ノ無イダケニ兒童ヲ良クシテ置カネバナラヌノデアル、遠足モ近來良ク注意ガ出來ルヤウニナリマシタ。下級ノ者ハ極ク近イ所ヘ連レテ往キ、上ノ發育ノ良イ者ハ最モ勞力ノ多イ遠方ヘ連レテ往クヤウナ方法ガ大分出來タ。サウ云フ考ヘノ基礎ガ擴ガツタノデアルケレドモ、今デモ往々年齡モ違ヒ、發育モ違ツテ居ル者、身體ニ故障ノアル者ト健康ノ者ト同ジヤウニ取扱フ事ガ行ハレテ居ルノハ學校衛生ノ行亙ラナイ弊害デゴザイマス。

衛生學ト云フ一ツノ「サイエンス」ガアツテ、其基礎ノ上ニ、人間ガ健康狀態デアルカ、或ハ異常狀態デアルカ、詰マリ生理的デアルカ、病理的デアルカト云フ事ヲ見テ、夫レニ相當ノ

取扱ヒヲスル、生理的ノ者ハ、更ニサウ云フ發育年齢ニ適當シタル體育ノ種類及ビ其者ニ課スル程度標準ヲ決メ、夫レニ依ツテ體育ヲ遣ツテ往クカラ、目的ヲ達シ得ルノデアル。若シソウデナイ時ハ其中ニ巧マク當ル事モアラフケレドモ、當ラナイ事モアラフ、然ル時ハ目的ヲ達スルノニ非常ナ困難ト、的外レガ出來ルノデアラウト思ヒマス。畢竟體育ト云フモノモサウ云フ基礎ノ上ニ立ツテ往クベキモノデアル。サウ遣レバ合理的ニ體育ノ目的ヲ達スル事ガ出來ルノデアル。夫故私ハ茲ニ此體育ノ基礎ガ何處ニアルカト云フ事ヲ申シタ次第デゴザイマス。今後ノ學校衛生ハ恐ラクハカヽル方針デ進マヂバナラヌ。實際上學校ニ於ケル體育ト云フ事モ斯ウ云フ合理的ノ方針ニ變ツテ往ク事デアラウト思ヒマス。吾々ノ方デハ消極、積極ト云フ區別ヲ認メマセヌ。ナゼナラバ消極、積極ト云ツテモ判然タル區別ガ付クモノデナイ。非常ニ健康ト思ハレル者デモ、身體ノ持方ニ依ツテハ、直グニ消極的方法ヲ施サヂバナラヌヤウナ事ガ來ル。又相當弱イ者デモ育テ方取扱方ガ良ク、適當ニ體育ヲ施スト健康狀態ヲ恢復シテ强健ナル身體トナル、夫故ニサウ云フ區別スル必要モナイ。消極的方面ガ所謂衛生デアツテ積極的方面ガ所謂體育デアルナド、云フ事ハ吾々ニハヨク判ラナイ、否ナサウ云フ區別ハ無イト申スノデゴザイマス。

公文書ナドニ元ハ衛生ト體育ト云フ字ヲ分ケテ使ツタ事モアツタト思フノデスガ、サウ云フ理由ハ無イカラ之ハ取消サナケレバナラヌ。私共ノ體育ト云フモノハ意味ノ廣イモノ、衛生學ニ基イタ體育ハ意味ノ廣イモノデアリマス。身體ノ抵抗力ヲ增進スル、發育ヲ



增進スルト云フ事ガ體育ノ目的トスル所デ、弱イ者ダケヲ救濟スルト云フ事デハナイ。夫レダケデハ學校衛生ノ效果ハ少イ事ニナル。夫レデアルカラ此體育ノ事ニ學校衛生ガ充分ニ努力スレバ、學校衛生ハ、餘程役ニ立ツト云フ結果ニナル。日本ノ小學教育ノ如ク統一的ニヤツテユク國家デアリマスト、此理屈ヲ良ク立テマシテ、其目的ニ協力シテ進ムトナレバ、今後十年カ、二十年ノ間ニ學校衛生ノ效果ト云フモノガ現ハレテ來ルダラウト思ヒマス。今回ノ大戰上日本ハ英、獨、佛ナド、違ツテ、幸イニ戰爭上人命ノ損失モナイカラ人ノ頭數ヲ考ヘナイデ居ルカモ知レヌガ、戰爭ノアツタ國デハ既ニ人ノ頭數ト云フモノヲ非常ニ考ヘテ居ルノデアリマス、本邦ニ於テ衛生ノ不行屆ノ爲メニ多數ノ國民ガ兒童期ニ夭折スル狀態ハ、ヨクヨク眞面目ニ考ヘテ改善セヂバナラヌ。

# 第五章　身體檢査 (Schüleruntersuchung)

## 第一

身體檢査ノ歴史

日本ノ身體檢査ハ、世間デハ體格檢査ト稱ヘテ居ルノデアリマスガ、蓋シ之ハ所謂體格檢査ヲ見ルノガ重ナル目的デアルカノ樣ニ、見エルタメニ、體格檢査ト言フノデアリマス。併シ本來ハ體格檢査デナクシテ名實共ニ身體檢査デナケレバナラヌ。本邦ノ身體檢査ハ明治三十三年(三月二十六日文部省令第四號)以來一齊ニ各小學校以上ノ學校ニ之レヲ行フ事ニナツタノデアルカラ、今デ既ニ二十年モ同ジ事ヲ反復繼續シテ來テ居ルノデアリマス。所デ當然學校衛生トシテ爲スベキ仕事ヲ全體ノ上カラ吟味シテ見マスト、本邦ニ於テハ此ノ身體檢査ガ學校衛生上行ヘツヽアル事ノ中最モ重ナルモノ或ハ寧ロ殆ンド唯一ノ仕事ノ如ク思ハレル。

之ハ學校衛生上極メテ必要ナル事項デハアリマスケレドモ、日本ノヤウニ之レガ重ナル仕事ト見エル程ニ學校衛生上ノ內容ヲ占メテ居ルベキモノデハ無イ。結局自分ハ日本ニ於ケル學校衛生ノ實際ノ內容ガ未ダ發達シテ居ナイ、貧弱デアル其處ニ斯ウ云フモノガアルノデ、身體檢査ガ全事業ノ主要事項カノヤウニ見ラレルト考ヘテ居リマス。

本邦身體檢査ノ起リハ、素ヨリ永イ歴史ノアルモノデナイ。之レニ關係ノアル歴史トシテハ、明治十二年九月ニ初メテ東京神田一橋ニアツタ官立ノ體操傳習所ノ生徒ニ之レヲ行ツタノガ抑モ日本ニ於ケル學校身體檢査ノ嚆矢デアリマシテ、其ノ傳習所ノ生徒ニ行フト同時ニ東京師範學校ニモ行ヒ、夫レカラ東京女子師範學校ノ生徒ニモ之レヲ行ツタノデアリマス。此ノ二校ハ唯今ノ高等師範及ビ女子高等師範ノ前身デアリマス。當時ハ活力統計ト云フ名前ヲ附ケテ、每學期ノ檢査成績ヲ每學期調製シテ發表シテ居ツタノデゴザイマス。明治十三年以後ハ大學ノ豫備門及ビ東京外國語學校ノ學生生徒ニ之ヲ行ヒシト云フ、明治三十年三月ニナリマシテ、文部省ノ訓令ヲ以テ『學生生徒身體檢査規程』ナルモノヲ定メラレタノデアリマスガ、唯今申ス通リ明治三十三年ニナツテ初メテ今日ノ身體檢査規程、幼兒、兒童、生徒、學生ノ身體檢査ヲ一般ニ實行スル、卽チ學校衛生ノ年中行事ノ一ツトナツタノデアリマス。其後多少此身體檢査ノ內容ニ變動ハアリマシタケレドモ、先ヅ以テ明治三十三年ニ始メタモノト、今日ノト其ノ根本ニ於テ大差ノ無イモノデアル。二十年一日ノ如ク之ヲ行ツテ來テ居ルノデアリマス。

此身體檢査ニ就キマシテ余ノ述ベンスル事ハ(一)日本ノ身體檢査ノ內容ノ說明ト批評(二)夫レカラ身體檢査ト云フ者ハ、元來何フ云フ考ヘニ基イテ遣ラナケレバナラナイモノデアルカト云フコトト、其處デ(三)此二ツヲ對照シマシテ、身體檢査ト云フモノハ從來ノ考ヘデハイケナイ、從來ノ身體檢査ノ原則ヲ徹底的ニ實用的ニ――今日ノ學校衛生ノ目的ニ適スルヤウ――變ヘ、從ツテ其ノ方法ヲ變ヘテ往カナケレバ、今後ノ學校衛生上十分效能ア

ルモノハ得ラレナイト、斯ウ云フ卑見ヲ述ベルノデアリマス、學校衞生ノ實地ノ必要ハ主トシテ小學校ニアリト信ズルガ故ニ、以下身體檢査ヲ論ズルニモ重キヲ小學校ニ置クノデスカラ夫ヲ豫メ諒セラレンコトヲ望ム。

日本ノ身體檢査

夫レデ此日本ノ身體檢査ノ內容其ノモノヲ、最モ能ク現ハシテキルモノハ、現行ノ文部省ノ身體檢査規程デアリマス、地方廳ニ於キマシテハ、其ノ規程ノ範圍內ニテ、更ニ或ハ多少ノ改善ヲ加ヘテ遣ツテ宜シイノデアリマス、夫ハ差支ナイ事ニナツテ居リマス、夫故當局者ノ考ヘニ依リ多少ノ改善ヲ加ヘテ實行シテ居ル所モゴザイマスケレドモ、併シ大體根本ガ文部省ノ規程デアリマスカラ、コノ根本ノ趣意ヲ全ク變更シテモツト良イモノヲ行フト云フコトハ出來ナイ、非常ニ困難ナ事デアラウト思ヒマスガ故ニ、先ヅ以テ、日本全國此文部省ノ規程ヲ標準トシ、夫レニ依ツテ實際ノ事ヲ施行シテ居ラル、事ト思フノデアリマス、詰マリ此身體檢査規程ト云フモノノ內容ヲ評論スレバ、我全國ガ二十年來行ツテ來テ居ル身體檢査ハドンナモノデアルカガ判ル譯デアリマス。

檢査回數

本邦ノ規程ヲ見マスト、先ヅ檢査致シマス回數ト云フモノハ毎年一回デアリマス、元四月ト十月ト二回遣ツタ事モアリマスガ、今ハ一回デアル、之レガ本義デアリマスケレドモ、

臨時檢査

尙ホ臨時ニモ行ハント欲スレバ之レヲ行フ事ガ出來ルノデアリマス、所ガ本邦ノ規程ヲ見マスルト、元來學校衞生ノ表面上ノ方針ト云フモノガ、各學校ヲ通ジテ一視同仁的ニ出來テ居ル、夫レハ大體ニ於テ宜シイケレドモ、サウ云フ狀態デアリマスカラ身體檢査規程モ亦サウ云フ風ニナツテ居ル、夫レデ小サイ子供ニシマシテハ滿六歲ニナツテ四月ニ初メテ學校ヘ就學シタル者、夫レカラ又既ニ成年者デ帝國大學ヘ這入ツタ者モ、同ジヤウニ同ジ時期ニ同ジ內容ニ依テ大差ノ無イ遣リ方ヲ取ツテ居ルヤウナ譯デアリマス。

就學兒童

併シ最モ必要ナノハ、初メテ學校ニ就學シタ者デアル、夫レ迄ハ學校ニ於テハ嘗テ毫モ取リ扱ツタ事モナケレバ、見タ事モ無イ者ヲ、茲デ、始メテ學校ガ受取ルノデアリマス、是レカラ其ノ者ノ心身ノ狀態ヲ基トシテ、學校ノ授業上ノ取扱ヒ注意ト云フモノヲ始メテ往カナケレバナラヌノデアリマスガ故ニ、始メテ這入ツタ者、殊ニ義務教育ニ於テ吾々ガ國家ノ仕事トシテ學校衞生事業ヲ行ヒマスルニ、四月ニ這入ツタ新就學兒童ニ對シテ非常ニ重キヲ置カネバナラヌ事トナリマス、所ガ本邦ニ於キマシテハ、サウ云フ觀念ガ身體檢査規程ニ何等現ハレテ居ナイ、初メテ這入ツタ者モ次ノ二學年、三學年乃至六學年ノ者モ同ジ考ヘデ、同ジ方法デ、サウシテ又其意義ニ輕重無クシテ遣ルヤウニ見エテ居リマス、此點ガ本邦學校ノ身體檢査上特ニ注意ヲ乞ハネバナラヌ事ト思ヒマス、又其次ニハ規程ノ第四條、第六條及第七條ニ現ハレテ居ル事項デ、身長、胸圍、體重ト云フ事ノ測定ニ可ナリ重キヲ置イテアルヤウニ見エマス、此身長、胸圍、體重ノ關係換言スレバ兒童ノ發育ト云フ事ニ重キヲ置イテ居ルノデアリマス、私ハ確ニサウ見テ居ル、隨ツテ此發育ノ爲特ニ體格ト云フコトガ現ハシテアル。

發育

體格

體格ト云フ事ハ文字カラ見レバ、何ウシテモ形ノヤウニ思ハレル、サウシテ質デハ無イ

ヤウニ見エマス、但シ之レハ絶對ニソウトハ云ハヌケレドモ、ト云フノハ此本邦規程上體格ト云ヒ中ニ幾分カ質ガ這入ッテ居リマス、即チ此體格ト云フモノヲ評價スルニ當リテ強健中等薄弱ト云フ事ガ稱ヘテアル、之レハ主トシテ身長、胸圍、體重ノ關係即チ發育ノ關係カラサウ云フ評定ヲ下スノデアリマス、ケレドモ尚ホ斷リ書トシマシテ他ニ疾病狀態ノアルト云フ者夫レヲ幾分カ加味シテ、サウシテ強健中等薄弱ノ評點ニ幾分カ上下ヲスルノデアル(明治三十四年通牒)其身體ノ疾病狀態ト云フ事ハ、形ト質ト何レニカト申シマスレバ、確ニ質ノ方ニ屬スルモノト言ハナケレバナラヌガ、先ヅ大體、身長、胸圍、體重ト云フ機械デ測定ノ出來ルモノヲ基ニシテサウシテ、此上ニ幾分カ種類ノ異ッタモノヲ加ヘ、夫レヲ綜括シテ體格ノ批評ヲスル、斯ウ云フ規程ニナッテ居ル、此點ガ本邦身體檢査ノ根本ノ意義トシテ、相當ノ特色ガアルト思フノデテリマス、其善惡ハ後ニ述ベマスケレドモ、兎ニ角體格ト云フ事ヲ作ッタノハ本邦ノ特色デアル、良イ點モアル、ケレドモ、又反對ニサウデナイ點モアル斯ウ思フノデアリマス。

視聽力

夫レカラ其他規程ノ内容ヲ調ベテ見マスト、五感ノ機能、吾々ガ生徒ニ授業ヲスルトカ、成績考査ヲスルトカ、色々ナ事ヲスルノニ彼我雙方ニ取リテ最モ重大ナモノハ此五感ノ機能殊ニ視聽デアル、所デ小學校ニ於キマシテハ視力、聽力ト云フヤウナ事ハ重キヲ置テナイ、重キヲ置テナイト云フノハ例ヘバ規程第四條ニ小學校ニ在リテハ視力及聽力二項ヲ檢査スル事ヲ要セズ、但シ著シキ障碍アリト認ムル者ハ此限ニ在ラズト書テアリマスカラ、檢査シナケレバナラヌノデハナク、シナクトモ宜イト云フ事ガ判ル、言ヒ換ヘレバ本邦ノ檢査規程デハ、大切ナモノト考フベキ視聽ヲ輕ンジテアルト申サネバナラヌ、斯ウ云フ點ガアルノデアリマス、夫レカラ、又言語ノ事ニ就テモ何等ノ規程モ注意モ無イノデアリマス、デ、日本人ニハ言語ノ障碍ガ無イカト申シマスト否ナ相當ニアル、決シテ日本ノ兒童ニ言語障碍ガ無イノデハナイ、吃者モ吶者モ無論アル、其他ノ言語障碍モアリマス、又發聲器、官、其物ニ障碍ガアル者モ素ヨリアラフ、鼻腔、喉頭、咽頭、口腔ニ於ケル所ノ發聲、發音ニ關係アル器官ニ故障ノアル者ガアラフ、如此大切ナル言語即チ、意思ノ傳達、表示ト云フ事ニ大切デアル障碍ニ就テノ注意ト云フモノガシテ無イ、之ヲ顧ミナケレバナラヌ缺點デアルト思ヒマス、學校ニ於テハサウ云フ言語障碍ガアルトキハ、授業上ニ差支ガアル、學科成績上ニ大關係ガアル、普通ノ精神能力兒童ニ於テ既ニソウデアル、加之所謂低能者ニハ言語障碍ノ多イモノデアル、ソレニモ拘ハラズ、サウ云フ檢査ハシナイ事ニナッテ居ル、此言語ガ人間ニ大切デアルト云フ事ハ多言ヲ要シマセヌ、正當ニ巧マク言ヒ現ハスト云フ事ハ、自分ノ精神ナリ、又事業ナリニ取ッテ非常ニ必要ナ事デアリマシテ、之レハ小學校ノ生徒ニ限ラズ、誰ニデモ非常ニ大切ナモノデ、恰モ吾々ノ生活上ニ空氣トカ水トカ云フモノガ大切デアル如ク、言語ハ吾々ノ爲ニ大切デアルト思フガ、ソウ云フ事ガ缺ケテ居ル。

言語障碍

運動機關

夫レカラ運動機關、骨、筋、肉ト云フヤウナモノハ、兒童ニ於キマシテハ現ニ盛ンニ發育ス

ル。去年正月見タ子供ガ今年ノ正月ニハ見違ヘルヤウニ發育ヲシテ居ルト云ッタヤウナ次第デアリマス。之ハ今丁度大切ナル發育時期デアッテ、盛ンニ運動ヲスル、是ニ由テ益、發育ヲ促ス、身體ノ自然ノ力ト、自然ノ勢ヒデ筋肉、骨骼ト云フモノガ發育シテ、發育ノ止マル年齢迄進ンデ往クノデアリマス。兒童ニ運動ノ大切ナルコトハ、食物ノ必要ナルト同ジ事デアッテ、生レタ時ノ筋肉ノ量ガ大人ニナル迄ニ非常ナ發達ヲスル。身體ノ中デ最モ發育ノ大ナルモノハ筋肉デアリマスガ、其發達ノ爲メニ子供ハ運動ヲ要スルノデ、從ッテ運動機關ノ檢査ト云フ事ハ兒童ノ爲ニハ非常ニ必要デアルト思ヒマス。ケレドモ、其事ニ重キヲ置イテ居ラス。

**脫腸**

斯ウ云フ點ヲ何ウ云フ譯デ顧ミズニアルカ了解ニ苦シムノデアリマス。夫レカラ兒童ノ運動ニ大關係ノアル脫腸ナド、之レモ兒童時期ニハ大切ナモノデアッテ一度出マシテソレキリ再ビ納マラナケレバ、直ニ生命ニ危險ヲ及ボス、其場合直チニ手術ヲ行ハザレバ生命ニ危險アルノミナラズ、日常ト雖モ此モノノアルガ爲メニ、兒童ガ隨分運動ヲ遠慮スルト云フ點ニ關係ノアルモノデアリマスガ、斯ウ云フモノモ毫モ考ヘテ居ナイ。ザウ云フ條項ガ無イ私ガ本邦小學校デ見タ所デ千二百名位ノ兒童ノ内ニ十人位アリマシタ、多イ所デハ千名ニ十七八人モアル、少クトモ四五名ノ比ニアルト思ヒマス。又之ト他ニ類似シタ事ヲ列擧スレバ、マダアルノデゴサイマスガ、斯ウ云フヤウニ非常ニ大切ト思ハレル事ガ考ヘラレテ居ナクテ、ザウシテ發育ト云フモノニ非常ニ重キヲ置イテアル、夫レデ又檢



**檢査票**

査ヲシタ後、檢査票ヲ調製シナケレバナラヌ、此票ニ適切ナ欄項ヲ設ケル事ハ、非常ニ必要デアル、其所ニ相當ノ事項ヲ載セルト云フ目的カラ起ッテ居ルニ相違ナイ。今其票ヲ見マスト何ガ最モ重キヲ置テアルカト云フト、矢張リ發育狀態、次ニハ眼ノ事ト、脊柱ノ事ガ詳シク載セルヤウニナッテ居ル。一方ニ疾病ノ欄ハ設ケテアルケレドモ如何ナル疾病ニ重キヲ置クベキカハ明示シテナイ、則チ病名ヲ擧ゲタ欄項ヲ設ケテハ無イノデアル、最モ第五條ニ必要ナル疾病素質ノ名ヲ擧ゲテハアルガ、夫レデハ人々ガ載セナイ、必要ナルモノハ、初メカラ欄ヲ設ケテ置クニ非ザレバ必ズ記入ストハ期セラレヌ。一々欄項ヲ設ケテ置ケバ之レハ重イモノダカラ必ズ記入シナケレバナラヌコトガ判ル、恰モ此票ノ眼ニ於テハ兩眼正、左及右眼ニ各正、近、遠視ノ欄項ヲ設ケテ記入スベキヲ示シ脊柱モ同樣ニ又發育モ同樣ニ詳シク分項シテ記入セシメル如シ。所ガ人ノ自由ニ委セテ置イタノデハ必要ナ疾病素質デモ一般ニ夫レガ載セラレルモノデナイ。必ズ載セナケレバナラヌト云フヤウニ欄ヲ設ケテ、ザウシテ夫レヲ必ズ埋メルト云フ事デナイト、實際ニ希望シタ項目ハ得ラレナイデアラウト思ヒマス。先年文部省デ常務ヲ取ッテ居ル時ニ、諸縣ヨリ來ル表ヲ見テ、イツモソウ感ジタノデアル。夫レカラ學校長調製ノ統計表デアリマス(第七條)之ハ前述ノ

**統計表**

檢査票カラ集計スルモノデスガ、第一ニ眼ニツクモノハ、身長、體重、胸圍ガ一番初メニ出シテアッテ、ザウシテ脊柱ト體格トガ夫レニ續イテキル。ソシテ脊柱ノ不正ハ狀態ヲ極メテ詳シク載セル樣ニナッテキル。夫レカラ小學校ヨリ以上ノ學校デハ視力ニ就キテモ、或ハ

**身體檢査**

兩眼正、不正トカ、或ハ片眼正、不正ダトカ詳シタ書タヤウニナツテ居ル、眼ノ關係ハ學校衛生學發達史ノ初メヘルマン、コーン氏時代ノ思想ニ由來シテ居ルト思フ、發育、脊柱、眼ノ三者ガ確ニ詳シタナツテ居ル、之ガ爲メ約四十欄ヲ與ヘテアルニヨツテ明デス、次ニ齒、牙ニ就キテハ、先ヅソレ相當ノ事ガシテアル、當時ノ醫學ノ發達ノ程度、學校衛生ノ發達ノ程度上學校醫執務ノ狀況デ容赦シナケレバナリマセヌカト思ヒマス、併シ今日デハ齒トカ耳トカ云フ事ニ就テモツト考ヘネバナラヌ點ガアルト思ヒマス、其他本邦身體檢査上大ナル缺點ハ小學校ニテ低能其他腦神經關係上大切ナル事項ヲ毫モ顧ミテキナイノデアル精神、神經ヲ除外シテアル事ハ特ニ注意ヲ乞ハネバナラヌト考フノデアル。

「要スルニ本邦身體檢査ノ內容如何ヲ括言センニ、發育ト云フ事ニ非常ニ重キヲ置テ居ル、眼ト脊柱トニ偏重シテアル、サウシテ其他ニ大切ナ事ガ缺ケテ居ル、各個體ハ健康狀態ヲ能ク見得ル事、授業ニ適否如何ヲ見得ル事等ニハ不適切デアル、況ンヤ個體ハ健康恢復ノ善後策ヲ講ジヨウト云フニハ役ニ立チ難イ、又身體檢査ヲシタ結果ハ之ヲ集メテ統計ヲスル、其統計表ト云フ者モ兒童ノ身體ヲ一層良クシテ往ク事、健康狀態ヲ改善シテ往ク事、一口ニ言ヘバ保護上ニ役立ツ事ガ缺ケテキテ、同時ニ役ニ立タヌ事ガ多イト私ハ思ヒマス。ト云フノハ之レハ甚ダ平凡ナ議論デアルケレドモ、余ガ大正三年來種々ノ機會ニ各地方ニ出張シテ、縣郡市當局者、學校醫或ハ、教員等ノ諸君ニ會ツテ聽キマスニハ、到ル所身體檢査ノ統計ヲ十分ニ利用スル方法ヲ攻究シテ居ル、夫レニ就テモ又議論ガアル、何處デモ徹底シタ解決ヲ與ヘタ土地ハ無イ、官廳當局者モ、學校醫モ、教員デモ皆モツト何カ役ニ立ツ方法ヲ發見スル事ガ出來ルノデアラウト云フ考ヘヲ有ツテ居リ、種々骨ヲ折ツテ研究シテ居ラレルケレドモ、何ウモ、成程此學校ノ身體檢査成績、發育統計ト云フ事ニ於テ斯ウ云フ結論ガ出マシタ、之レデハイケナイ、早速學校衛生上斯ウシマセウト、云ツタヤウナ結論ヲ得タ所ハマダ無イノデアル、言換ヘレバ、余ヲ以テ言ハシムレバ之ハ事自カラガ實際ニ困難ナ事デ有ル、又學校衛生ノ爲メニ直グ役ニ立ツ事ヲ見付出スト云フ點モ非常ニ困難ナ事デ、或ハ出來ナイカモ知レヌト思ツテ居ル、其理由ハ一寸六ケシイノデアリマスガ、ヅマリ發育ヲ基ニシマシタ體格ト云フモノヲ評定スルト、身長、體重、胸圍ノ比例カラシテ、强健、中等、薄弱或ハ上中下ノ發育ヲ決メルト云フ隨分六ケシイ事デアル、ト云フノハ、之レハ實際ノ專門家例ヘバ人類學者、或ハ人種學者又ハ解剖學者ノ研究ヲ乞ハナケレバ確言ハ出來マセヌケレドモ、私ノ豫想デハ此日本ノ人種問題ナドニ關係スルト思ヒマス。吾吾ハ決シテ單純ナ人種デハナイ、大和民族ト稱ヘテ居ルガ人類學者ノ研究ニ依リマスト、日本ニハ「アイヌ」人ガ始メニ居ツテ、漸次追ハレテ、今北海道、千島邊リニ殘ツテ居ル「アイヌ」ヲ追フタ人類ハ何處カラ日本ヘ這入ツテ來タカト云フト蒙古カラ二回ニ入ツテ來タ。

第一回ニ這入ツタノハ社會的ニ低イ方ノ人種デアル、卽チ出雲民族デアル、第二回ニ這入ツテ來タノガ天孫人種デアル、卽チ出雲民族デアル、第二回ニ這入ツテ來タノガ天孫人種デアル、高イ階級ノ「モンゴーレン」デアル、又其他ニ日本人ノ先祖中ニハ南洋ボルヲオ、スマトラ邊リノ人種ガ這入ツテ居ル、之レモ確カデアル、夫レカラ「モ

ンゴーレン」ト申シマシテモ、支那、朝鮮ト云フヤウナ少シ模樣ノ違ッタ者モ矢張リ這入ッテ居ルヤウデアル、又印度人モ這入ッテ居ルカモ知レヌ、夫レデ之レガ歐羅巴ノ純粹ノ獨逸人ダノ、或ハ佛蘭西人ダノ、或ハ露西亞人ダトカ云フ者ヲ見ルト同ジ考ヘデハ見ラレナイ、顏ダケ見マシテモ色々ノ型ガ見ヘテ相違シテキル。吾々ハ日本人日本人ト思ッテ居ルガ、精神ハ日本人ニ相違ナイガ、立派ナ日本人デアルケレドモ、人種トシテハ或ハ比較的ニ混合リ少ナイ者ト、又ヨク混合シテ居ルノトアラウト思ハレマス。夫レカラ又此發育ト云フ事ハ生活狀態ニ依ッテ、相當ニ影響ヲ被ムルモノデアル。季候地勢ニモ關係スルハ勿論デ、消極的ニ色々ナ事ガ影響ヲスルノデアリマス。サウ云フモノガ働イテ、今日ノ所謂日本人ト云フ者ヲ築キ上タノデアル。夫レヲ平等的ニ測定シテ來テ居ルノデアリマスガ、尙ホサウ云フ日本人ノ中ノ色々ノ種類ノ者ハ、土地ニヨッテ或ハ群居シ、或ハ散在シテ居ルト思ハレマス。夫レヲ一々探シテ證據ヲ擧ゲルト云フ事ハ困難デアリマスケレドモ、或地方ニ參リマスト、例ヘバ「アイヌ」系ノヤウナ者ガ比較的多ク現ハレテ居ル、又或地方ニ參リマスト顏ノ廣イ、下唇ノ厚イ、鼻ノ平タイ、南洋種ノヤウナ者ガ擴ガッテ居ル所モアル。又私ノ鄕里ノ出雲邊リヘ參ルト土地ガ不便デ、昔カラ其處ニ潛ンデ居ッタノデアルカラ、朝鮮人ニ似タ一定ノ顏ノ形ヲ見ルト云フヤウナ事ガアリマス。其上ニ生活狀態カラノ影響ガ違ッテ居リマスカラ、夫レヲ平等ニ測定ヲシテ居リ、其モノヲ統計シテ、日本人ノ發育ノ標準ハ直ニ玆デアルト云フ事ハ、易クハ決メラレヌカト、斯ウ考ヘテ居ルノデス。之レハ少シ大膽ナ言ヒ現シ方デアルガ、只今迄ノ所デハサウ云フ考ヘヲ有ッテ居マス。現在小サイ所ニシマシテモ例ヘバ恐ラクハ多クノ縣ニ置キマシテモ、海岸地方、平野地方、或ハ山地ナドト云フ所デ、夫々統計ヲシタモノヲ比較スレバ、多分各平均各標準ガ違フダラウト思ヒマス。事實上、是迄私ハソウ云フ傾向ノアル事ヲ知ッテ居リマシテ今材料ヲ集メテキマス。夫レデ、夫レガ非常ニ生活狀態ガ違フトカ、或ハ人種ガ違フトカ云フモノト想像シマシテ、夫レヲ一ツニ平均シテ、之レガスグ日本ノ滿六歲ノ發育年齡階級ノ者ノ標準ダ、七歲ノ標準ダ、八歲ノ標準ダ、此標準ニ各地方ノヲ對比セヨト云フ事ガ直ニ出來ルカドウカト、余ハ疑問ト考ヘル。併シ小區域間ニ於テハ事實上大差ハナイカモ知レヌガ、今云フ如タ日本全體ヲ統計シテ平均シ之ヲ標準トスルト云フヤウナ事ハ、モウ少シ調ベテ見マセヌト判ラヌケレドモ、夫ハ少シ無理デハナイカト思フ。夫レデ文部省ノ統計卽チ、全國ノ統計ヲ基ニシテ、サウシテ各地方ノ學校デ僅カ千人カ二千人カ位ノ者ヲ平均シテ文部省ノモノニ持ッテ往ッテモ、却々當ラナイト云フ事ガ起ッテ來マス。「一體夫レハ何ノ爲メニサウ云フ事ヲスルノデアルカ、其考ヘヲ私ハ聽キタイノデアリマス。」本邦學校衞生ノ歷史ニ於テ身體檢査規程ヲ作ル頃ニハ文部省ニ學校衞生顧問會議ヲ設ケラレタノデアリマス。其顧問ノ方々ヲ見マスト種々ノ方面ノ學者ヲ網羅シテアリマスガ、其中ニハ衞生學者ハ固ヨリ其他ニ解剖學者モアリ、人類學者モ有ッタノデアリマス。之レハ、恐ラクハ身體ノ健康ト云フ考ヘデ、强健、中等、薄弱ナドト云フ事ヲ割出スト云フ考ガ主デハナク、發育ト云フモノヲ能ク調

ベテ夫レヲ研究シテ往カウ何ントカ良規程ヲ作ラウト云フ考ヘデアツタラウト思フ。ザウナクテハ學校衛生ノ規則ナリ、實行ナリニ直接人類學者、人種學者、解剖學者ト云フ專門ハ要ラナイ、素ヨリ關係ノ有ル學科デアリマスカラ之ガ有ツテ差支ハ無イガ、併シ、ナケレバナラヌト云フ程必要デナイ、夫レデ恐ラクハ、夫迄、此本邦ノ發育期ノ人間、卽チ兒童ト云フ者ガ何ウ云フ風ニ發育シテ往クモノデアルカト云フ事ハ他ニ調ベル道ガ無イ、唯學校ニ於テノミ調ベ得ルモノデアル。外國ニ於テモサウ云フ事ヲ調ベテ居ル、夫デ日本ノ學問トシテモ、日本人ノ發育狀態ヲ明ニスル事ハ必要デアル。本邦醫學全體ノ爲メニモ必要デアル。而モ之ハ學校ヲ除イテハ、ザウ云フ事ハ見得ラレナイカラ、夫レヲ見ヤウト云フ考ヘデアツタデハナイカト、推定シテ居ルノデアル。又其當時ノ當局者デサウ云フ事業ノ中心デアツタ三島博士ハ、殊ニ日本人ノ健體兒童――疾病ノ無イ健康ナル兒童――ノ發育ヲ研究シタ人デアル。其處デ斯ウ云フヤウナ發育ノ下ニ於テ、夫レヲ基ニシテ、强健、中等、薄弱ト云フ事ヲ出シタノデアルト思フ。此ノ强健、中等薄弱ノ批評モ元ハ餘リ但書ガ這入ツテ居ナカツタガ、後ニナツテ幾ラカ之ガ加ツテ來タ實際論トシテハ、發育ガ良サウデモ、病氣ヲシタリ色々ナ者ガ出テ來ル。サウ云フ者ガ出テ來ルカラ家ノ子供ハ學校ハ强健トシテアルガ、始終病氣デ休ムト云フヤウナ事デ、體格ノ批評ハ强健ダケレドモ、人間ハ强健デナイト云フヤウナ事ニナル。夫レデ但書ヲ追加シテ發育ノホカニ色々ナモノヲ加味スル。夫レデ形ニ質ヲ加味スルト云フ事ニナル。之レハ一寸異ツタ二ツノモノヲ混合スルヤウナ事ト思フ。夫レデ妙ナモノガ出來ル。六ケシイ事ヲサセル事ガ餘計ニナルト思フ。夫レデ此發育ヲ見ルト云フ事ハ昔非常ニ必要デアツタ。今モ矢張必要デアル。夫レヲ繼續スル必要ハアルト思フガ、其他ニ之ト變ツタ、必要ナ事ヲ附加ヘナケレバナラヌ。發育ト云フ事ハ今日ノ學校衛生ニ於テ夫程重キヲ置ク必要ハナイ。マダ他ニ重キヲ置クベキモノガアルト、サウ考ヘルノデゴザイマス。最モ茲ニ斷ツテ置クベキハ發育ノ良イ者ニ健康ナリ、學科ナリノ良イ者ガ多イト云フ事實デアル。此事ハ敎授衛生篇デ別ノ意義デ論ズベキモノデアル。ソレデハ身體檢査ニ於テ從來ノ發育ヲ見ル法ハ如何ニスルカハ後ニ述ベル。

身體檢査後ノ處置

次ニ身體檢査ニ就キマシテ、本邦ニ於テハ御承知ノ通リ檢査ノ仕放シデアル。後ノ面倒ヲ見ナイ、特ニソウ書イテハナイガ、檢査後ノ善後策ハ指定シテ無イ、之ガ本邦身體檢査上最モ改善スベキ事ノ一ツデアル。檢査ヲシテ其時ダケドウカスルカモ知レマセヌ、或ハ熱心ナ校長、校醫ガ揃フタ場合ニハ相當ノ處置ヲシテ居ル事モアラフガ一般ニハ、統計ニナツタダケデ、繼續シテ何ノ兒童ハ今年ノ檢査デ斯ウデアツタカラ、來年迄其人間ヲ何ウシテ遣ルト云フヤウナ事ハ實行スル主義デナイ、又來年見テ斯ウ云フ風ニナツタ、夫レデハ其次ノ一年間ハ斯ウ云フ方針デ取扱フト云フヤウナ事ハ本邦ノ規程ニ無イ。

職線的衛生監督

## 第二

右述ブル所ニヨリ身體檢査ハ從來ノ通リデ良イモノデアルカト問ヘバ余ハ大ニ否ト

答ヘル、此點ハ大ニ改善セヲバナラヌト申スノデアル、何ウ云フ風ニ變ヘルカト言ヒマスト、各兒童ノ衞生監督ヲ繼續的ナラシムルト云フ方針デヤラヲバナラヌ、身體檢査ノ成績ヲ標準トシテ之ニ發足シ以テ兒童保健ノ策ヲ定メルノデアル。

以上ノ理由ニヨツテ身體檢査ノ考ヘナリ方法ナリヲ變更セヲバナラヌ、夫ニハ先ヅ身體檢査ナルモノヽ基礎觀念、定義ヲ設ケ其目的ヲ明ニシタイ。

身體檢査ノ定義目的

先ヅ第一ニ　精神、身體ニ少シモ變ツタ事ノ無イ健康者ヲ標準トシテ之ニ對比シテ兒童ニ於ケル總テノ病的障碍及ビ異常ノ有無ヲ判別決定スル事。

第二　疾病及異常ノアル者ハ學校ニ對シテ、又學校ノ授業ニ對シテ、尙又同級生ニ對シテ、何ウ云フ意義ヲ有ツテ居ルノデアルカ、如何ナル影響ヲ及ボスモノデアルカト云フ事ヲ判定シナケレバナラヌ。此學校ナリ同級生ニ對シテト云フノハ、例ヘバ傳染病ナラバ傳染スルト云フ事ガ矢張リ學校及同級生ニ對スル關係ヲ起スノヲ云フ、又授業ニ對シテト云フ事ハ、何デアルカト云フニ、或ハ異常―或病的障碍ヲ有ツテ居ル兒童ハ、事ニ依レバ授業ヲ受ケル事ガ出來ナイ、受ケテモ何モナラナイ、授業ノ效果ガ無イ、同時ニ精神、身體ヲ一層惡クスルト云フヤウナ關係ガアルノヲ云フ凡テ夫等ヲ吟味決定スル。

第三　ニ疾病障碍ヲ除却スル、若クハ之レヲ輕減スル爲ニ適當ナル方法ヲ指定スル、病氣或ハ何カ變ツタ狀態ニアル者ハ治サナケレバナラヌノデ夫ヲ指定スル、或ハ又他ニ其狀態ヲ輕クスルニハ斯ウ云フ方法ヲ執ルベシト云フ事ヲ指定スル、余ハ此三ツノ事ヲ考ヘテ身體檢査ヲ遣ツテ往カヲバナラヌ、此考ヲ基トセヲバナラヌト論究シテ居ルノデス。

本邦ノ規程ニ置キマシテハ是等ノ點ガ甚ダ不充分ダト考ヘラレル、サテ病的障碍、異常狀態デアリマスガ、元來病氣ノ種類ダノ異常狀態ナドト云フモノハ澤山アツテ一々夫レヲ記載スルト云フ事ハ到底出來ナイ、又仕ナクトモ宜シイ、其中ノ學校ノ兒童―授業ヲ受ケル兒童―發育シツヽアル人間ト云フ觀念、學校衞生上重要ナ疾病障碍異常ト云フ要約ノ下ニ割出セバソレデ重モナルモノハ定マツテ來ル、ヨク判ツテ居ル、此ノ要約ガ大切デアル、今一ツノ事項ヲ取ツテ夫ガ之レニ相當スルカ何ウカ、最モ重イ意義ノアルモノト思ハレル事ヲ臚列シテ、夫ガ之レニ合フカドウカ、此中ノ何レカト云フ事ヲ定メルノハ仕事ヲ遣ツテ往ク上ニ決シテ六ケシイ事デナイ、醫者ノ方デ十分出來ルノデアルカラ、之レヲ遣ラナケレバナラヌ日本ノ遣方ハ、大切ナ事ガ缺ケテ居ル、殊ニ、授業關係、同級生ニ對スル關係ト云フヤウナ事ハ、能ク考ヘテナイ、注意シテナイ、ザウイフ觀念ハ少カツタモノト見エマス、夫レカラ又、第三ノ善後策ト云フ事ニ就テハ、本邦デハ唯ダ學校長ハ檢査ノ結果ヲ保護者ニ示スベシトアル(第六條)是デハ十分效果アル方法トハ思ハレナイ、然シ余ガ斯タ申サバ、ソレハ餘リ面倒ナ事デ出來ヌ仕事ダト言フ人ガアルカモ知レヌガ、余カラ云ヘバ色々ノ關係事項ヲ整理シテ往クトキハ之ガ漸次出來得ル事ト思フ、又現ニソレニ近イ事ヲ、近年稀デハアルケレドモ日本デ遣ツテ居ル所ガアルカラ決シテ出來ナイ事ハナイ、遣ル事ニナレバ出來ルノデ、出來ヌト云フノハ爲サヾルノデアル、爲ス意ガ無イノデアルト、

斯ウ考ヘテ居ルノデアル。

本邦ノ身體檢査ニ於テハ要スルニ右ノ第一ハ包含シテ居ルガ不十分デアル。第二ハ餘リ含マレテ居ナイ。第三ハ殆ンド無イ甚ダ不徹底デアルト信ズ。

就學檢査

## 第三

ソコデ右ノ如キ點ガ缺ケテ居ルノデアルカラ改善ヲシナケレバナラヌ。其改善ニ就テハ第一條何ウスル第二條何ウスルト云フ條文的ノ事ハ特ニ述ベナイガ改善ノ必要ハ大體今迄述ベタ事デ略諒解シ得ルト思フ。依テ其他ノ必要ナ事點ニ就テ述ベマス。

先ヅ新就學者デアリマスガ前述ノ通リ身體檢査上重要ナ者デアリマス。學校ガ初メテ當人ノ身體ノ檢査ヲスル。

其檢査ノ成績ニ基イテ、コレカラ以後取扱ヲ如何ニスベキカヲ判知スルノデアル、何ウカシヤウ、惡イ點ヲ良クシテ遣ラウト云フ爲メニ檢査スル、若シ夫レデナケレバ身體檢査ヲ遣ラヌ方ガ良カラフト言ッテモ仕方ガ無イダラウ、各學年身體檢査中デ殊ニ學齡ニ達シテ入學シタ者ニ重キヲ置カナケレバナラヌ。他ノ學年ハ此次デ、新就學者ガ一番大切デアル。



就學前檢査

夫レニ就テハ學校ヘ初メテ這入ッテ來タ時ノミナラズ、這入ル前ニ檢査スルノガ一層徹底的デアル。之ヲ就學前檢査(又ハ豫備檢査)ト云フ、就學後直ニ行フノハ就學檢査ト云フ。

抑、遡ッテ見レバ吾々ノ身體ハ學校ヘ入ルマデ種々ノ影響ヲ受ケテ居ル。兩親及其前ノ尊族ノ遺傳關係モアレバ又生レタ時ノ哺乳狀態カラモ影響ヲ被ル、其後ノ生活、疾病ノ經過等ノ事デ夫々影響ヲ受ケテ居ル。若シ產前、產後ノ模樣、言ヒ換ヘレバ遺傳ノ關係及ビ生後ノ生活要約トカ疾病ノ經否ト云フ事ガ判レバ、此小供ヲ學校ニ受取ッタ後ニ甚ダ都合ガ好イ。是ハ當然ノ話デ、身體ノ健康上許リカラデナク、他ノ精神方面、卽チ敎授ヲシテ往ク上ニモ非常ニ參考ニナル、夫故ニ學校ニ於テ初メテ這入ッテ來ル者ニ對シテモ健康狀態、經過シタ疾病ナド色々以前ノ歷史ニ付キ保護者ニ記載ヲ求メテ、學校デ夫レヲ調ベル、斯ウ云フ事ハ獨逸、墺地利其他デハ近年一般ニ行ハレテ居ル、一定ノ質問欄ヲ設ケ之ニ保護者ノ記入ヲ求メル、之ヲ學校ノ「質問事項」ト云フ、之ハ就學檢査ノ爲ニ大イニ參考ニナル。中ニハ頭ノ無イ保護者モ澤山アルカラ、書方ガ惡カッタリ、事柄ヲ忘レテ居タリシテ、皆ガ皆役ニ立ッモノデハ決シテ無イガ、併シ相當ニ役ニ立ッ、不審ガアレバ母親ヲ學校ヘ喚ンデ聽クト云フ事ニモナル。或場合ニハ學校看護婦ヲ送ッテ問合セル。此質問事項ト云フモノハ、兒童ヲ學校ヘ出ス前ニ、學校カラ印刷物ヲ以テ保護者ニ何ウ云フ風ニ書イテ呉レ、何時持ッテ來テ呉レト云フ注意モ書イテアル。若シ字ガヨク書ケナケレバ口頭デ言ッテ呉レテモ宜シイト色々ナ注意ガシテアル。

質問事項

質問スル事柄ハ例ヘバ產ノ經過トカ、生後ノ哺乳、人

工業養トカ、何時歩行シ始メタトカ、言語ノ發達ハドウデアルカトカ、此子ハ近視カ何ウカ、サウ云フヤウナ質問ガ書イテアル。之レハ能ク注意シタ家庭デナイト答ガ出來ナイ事モアル。ケレドモ、何々ラシイト云フ返辭ヲ得ルコトガ屢〻アル。或ハ斜視デハナイカ、或ハ耳ガ遠イ事ハナイカ、或ハ吃リハセヌカ、肺ヲ患ツタ事ハナイカトカ、心臟ノ病氣ハナイトカ、或ハ脫腸ト云フヤウナモノハナイカ、脊ガ曲ツテハ居ナイカ、其他不具ト思フヤウナ點ハナイカ、或ハ口腔、咽頭、鼻ナドニ何カ變ツタ模樣ハ無イカ。皮膚病ハ何ウデアルカ、癲癇ヲ遣ツタ事ハナイカ、此癲癇ト云フ事ハ身體檢査ノ中デ大切ナ事デアリマス。檢査時ニ起サナイデモ癲癇持デアルト云フ事ヲ知ツテ居ル事ハ非常ニ大切ナ事デアリマス。夫レカラ精神ノ發達ガ年齡ト相當デアルカ何ウカ、何ウ保護者ハ考ヘルカ、或ハ寧ロ精神ノ發達ノ方ガ遲レテ居ルト思ハナイカ、サウ云フヤウナ事ヲ質問事項トシテ保護者ニ問合ス、斯ウ云フ事ハ一般ニ行ハレテ居ルノデアリマス。此物ハ就學前檢査ノ爲ニモ就學檢査ノ爲ニモ役ニ立ツノデアリマス。茲ニ二三ノ「質問事項」ノ示例スレバ、

質問事項ノ例示

（一）名古屋市

## 調書

第　學年

家

一、御職業ハ何デスカ、成ルベク詳シクオ書キ下サイ。

一、御兩親ガアリマスカ、實父母デスカ、何歲デスカ、御酒ヲ飲ミマスカ。

一、御同居ノ祖父母、伯叔父母ヲオ書キ下サイ。　人

一、御同居ノ兄弟姉妹ノ人數ヲオ書キ下サイ。　兄　人　姉　人　弟　人　妹　人

一、召使ノ人數ヲオ書キ下サイ。　男　人　女　人

一、何カオ子樣方ニ惡イ影響ヲ與ヘルモノガ御近所ニアリマセンカ。

一、御家庭ノ躾ハ嚴ノ方デスカ、寬ノ方デスカ、主トシテドナタガ躾ヲ致シマスカ。

一、其他何デモ參考トナルコトハオ書キ下サイ。

庭

一、オ子樣方ノ教育上學校ニ御希望ガアリマスレバ御遠慮ナクオ書キ下サイ。

一、コレマデ特別ノ御教育ヲ致シマシタカ。

—

兒

一、フダンドンナ遊戲ヲ好ミマスカ。

一、寢、起ハ何時頃デスカ熟睡シマスカ。

一、ハギリ、子小便、オビエ、イビキナドヲ致シマセンカ。

| | 備考 |
|---|---|
| 一、食物ニスキ、キラヒガアリマセンカ。 | |
| 一、小使錢ヲオヤリニナリマスカ、何程位デスカ。 | |
| 一、何カ惡イ習癖ガアリマセンカ。 | |
| 一、出生時ニ何カ變リタコトガアリマセンデシタカ。 | |
| 一、耳、鼻、目、口ナドニ故障ガアリマセンカ。 | |
| 一、大病ニ罹カラレタコトガアリマセンカ、何歳ノ時、ドンナ病氣デシタカ。 | |
| 一、今、何カ病氣ニ罹リテ居リマセンカ。 | |
| 一、フダン罹リ易イ病氣ヤ持病ナドガアリマセンカ。 | |

（著者說明　本調書ハ大正六年度ヨリ名古屋市ニテ使用セラル）

# 質問事項



學校名

保護者殿　　本校ハ貴兒ノ御性質ヲ承知シ教育上ノ參考ニ供シ度候ニ付テハ御手數ナガラ此質問欄ノ各項ニ對シ御答被下三日以内ニ御返事被下度願上候

本校教員ハ御都合ニ依リテハ此質問事項ニ對スル御答ニ御手傳仕ルベク候間若シ此質問欄ニ御記入御差支ニ候ハヾ御出頭ノ上教員ヘ口頭ニテ御申入レ被下候テモ宜敷候

| 質問 | 答 |
|---|---|
| 兒童氏名 | |
| 生年月日 | |
| 出生地 | |
| 種痘 | |
| 再種痘 | |
| 父ノ氏名及職業（又ハ母若シクハ養父母等ノ保護者） | |
| 疾病ヲ經過シ又ハ手術ヲ受ケタルトキハ其ノ事柄及何歳ノ時ナリシヤ上記ノ爲メニ患リシ後害アリヤ何ナリヤ | |
| （例聽力障碍……） | |
| 貴兒ニ次ノ故障アリヤ | |
| 1 近視ナリヤ | |
| 2 斜視ナリヤ | |

| | |
|---|---|
| 3 耳遠キヤ(重聽) | |
| 4 吃ルヤ | |
| 5 肺ニ病氣ナキヤ | |
| 6 心臟病ナキヤ | |
| 7 脫腸ナキヤ | |
| 8 脊柱彎屈ナキヤ | |
| 9 其他ノ不具ナキヤ | |
| 10 口腔、鼻腔及鼻ニ異狀故障ナキヤ | |
| 11 皮膚病ナキヤ | |
| 12 癲癇ナキヤ | |
| 13 年齡ニ相當シテ精神ガ發達スト思ハルヽヤ | |
| 14 又ハ精神ノ發達遲レタリト思ハルヽナラバ其理由 | |

住所　　年月日　　記名

(備考) 記名ハ父母組父母又ハ之レニ代ルベキ保護者又ハ家庭醫或ハ教員等記入シタル人ニヨリナスベキコト

著者說明　此質問事項ハ大正三年來文部省學校衛生講習會ノ例示ニ用ヒタルモノニシテ原本ハ獨逸國內ニテ廣ク用ヒラルヽモノナリ

(四)ベルリン

墺國ベルンドルフニテ用フル質問事項ニ於テモ亦大ニ參考トナルベキ事項アリ左ニ之ヲ掲グ

一、兒童氏名
二、生年月日
三、就學セル學級
四、父又ハ親權者ノ氏名及職業
五、兩親ノ月收入
六、住居ノ室數(室所共)並ニ居住者員數
七、住居ハ明ルキカ又ハ暗キカ乾燥カ濕潤カ
八、健在セル且ツ現時尙キ自カラ勞作收入ヲ有セザル兒童數
九、母自ヲラ授乳セル期限
一〇、何時初種痘セシヤ何時再種痘セシヤ
一一、何歲ノ時步行ヲ始メシカ
一二、何歲ノ時第一ノ齒ヲ生ゼシヤ
一三、此兒童ニハ次ノ病氣ニ罹リシ事アリヤ
(イ)生レタル歲ニ鴉加答兒アリシヤ
(ロ)恐怖症
(ハ)佝僂病

(ニ)聲帶ノ痙攣
(ホ)皮膚ノ發疹
(ヘ)腫脹腺
(ト)眼　炎
(チ)麻　疹
(リ)猩紅熱
(ヌ)假　痘
(ル)實扶拯里
(ヲ)百日咳

一四、右ノホカニ罹リシコトアリタル病氣如何
一五、罹リタル病氣ガ後ニ尙ホ殘リシコトナキカ
一六、今度々咳嗽セザルヤ
一七、父、母又ハ兄弟ガ現ニ肺病ニアラザルヤ
一八、此兒童ハ年齡相當ノ身體ナルヤ或ハ發育ガ遲レ居ラザルヤ
一九、幼時ヨリ脊ガ眞直ナリシカ、姿勢良キヤ
二〇、骨ニ病氣ナキヤ
二一、視力ハ十分ナリヤ



(二二)聽力ニ故障ナキヤ
(二三)常ニ口ヲ開ケテ呼吸スルヤ、夜いびきヲナサヾルヤ
(二四)吃ラザルヤ或ハ其ホカ言語ニ變リナキヤ
(二五)脫腸ハナキヤ
(二六)癲癇ハナキヤ其ホカ神經ノ病氣ハナキヤ
(二七)心悸亢進ハナキヤ
(二八)消化竝ニ便通ハ普通ナリヤ
(二九)右ノホカ何等カ病氣ヲ有セザルヤ或ハ畸形ナキヤ
(三〇)年齡相當ニ精神ガ發達セリト考フルヤ又ハ遲レ居ルヤ

兩親又ハ代理者　署名
家庭醫　署名

就學ニ不適當ナル體質

**就學前檢査**ハシヤロッテンブルグニ於ケル成績デハ就學期少シ前ノ兒童ニ於テ十二%ハ心身共成熟ニナツテキナイ事ガ判ツタノデス。夫デ同市デハ如此者ヲ集メ衞生幼稚園ヲ作ツタノデス、半年乃至一年スレバ成熟シ健康トナツテ小學校ニ入リ得ルヤウニナル其他ニアリテハ未成熟者六%以上アリ、土地ニヨリテ多少ノ差異ヲ免カレズ。

學齡ニ達シテモ如次身體ノ者ハ就學セシムレバ體ノ爲ニ惡イ。

全身病。腺病。榮養不良。佝僂病。貧血。傳染病後。重キ內臟病。

右ハ就學猶豫トスル方ガ學校及當人共ニ利益ナリ、如此兒童ヲ就學セシメタル經驗ニヨレバ、男女共身長增加セズ、又體重增加率ガ同年齢ノ普通兒ノ最少限ニ達セズ其榮養ガ侵サル、コトハステファニー氏ノ報告ニテ知ルベク、又一般ノ就學第一學年ハ普通兒童モ影響ヲ被リクッルスフェルド氏ノ報告ニヨレバ男ノ一六%女ノ二五%ハ體重減少シ、男ノ三〇%女ノ四四%ハ體重增減ナシ、以テ參考トスベシ



◉大正七年度茨城縣就學兒童健康調査體質等位百分率比較表

| 郡市 | 小學校數 | 調査實施小學校數 | 就學兒童數 | 調査實施兒童數 | 同上男人員 | 同上女人員 | 體質等位百分率 甲 | 乙 | 丙 | 丁 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 水戸 | 四 | 四 | 七四六 | 七一六 | 三五〇 | 三六六 | 五六・二九 | 四五・六三 | 三四・五七 | 九・一四 |
| 東茨城 | 五〇 | 五〇 | 二八一五 | 二六六八 | 一二九六 | 一三七二 | 五四・七一 | 四七・四五 | 三一・六四 | 九・二九 |
| 西茨城 | 二五 | 二五 | 一七二四 | 一五八六 | 八二七 | 七五九 | 五七・三二 | 三六・三七 | 二九・〇二 | 一・五七 |
| 那珂 | 四五 | 四五 | 二七八七 | 二五三八 | 一二九八 | 一二四〇 | 五七・七九 | 五五・八一 | 二八・五八 | 一二・九四 | 一六・六〇 | 一四・二七 | 一三・八八 | 〇・四四 |
| 久慈 | 六九 | 六九 | 二七四七 | 二五五三 | 一一九一 | 一三六二 | 六四・〇六 | 二一・九九 | 一三・五二 | 〇・四二 |
| 多賀 | 三九 | 三三 | 二一二四 | 二一二四 | 一一一九 | 一〇〇五 | 五〇・〇四 | 三一・五八 | 一八・三二 | 〇・〇九 |
| 鹿島 | 三六 | 三五 | 一八八四 | 一六六六 | 八〇九 | 八五七 | 五六・九八 | 四八・二六 | 一一・三二 | 〇・一〇 |
| 行方 | 三三 | 三二 | 一二六五 | 一二一五 | 六一三 | 六〇二 | 五四・九八 | 三六・三八 | 八・四八 | 〇・一六 |
| 稲敷 | 五〇 | 五〇 | 二二三六 | 二一五三 | 一〇六一 | 一〇九二 | 四八・三六 | 三六・〇九 | 一五・五五 | — |
| 新治 | 五六 | 五六 | 二七七一 | 二七三〇 | 一三〇一 | 一四二九 | 五七・六五 | 二六・七五 | 一四・六〇 | 一・〇〇 |
| 筑波 | 四三 | 四三 | 一九〇〇 | 一八八三 | 九五二 | 九三一 | 四八・七七 | 四三・六九 | 一三・〇三 | 〇・一一 |
| 眞壁 | 三七 | 三七 | 二八二六 | 二七〇五 | 一三三一 | 一三七四 | 五一・七五 | 二八・二六 | 一九・四六 | 〇・五三 |
| 結城 | 三〇 | 三〇 | 二五五二 | 二三四二 | 一一七五 | 一二七七 | 四八・二五 | 四六・七二 | 三二・五三 | 二〇・〇九 | 〇・一五 |
| 猿島 | 三〇 | 三〇 | 二五七八 | 二五二八 | 一二五一 | 一二七七 | 五六・四三 | 四五・四一 | 三三・三三 | 二〇・六五 | 〇・六〇 |
| 北相馬 | 二六 | 二六 | 一一七四 | 一一一三 | 五四三 | 五七〇 | 四七・三七 | 三四・三八 | 一三・八一 | 〇・五五 | 〇・一八 |

| 總計 | 五七三 | 五六五 | 三二・九 | 一〇五・一〇 | 一五三七二 | 五五・八五 | 三〇・三三 | 一三・三八 | 〇・四四 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 一五一四八 | 五一・一五 | 三三・〇九 | 一五・一九 | 〇・四七 | |

備考

一、甲ハ發育榮養可良ニシテ疾患ナキモノ　乙ハ發育榮養共ニ普通ニシテ傳染性疾患又ハ持久性疾患ナキモノ　丙ハ一、發育榮養共ニ不良ナルモノ二、傳染性疾患アリ入學前加療ヲ要スルモノ三、持久性疾患又ハ視力聽力言語四肢運動等ニ障碍アリ養護竝授業上注意ヲ要スルモノ　Tハ瘰癧白癡不具廢疾等ニテ就學ニ堪ヘザルモノ

## ◉大正七年度茨城縣就學兒童健康調査成績百分率比較表（男）

| 郡市 | 水戸 | 東茨城 | 西茨城 | 那珂 | 久慈 | 多賀 | 鹿島 | 行方 | 稻敷 | 新治 | 筑波 | 眞壁 | 結城 | 猿島 | 北相馬 | 總計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 檢査人員 | 三五〇 | 一三九六 | 八二七 | 一三九八 | 一三六三 | 一一一九 | 八五七 | 六一三 | 一〇九三 | 一三〇一 | 九三一 | 一三三一 | 一一五五 | 一一七七 | 五四三 | 一五三七二 |
| 視力 普通 | 九九・一四 | 九七・六八 | 九七・五八 | 九九・〇七 | 九八・三八 | 九八・三〇 | 九九・三七 | 九八・五三 | 九八・三一 | 九八・六一 | 九九・九七 | 九八・九五 | 九九・一五 | 九九・六九 | 九九・〇八 | 九八・三七 |
| 視力 減弱 | 〇・八五 | 一・二四 | 一・一八 | 四・七一 | 一・二五 | 一・五一 | 一・四七 | 一・四九 | 一・一九 | 一・一五 | 〇・三三 | 〇・九〇 | 〇・七六 | 〇・三一 | 〇・七四 | 一・四八 |
| 視力 盲 | | 〇・〇八 | 〇・二四 | 〇・一五 | 〇・三七 | 〇・一八 | | 〇・一八 | 〇・一八 | 〇・二三 | 〇・一一 | 〇・一五 | 〇・〇九 | | 〇・一八 | 〇・一五 |
| 聽力 普通 | 九七・七一 | 九八・五六 | 九七・五九 | 九七・九三 | 九八・三一 | 九八・六九 | 九八・二四 | 九八・八九 | 九八・八六 | 九八・八〇 | 九四・七四 | 九七・六三 | 九七・一八 | 九七・七九 | 九六・九五 | 九七・七〇 |
| 聽力 鈍 | 二・二九 | 三・一六 | 六・一七 | 二・〇八 | 一・五四 | 三・三三 | 三・五〇 | 一・七九 | 三・一二 | 二・九九 | 一・二九 | 五・〇三 | 二・三八 | 二・七四 | 二・〇三 | 二・九四 |
| 聽力 聾 | | 〇・〇八 | 〇・二四 | | 〇・一五 | 〇・二四 | | 〇・二六 | | 〇・二八 | 〇・二二 | 〇・三三 | | 〇・〇八 | 〇・一八 | 〇・二二 |





| 言語 普通 | 言語 吃 | 言語 啞 | 眼 「トラホーム」 | 眼 其他 | 耳疾 | 腺病 | 呼吸器疾患 | 心臟疾患 | 扁桃腺疾患 | 「ヘルニヤ」 | 皮膚病 傳染性 | 皮膚病 其他 | 齲齒 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 九六・八五 | 三・二五 | — | 一一・七二 | 四・八六 | 四・二九 | 〇・二九 | — | — | 〇・五七 | 〇・二九 | 〇・二九 | 二・九七 | — |
| 九八・九九 | 〇・九三 | 〇・八八 | 一六・七四 | 〇・五八 | 一・一五 | 〇・八八 | — | 〇・二八 | 〇・三八 | 〇・三三 | 〇・三五 | 〇・五五 | 二・四七 |
| 九八・五五 | 〇・八五 | 〇・八〇 | 二二・〇九 | — | 三・五一 | 〇・三六 | 〇・二四 | 〇・一二 | — | 〇・二四 | 〇・三六 | — | — |
| 九九・五四 | 〇・五八 | 〇・六〇 | 一三・七九 | — | 〇・八五 | 〇・〇八 | 〇・四六 | 〇・六九 | — | 〇・三一 | 〇・三八 | 〇・三三 | — |
| 九九・二六 | 〇・五九 | 〇・二五 | 六・三一 | — | — | 〇・二七 | — | — | — | — | — | — | — |
| 九八・一八 | 〇・八三 | — | 一七・四二 | 一・六九 | 一・四三 | — | 〇・一八 | 〇・一八 | 〇・一八 | 〇・四四 | 一・三五 | 〇・八九 | — |
| 九八・七二 | 一・〇五 | 〇・二四 | 一四・七〇 | 〇・五八 | 〇・四八 | 〇・二七 | 〇・三五 | — | — | 〇・四四 | 〇・三四 | 〇・七〇 | — |
| 九八・八六 | 〇・五五 | 〇・四九 | 三三・八一 | — | 〇・七三 | 〇・四九 | — | — | — | — | — | 〇・八六 | — |
| 九八・九九 | 一・〇一 | — | 一七・三一 | 〇・二八 | 〇・八五 | 〇・八八 | 〇・八八 | 〇・〇九 | 〇・一八 | 〇・一二 | 〇・〇九 | 〇・八二 | — |
| 九八・〇八 | 一・六九 | 〇・三三 | 二一・四五 | 〇・三八 | 一・六二 | 〇・三三 | 〇・六四 | 〇・三三 | 一・六二 | 〇・一二 | 〇・一二 | 〇・九三 | 一・九六 |
| 九九・三五 | 一・六五 | — | 一六・一五 | 〇・三一 | 〇・四六 | — | — | — | — | — | 〇・三八 | 〇・七〇 | — |
| 九九・九一 | 〇・九九 | — | 一九・九三 | 〇・三四 | 一・〇三 | 〇・一七 | — | 〇・一七 | 〇・一四 | 〇・九九 | 〇・四四 | 〇・六八 | — |
| 九九・三七 | 〇・五五 | 〇・八八 | 一四・八〇 | 〇・六三 | 二・〇三 | 〇・八八 | — | — | 〇・一六 | 〇・三三 | 〇・七〇 | 〇・八八 | — |
| 九九・〇八 | 〇・七四 | 〇・九二 | 一〇・四九 | 〇・七四 | 一・三三 | 〇・一八 | 〇・一八 | 〇・二二 | 〇・三四 | 〇・八八 | 〇・三七 | 〇・三七 | 〇・四四 |
| 九八・九七 | 〇・九二 | 〇・二二 | 一四・八二 | 〇・四九 | 一・二三 | 〇・一八 | 〇・一七 | 〇・二二 | 〇・二六 | 〇・八〇 | 〇・三五 | 〇・三〇 | 〇・四四 |

## ◉大正七年度茨城縣就學兒童健康調査成績百分率比較表（女）

| 郡市 | 檢査人員 | 視力 普通 | 視力 減弱 | 視力 盲 | 聽力 普通 | 聽力 鈍 | 聽力 聾 | 其他ノ疾患 | 畸形 胸廓 | 畸形 其他 | 帶溝 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 水戸 | 三六六 | 九九・七五 | 〇・二七 | — | 九七・八二 | 二・九九 | — | 一・四四 | 四・〇〇 | 〇・八六 | 五・二四 |
| 東茨城 | 二七三 | 九七・三五 | 二・六三 | 〇・一五 | 九六・六五 | 三・六八 | 〇・〇七 | 〇・三三 | 〇・一五 | 〇・一四 | 二・四七 |
| 西茨城 | 七五九 | 九七・八〇 | 一・五八 | 〇・九三 | 九四・八七 | 四・八七 | 〇・二六 | 〇・三 | — | — | 〇・三四 |
| 那珂 | 二四〇 | 九六・〇五 | 三・九五 | — | 九八・〇七 | 一・七七 | 〇・一六 | 二・〇八 | 〇・七七 | — | 五・一五 |
| 久慈 | 二九一 | 九九・〇〇 | 〇・九三 | 〇・〇八 | 九八・七四 | 一・〇九 | 〇・一七 | 〇・三三 | — | 〇・八〇 | — |
| 多賀 | 二〇〇五 | 九八・四三 | 一・三九 | 〇・二九 | 九八・三三 | 一・四九 | 〇・二九 | 〇・二七 | 〇・八〇 | 〇・八〇 | 〇・八〇 |
| 鹿島 | 八九 | 九九・〇一 | 〇・九九 | — | 九七・〇三 | 三・三五 | 〇・六三 | 〇・一七 | 〇・四八 | 〇・二四 | 〇・四八 |
| 行方 | 六〇三 | 九八・八六 | 〇・七〇 | 〇・一九 | 九八・一八 | 一・四九 | 〇・三三 | — | 一・四七 | 〇・二七 | 一・一〇 |
| 稻敷 | 二〇八二 | 九八・八七 | 〇・九四 | — | 九七・四五 | 一・八九 | 〇・六六 | 〇・二七 | — | 〇・二五 | 一・〇〇 |
| 新治 | 一四二九 | 九八・七八 | 三・三三 | 〇・一一 | 九八・四四 | 三・四九 | 〇・〇七 | 一・一五 | 〇・五四 | 〇・二五 | 〇・三三 |
| 筑波 | 九三一 | 九八・八四 | 一・〇五 | — | 九八・二二 | 一・八九 | — | 〇・六四 | — | 〇・一一 | 〇・〇八 |
| 眞壁 | 一三七四 | 九八・二二 | 一・八八 | 〇・〇九 | 九八・〇一 | 三・七八 | 〇・三 | — | 〇・四三 | 〇・一七 | 〇・三四 |
| 結城 | 一二七七 | 九八・七三 | 一・一九 | — | 九八・一三 | 一・七九 | 〇・〇九 | 〇・二六 | 〇・二六 | 〇・七八 | 〇・三三 |
| 猿島 | 一三五一 | 九八・四三 | 〇・四八 | 〇・三五 | 九八・〇一 | 一・九九 | — | 〇・一八 | 〇・一八 | 〇・二〇 | 〇・八七 |
| 北相馬 | 五六〇 | 九八・四三 | 一・三三 | 〇・一五 | 九七・五五 | 二・二六 | 〇・一八 | 〇・一八 | 〇・五五 | 〇・二〇 | 〇・八七 |
| 總計 | 一五一四八 | 九八・三〇 | 一・六五 | 〇・一五 | 九七・三九 | 二・四三 | 〇・一九 | 〇・三八 | 〇・四八 | 〇・二〇 | 〇・八七 |



| 郡市 | 言語 普通 | 言語 吃 | 言語 啞 | 眼疾 「トラホーム」 | 眼疾 其他 | 耳疾 | 呼吸器疾患 | 腺病 | 扁桃腺疾患 | 心臟疾患 | 「ヘルニヤ」 | 皮膚病 傳染性 | 皮膚病 其他 | 齲齒 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 水戸 | 九九・二八 | 〇・八三 | — | 一〇・六六 | 四・三七 | 二・四四 | — | — | — | — | — | 〇・二七 | 二・一九 | — |
| 東茨城 | 九九・六三 | 〇・三三 | — | 一九・七五 | 〇・六六 | 〇・八二 | — | 〇・三三 | 〇・六六 | — | — | 〇・〇七 | 〇・四四 | 二・〇四 |
| 西茨城 | 九九・二二 | 〇・五三 | 〇・二六 | 二二・九八 | — | 三・七〇 | 〇・二六 | 〇・二六 | — | 〇・一四 | — | 〇・四〇 | — | — |
| 那珂 | 九九・六〇 | 〇・一六 | 〇・二四 | 一七・二六 | — | 〇・一六 | 〇・一六 | 〇・二六 | — | 〇・八二 | 〇・〇八 | 〇・一六 | 〇・三三 | — |
| 久慈 | 九九・四一 | 〇・四二 | 〇・一七 | 六・六三 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 多賀 | 九九・四一 | 〇・五九 | — | 一六・三三 | 〇・六九 | 一・〇九 | — | 〇・二九 | 〇・二〇 | 〇・一九 | — | 〇・五九 | 〇・五九 | — |
| 鹿島 | 九九・六三 | 〇・二五 | 〇・一三 | 一八・四二 | 一・六一 | 〇・八七 | 〇・一七 | 〇・一七 | 〇・一七 | 〇・二五 | — | 〇・一七 | 〇・四九 | — |
| 行方 | 九九・三四 | 〇・一七 | 〇・四九 | 三三・〇八 | 〇・一七 | 〇・一七 | 〇・一七 | 〇・一七 | 〇・一七 | 〇・一七 | — | — | — | — |
| 稻敷 | 九九・〇六 | 〇・六六 | 〇・二六 | 一六・三九 | 〇・〇九 | 〇・〇八 | 〇・〇九 | 〇・九 | 〇・〇九 | 〇・九 | 〇・一八 | 〇・〇九 | 〇・一九 | — |
| 新治 | 九八・四〇 | 一・三九 | 〇・一一 | 一〇・九八 | 一・一九 | 〇・五六 | 〇・一四 | 〇・〇七 | 〇・一四 | 〇・〇七 | 〇・三二 | 〇・〇七 | 〇・四九 | 一・八九 |
| 筑波 | 九九・五七 | 〇・三三 | 〇・一一 | 一七・八六 | 一・一一 | 〇・八四 | 〇・七四 | 〇・二二 | — | — | — | 〇・〇七 | 〇・三二 | — |
| 眞壁 | 九八・九八 | 一・〇三 | — | 一六・五三 | 〇・一一 | 〇・八六 | — | — | — | — | — | 〇・〇七 | 〇・〇七 | — |
| 結城 | 九九・〇二 | 〇・〇九 | — | 一九・六三 | 〇・〇六 | 〇・七〇 | — | 〇・〇九 | 〇・一六 | 〇・一六 | — | 〇・一七 | 〇・一六 | — |
| 猿島 | 九九・五六 | 〇・二四 | 〇・〇八 | 一七・二一 | 〇・五六 | 〇・六四 | — | — | — | — | — | 〇・〇八 | 〇・一六 | — |
| 北相馬 | 九八・九五 | 一・〇五 | — | 一四・七四 | 〇・五五 | 一・五五 | — | — | 〇・五五 | 〇・一八 | — | 〇・五五 | 〇・五五 | — |
| 總計 | 九九・三四 | 〇・五四 | 〇・一三 | 一五・八九 | 〇・五一 | 〇・七九 | 〇・一七 | 〇・一七 | 〇・一七 | 〇・一五 | 〇・〇三 | 〇・二四 | 〇・三五 | 〇・一三 |

| 病類別＼男女別 | 男子 人員 | 男子 百分率 | 女子 人員 | 女子 百分率 | 計 人員 | 計 百分率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 其他ノ疾患 | 〇・八三 | 〇・〇七 | 〇・四〇 | 一・五三 | 一・二〇 | 〇・一五 |
| 畸形 胸廓 | 三・五五 | 〇・〇七 | 〇・七三 | 〇・四九 | 〇・一〇 | 〇・〇九 |
| 畸形 其他 | 〇・二七 | 〇・四四 | — | 〇・一九 | 〇・六三 | 〇・一七 |
| 帶溝 | 五・四六 | 〇・〇七 | 〇・四〇 | 〇・五九 | 〇・三七 | 〇・六六 |
| 眼疾 | 四五七 | 二六・四三 | 四五三 | 二七・三一 | 九一〇 | 二六・八六 |
| 耳疾 | 一四七 | 八・五〇 | 一〇八 | 六・五一 | 三〇五 | 九・〇〇 |
| 鼻咽喉疾 | 七一 | 四・一一 | 五七 | 三・四三 | 一二八 | 三・七八 |
| 呼吸器病 | 三八 | 二・二〇 | 三〇 | 一・八一 | 六八 | 二・〇一 |
| 血行器病 | 二八 | 一・六二 | 一八 | 一・〇八 | 四六 | 一・三六 |
| 腹部臟器病 | 一六 | 〇・九二 | 六 | 〇・三六 | 二二 | 〇・六五 |
| 脊髓病 | 一 | 〇・〇六 | 二 | 〇・一二 | 三 | 〇・〇九 |
| 皮膚病 | 五九 | 三・四一 | 三四 | 二・〇五 | 九三 | 二・七四 |
| 人員 | 一、七二九 | | 一、六五九 | | 三、三八八 | |

◉愛知縣碧海郡大正七年度入學兒童豫備檢診成績　學校數　四三

備考　本調査ハ最初ノ試ナルヲ以テ各郡不統一ナリシノ憾アリ





| 病類別＼男女別 | 男子 人員 | 男子 百分率 | 女子 人員 | 女子 百分率 | 計 人員 | 計 百分率 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 發育不良 | 二二 | 一・二七 | 一三二 | 一・九三 | 五四 | 一・五九 |
| 畸形 | 二九 | 一・六八 | 一七 | 一・〇二 | 四六 | 一・三六 |
| 榮養不良 | 一八 | 一・〇四 | 一四 | 〇・八四 | 三二 | 〇・九四 |
| 低能 | 八 | 〇・四六 | 一二 | 〇・七二 | 二〇 | 〇・五九 |
| 「ヘルニヤ」 | 二 | 〇・一二 | 一 | 〇・〇六 | 三 | 〇・〇九 |
| 其他 | 一九六 | 一一・三四 | 一四八 | 八・九二 | 三四四 | 一〇・一五 |
| 發育不良 | 五 | 〇・二九 | 四 | 〇・二四 | 九 | 〇・二七 |
| 痴 | — | — | 一 | 〇・〇六 | 一 | 〇・〇三 |
| 低能 | — | — | 二 | 〇・一二 | 二 | 〇・〇六 |
| 癲 | — | — | 一 | 〇・〇六 | 一 | 〇・〇三 |
| 腦「ヘルニヤ」 | 一 | 〇・〇六 | — | — | 一 | 〇・〇三 |
| 耳疾兼眼疾 | 一 | 〇・〇六 | 一 | 〇・〇六 | 二 | 〇・〇六 |
| 慢性股關節炎 | — | — | 一 | 〇・〇六 | 一 | 〇・〇三 |
| 計 | 七 | 〇・四一 | 一〇 | 〇・五八 | 一七 | 〇・五〇 |

備考　病類中一人ニテ二種以上ヲ兼ヌル者ハ其ノ主ナル者ヲ掲グ

◉右ノ内就學猶豫ヲナセシ者

◉右ノ内就學免除ヲナセシ者

| 病類別 ＼ 人員 ＼ 男女別 | 男 | | 女 | | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 人員 | 百分率 | 人員 | 百分率 | 人員 | 百分率 |
| 啞 | | | 三 | 〇・一八 | 三 | 〇・一八 |
| 盲 | | | | 〇・〇六 | | 〇・〇六 |
| 聾 | | | 一 | 〇・〇六 | 一 | 〇・〇六 |
| 不具 | | | 一 | 〇・〇六 | 一 | 〇・〇六 |
| 計 | | | 六 | 〇・三六 | 六 | 〇・三六 |

日本デハ明治四十一年以來愛知縣碧海郡矢作町ニテ之ヲ行フト云フ又大正六年ノ春茨城縣ノ水戸市デ此ノ考ヘニ基イテ同縣學校衛生主事齋藤技師ガ其年ノ四月ニ入學スベキ者ニ對シ三月ニ身體檢査ヲサレ、夫レニ依ツテ今年ノ就學ハ延期シタ方ガ良イトカ、或ハ學校ヘ這入ル前ニ相當ノ手當ヲシタ方ガ宜カラウトカ、色々ノ注意スベキ點ガ判ツタサウデゴザイマスガ、其爲メ大正七年ニハ北條主事之ヲ全縣下ニ施行スルニ至ツタ、是レ本邦ニ於テ全縣下一齊ニ就學前檢査ノ嚆矢ニシテ實ニ本邦最近ノ學校衛生ノ進運ヲ示スニ足ルモノト信ズ、依テ其成績表ヲ掲グ、但シ之レハ全ク新シキ試ミナリシガ故ニ檢査法、報告方等ニモ統一ヲ缺ク所ナキニ非ズトハ當事者ノ注意セラレシ所デアル、又愛知



縣碧海郡ニ於テモ同年就學前檢査ヲ施行セリ其成績ハ右ニ掲ゲタル通リナリ。

前記矢作町校醫伊吹氏ノ報告ニヨレバ大正八年四月ニ就學スベキ同町兒童三百五名ノ就學前檢査ニヨレバ視力障碍三、聽力障碍九名アリ又脱腸九名(男五、女四卽二・九%)ナリト是等ハ實ニ就學後ノ授業其他ノ取扱上極メテ有益ナル事項ナリト云フベシ。

斯ウ云フ就學前檢査ハ兒童自身ノ爲メニモ必要ナ事デアルト思ヒマス。之レハ既ニ學校醫ノ問題トナツテ、大正五年第三回文部省學校衛生講習員協議會デ決議ヲシテ文部大臣ニ建議シタノデアリマス。

卒業檢査

就學檢査ニ次デ意義アル檢査ハ卒業檢査デアル、之ハ卒業後ノ職業ヲ選定スル爲ニ當人ノ健康狀態上、何ガ最モ適業デアルカヲ定ムルニ關係アリ之ハ別題『職業選定』ニテ述ブベシ。トニカク就學檢査ハ入校後可成早ク念入リニ、前述身體檢査ノ三ケ條ノ旨意ニ合スルヤウ檢査セネバナラヌト考ヘル。

體質

身體檢査ニハ體質ト云フ項ヲ設ケ度イ、體格ノ批評ヲ廢シテ體質トスル、之レハ既ニ大正六年愛知縣ノ問題トナツタ、又名古屋市ハ大正五年ノ身體檢査ニ體質欄ヲ設ケマシタガ、他ノ地方ニモ之ヲ設ケタ所ガアル。唯今ハ文部省ノ規程ガ現存シテ居ルカラ體格ヲ廢シテ其ノ代リニ之ヲ設ケル事ハ出來ナイガ、體格ノホカニ一欄ヲ作ツテ之ニ當テル事ハ差支ナイ。此體質ト云フモノハ體格ト全ク違ツテ身體ノ形デナク質ノ方ニナツテ居ル。身長、體重、胸圍ヲ考ヘヌ、大分趣意ノ違ツタモノデアル。

其批評ヲ三種トス良、中等、不良又ハ一、二、三又ハA、B、C、或ハ甲、乙、丙等何レニテモ宜敷イ、此良ト云フモノハ完全無缺ノ健康狀態デアッテ非難ノ無イモノヲ云フ何等ノ疾病モ無ク又疾病素質モ無イ極メテ健康ナモノデアル常識的ニ云フ無病息災極メテ達者ナル者デアリマス又不良ト申スノハ著明ナル疾病素質及ビ慢性疾患ヲ有スル者デアル學校デ長イ間發育期ノ者ヲ授業シテ往クノデアルカラ、カヽル條件ノ兒童ニ疾病ノ素質トカ、或ハ慢性ノ疾病ト云フ事ハ大禁物デアル一時ノ事ハ一時デ濟ムガ慢性ノ疾患ナリ或ハ何時病氣ニ陷ルカリカラナイト云フ素質ノアル者ハ學校トシテ常ニ大ニ注意スベキモノデアル又中等ト云フモノハ慢性ノ疾病及ビ疾病素質ト云フモノハ無イケレドモ健康ノ度ガ良ニ及バヌ者ヲ云フ此良、中、不良ノウチ良ト不良トハ醫者ナラバ明白ニ判ル唯ダ中ダケニハ疾病ガ無イト云フハ確實ニ決定出來マスケレドモ其他ノ要件ヲ決メルノニ人ニ依ッテ多少ノ相違ガアル乍併兩端ト云フモノハ明ニ判ルソレデ從來ノ日本ノ强、中、弱ヲ定メルヨリハ大ニ容易デアル强、中、弱ノソレノ如タ困難デナイノミナラズ此統計ハ實際上役ニ立ツノデアル卽チ體質ノ良イ者之レハ色々ナ事ヲ課シテモ十分ニ遣ル者デアル中等ノ者ハ相當ノ注意ヲ加フレバ良クナルモノデアル不良ハ十分ノ注意ヲシナケレバ弱ッテシマフト云フ身體ノ者デアリマス。サウ云フ人間ニ就テハ一々注意スベキ方策ガ立ツ又斯ウ云フモノヲ統計ニシマスト其ノ學校ニハ體質不良ガ幾ラアル良ガ幾ラアル從テ達者ナ者ガ澤山アルトカ或ハ弱イ者ガ澤山アルト云フ事ガ統計表ヲ見テスグ明ニナル。換言スレバ健康統計デアル取扱ノ上カラ例セバ此不良ノ者ハ健康者ト一緒ニ遠足ニ伴レテ往ケバ惡イ落伍スル之レハ一里カ二里ノ所デ止メテシマフベキ者デアルト云フ見當モ立ツ又夏休ニ斯ウ云フ者ニハ宿題ヲ課スル事ヲ止メタ方ガ良イ、サウシテ夏期林間學校ニデモ送ッタ方ガ良イ、食物ハ何ウスレバ良イ、榮養狀態ガ惡イカラ何ウ云フ風ニシタラ良イト云フ事ガ指示シ得レドモ從來ノ强健、中等、薄弱デハ如何ニモ仕方ガ無イ誰モ日本ノ小學校通知簿ナリ又ハ統計表ナリヲ見テドウスレバ良イト明言スル人ハ無イ强健ナラマダ良イガ薄弱ト云フヤウナ事ニ就テハ今ノ慢性疾病、夫レカラ疾病ノ素質ト云フ事ハ多少考ヘテアリマスガ、體質標準程ニ明白デナイ元來發育ト云フモノガ基ニナッテ居ルカラ其ノ標準デ取扱フト間違フ夫レデ强健者ト記サレタ中カラ、ソウデナイ者ガ少カラズアルト云フ風デ、此意味デハ學校ニ於テモ、家庭ニ於テモ現在、將來ノ取扱方ノ目標ニナリ難イ若シ之ヲ改メテ體質主義ニスレバ統計トシテモ役ニ立ツ、又授業ノ上ニモ相當ノ役ニ立ツ、彼ハ强健ナ者ダカラモウ少シ餘計遣ラセヤウ、不良ナ者ダカラ差控ヘルト云フ事モ出來ル。

今述ベタ通リ大正六年余ガ愛知縣ニ出張シタ節縣ヨリ學校醫會ニ提出セラレタ檢査簿ト云フモノガアッタ、之ヲ見レバ、體質ト云フモノガ設ケテアル、之ハ日本ノ從來ノモノヨリ餘程役ニ立ツト思フ、今試ニ歐洲各地ノ體質比較ヲ示サン、之ハ土地ニヨリ檢査者ニヨリ多少ノ差アリ詳シキ事ハ其小學校ノ種類及兒童生活等ノ關係ヲ明ニセヲバナラヌ

ノデスガ此表ニヨリテ不良者ハ二%乃至七%ノ間デアル今名古屋市及郡部ノ成績ハ次ノ如シ。

◉名古屋市小學校兒童體質別(大正五年度名古屋市學校醫會報告)

○尋常小學校

| | 檢査員數 | 甲 | 乙 | 丙 |
|---|---|---|---|---|
| 男 | 二二、一三七 | 六三・九二 | 三一・三九 | 四・六八 |
| 女 | 一九、一一二 | 六〇・〇六 | 三四・五九 | 五・三五 |

○高等小學校

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 男 | 二、一三一 | 七三・七七 | 二四・二八 | 一・九七 |
| 女 | 一、一五三 | 六九・六七 | 二八・七八 | 一・五六 |

◉愛知縣郡部ノ一部分　大正七年檢査

| 年齡 | 七年 | | 八年 | | 九年 | | 十年 | | 十一年 | | 十二年 | | 十三年 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (男) 檢査員數 | 五四一 | 三七・六四 | 五〇一 | 四四・二二 | 五二〇 | 四二・二五 | 五〇四 | 五一・二八 | 四四八 | 四〇・〇〇 | 四一九 | 四七・七五 | 二二九 | 三八・五一 | 三・一六二 | |
| (男) 不良 | 六・八四 | | 五・七九 | | 五・五七 | | 四・五六 | | 七・二五 | | 五・九九 | | 二・五一 | | (五・五〇) | |
| (男) 中 | 四九・一〇 | 五五・五六 | 四五・一一 | 五五・五六 | 四三・八七 | 五一・七五 | 四三・六五 | 四八・八八 | 四三・八七 | 四八・八八 | 四三・六五 | 五四・七八 | 二九・二三 | 四八・一二 | 四九・三七 | |
| (男) 良 | 三六・六〇 | | 三八・八五 | | 四五・一一 | | 三八・八五 | | 四八・八八 | | 四五・一一 | | 四九・三七 | | 四八・一二 | |
| (女) 檢査員數 | 四四一 | | 四四一 | | 四七一 | | 三九二 | | 三六八 | | 二八九 | | 一三五 | | 二五三七 | |
| (女) 不良 | 一〇・四三 | | 八・六一 | | 五・三七 | | 一三・八一 | | 三・四六 | | 二・六六 | | (七・六〇) | | | |
| (女) 中 | 五一・九三 | | 四七・一七 | | 四八・八三 | | 四三・三七 | | 四六・一九 | | 四八・七九 | | 四〇・七三 | | | |

◉各地國民小學校體質判定比較表(男女合計)

| 地名 | 檢査員數 | 體質(%) 良 | 中 | 不良 | 年次 |
|---|---|---|---|---|---|
| キースバーデン | 五、一八七 | 三五・八 | 六二・〇 | 二・二 | 一九一一 |
| ハムブルグ | 五四、五三六 | 一六・〇 | 八〇・六 | 三・四 | 一九一一 |
| ケムニッツ 就學檢査 | 五、六六六 | 二一・四一 | 七四・九二 | 三・六七 | 一九一一 |
| 體操開始者 | 五、七七六 | 二五・〇二 | 七二・六六 | 二・三二 | |
| 卒業檢査 | 四、七三九 | 三二・七六 | 六六・二四 | 二・〇〇 | |
| 民賢 | 一六、九六八 | 三三・四 | 五九・二 | 七・四 | 一九一二 |
| 內就學檢査 | — | 三五・一 | 五八・一 | 六・八 | |
| 卒業檢査 | — | 三二・〇 | 六〇・九 | 八・一 | |
| ブリューン | 二、二一二 | 七四・七 | 二四・五七 | 〇・七三 | 一九一〇 |

大體ノ注意トシテ述ブベキハ、土地ニヨツテ違フノハ檢査者ノ違フ爲メニモヨルガ土地ノ兒童ノ生活狀態其他兒童本來ノ關係ガ主ナル原因デアル、其一適例ハ同ジ土地デモ兒童ノ家庭ノ良否、家計ノ良否等ガ大關係ガアル左表ハボン市デプロフェッソル シュミット氏ガ自身デ凡テ檢査シタノデアル(低能兒及補助學校ノ章參照)。

| 體質 | 市立「レアールシューレ」 | 國民學校「スチフトシューレ」 | 進級系「ギルヘルムスシューレ」 | 補助學校 |
|---|---|---|---|---|
| 良 | 五五・三 % | 二四・〇 % | 二二・八 % | 一三・三 % |
| 中等 | 四一・一 % | 六七・五 % | 六九・九 % | 六四・七 % |
| 不良 | 三・六 % | 八・五 % | 二二・三 % | 二二・〇 % |

健康證

ボン市ノ此四校ノ內「レアールシューレ」ハ上家庭ノ兒童デ次ノ二ハ夫ニ比スレバ下層ノ家庭ナリ又補助學校ハ最モ下層社會ニ低能者ガ多イノデ夫レノ集マリデアル第一ト第四ノ體質比較ハ別世界ノ觀ヲ起スノデアリマス。

私ハ此六年來愛知縣ノ檢査簿ニ當ルモノデスガ之ヲ『健康證』(Gesundheitsschein)ト稱ヘテ學校衞生ノ改善上、身體檢査ノ效果ヲ擧ゲル上ニ極メテ必要ナモノデアル事ヲ紹介シテ居ルノデス、之ハ從來小學校ノ諸表簿中ノ學籍簿、學業成績簿、操行調査簿ナドト同ジク、兒童ノ健康保護上必要不可缺モノデアルト考ヘテキル。

健康證ハ日本從來ノ檢査票ヲ其內ニ含ミ、ソシテ前述身體檢査ノ三ケ條ノ主旨ニ合スルヤウニ出來テ、一層適切有效ノモノデアル、其特色ハ義務教育期間卽チ全在學校期ヲ通



ジテ毎回ノ檢査成績ガ連續揭載セラル、事、之ニ由テ兒童健康ノ經過ガ連年通覽シ得ラレ、元惡カツタ體ガドウ云フ風ニ良クナツタカヤワカル、マタ其良クナツタノハソレ〳〵ノ注意處置ヲ講ジタ爲メデアルト云フ事モワカル、而シテ身體檢査成績ノ批判ハ體質デアツテ其內ノ不良ト云フ兒童ニ對シテハ適當ナル善後策卽チ現症ノ輕快ナリ恢復ナリノ方法ヲ指定シ爾後學校醫ノ臨校ノ際ニハ常ニ注意スルノデ其ノ狀態ノ良クナル迄絕エズ監視スルノデアル、ソコデ此健康證ノ最モ能ク目ノ著ク場所ナル第一頁ノ上隅ニ『監督』Ueberwachung ト記入シ若シ良クナツタラバ何時何ノ爲ニ良クナツタカヲ記入シ、『監督』ト云フ二字ヲ塗消スルノデアル、名古屋市デハ大正五年度カラ之ヲ用ヒ始メラレタ、私ハ年來『監視』トシテ居タガ受刑者ナドニ如此事ガアツテ名ガ良クナイノデ、近頃監督ト改メタ、名古屋市デハ『監護』トセラレタノデアリマス、此事ハ實ニ必要デ健康上不良ノ兒童ヲヨクナルマデ繼續注視監督スルノデアリマス、獨、墺邊デハ此健康簿ハ非常ニ大切ニシ、學校醫職務規程ニ其取扱方迄嚴ニ規定シテアル土地モアリマス、兒童ノ學校ガ變更スレバ、其轉ジタ學校ニ之ヲ送ラレ、又壯丁檢査ノ時ニ必要起レバ之ヲ學校ヨリ取寄セテ參考ニ供スル、夫故學校ハ十ケ年間保存スル、又補助學校ノ健康證ハ後日其卒業生ガ刑事問題等ニ遭遇シタ場合ニ裁判ノ參考書トシテ取調ベル事モアルノデ、學校デハ大切ナモノデアリマス、語ヲ換ヘテ言ヘバ、學校醫ノ仕事ガ責任重ク、ソレダケ仕事ガ精確且效果ガ多イノデアリマス。

健康證ニハ獨リ學校醫ノミナラズ擔當教員ノ記入スベキ欄モ設ケラレテ共同責任トナスノデアル、民賢市、キースバーデン市ナドノハ良ク出來テ居リマス(別項、學校醫職務規程キースバーデン市及民賢市ノ項參照)、

余ハ試ニ各地ノモノヲ參考トシテ編成シタル左表ヲ掲ゲ、又名古屋市ニテ使用セラルルモノヲモ併セテ茲ニ掲グ。

### ⊙健康證ノ說明

一。石原撰 健康簿

是ハ二枚折ノ表裏四頁=第一頁(I)第二頁(II)。第三頁(III)。第四頁(IV)——ヨリナル洋式簿ナリ、印刷ノ都合ニヨリ之ト順序ヲ反對ニシ邦式ヲ以テ印行セリ、小學校ノ各兒童ニ一部ヲ當テ、連年記載スベキモノトス、此欄型ハモト民賢小學校用ノモノニ據リ、之ヲ改纂シタルモノナリ殊ニ檢査項目ニ於テ私見ヲ加ヘタルモノ多シ、毎年ノ身體檢査及臨時檢査ノ成績ヲ記載シ其他各頁上ニ指定セル重要事項ヲ記載スルモノトス、又本簿ハ現行ノ個人檢査票ニモ相當シ之ヨリ集計シテ各小學校身體檢査統計表ヲ作成スルモノトス。

二及三。 大正五六年ヨリ名古屋市ニテ使用セラル、モノニシテ同市津村、井谷其他ノ學校醫諸君ノ努力ニヨリテ改正セラレタルモノナリ。





# 健康簿

(I)

| 監督中 | 開始年月 | 解除年月 |
|---|---|---|
| | 年 月 | 年 月 |
| | 年 月 | 年 月 |
| | 年 月 | 年 月 |
| | 年 月 | 年 月 |
| | 年 月 | 年 月 |

校名　　郡市　　町村　小學校

氏名

生年月日　　年　月　日

保護者氏名　　職業

一期種痘　年　月　二期種痘　年　月

## I. 發育

| 學年 | 第一學年 | 第二學年 | 第三學年 | 第四學年 |
|---|---|---|---|---|
| 檢査年月 | | | | |
| 身長 | | | | |
| 體重 | | | | |

| 學年 | 第五學年 | 第六學年 | | |
|---|---|---|---|---|
| 檢査年月 | | | | |
| 身長 | | | | |
| 體重 | | | | |

## II. 學校醫ノ檢査

| NO. | 檢査項目＼學年 | | 第一學年 年 月 | 第二學年 年 月 | 第三學年 年 月 | 第四學年 年 月 | 第五學年 年 月 | 第六學年 年 月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 體質 | 甲 | | | | | | |
| | | 乙 | | | | | | |
| | | 丙 | | | | | | |
| 2 | 胸圍 | | | | | | | |
| 3 | 胸形 | | | | | | | |
| 4 | 榮養 | | | | | | | |
| 5 | 貧血 | | | | | | | |
| 6 | 腺病 | | | | | | | |
| 7 | 佝僂病 | | | | | | | |
| 8 | 肺 | 結核 | | | | | | |
| | | 慢性氣管枝炎 | | | | | | |
| 9 | 心 | 器質障碍 | | | | | | |
| | | 機能障碍 | | | | | | |
| 10 | 腹部 | 腎臟 | | | | | | |
| | | 脫腸 | | | | | | |

(II)

| NO. | 項目 ＼ 學年 | | 第一學年 | 第二學年 | 第三學年 | 第四學年 | 第五學年 | 第六學年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 口、鼻、咽 | 齒牙 | | | | | | |
| | | 扁桃腺肥大 | | | | | | |
| | | 腺樣增殖 | | | | | | |
| | | 口腔不潔 | | | | | | |
| 12 | 關節骨筋肉 | 側彎 | | | | | | |
| | | 後凸 | | | | | | |
| | | 四肢 | | | | | | |
| | | 筋肉 | | | | | | |
| 13 | 姿勢 | 耳 | | | | | | |
| | | 不耳 | | | | | | |
| 14 | 視 | 近 | | | | | | |
| | | 遠 | | | | | | |
| | | 色盲 | | | | | | |
| 15 | 眼病 | 「トラホーム」 | | | | | | |
| | | 其他 | | | | | | |
| 16 | 聽 | | | | | | | |
| 17 | 耳病 | 耳漏 | | | | | | |
| | | 中耳炎 | | | | | | |
| 18 | 皮膚毛髮 | 濕疹 | | | | | | |
| | | 疥癬 | | | | | | |
| | | 毛髮虱 | | | | | | |
| | | 傳染性皮膚病 | | | | | | |
| 19 | 身體清潔 | | | | | | | |
| 20 | 腦神經 | 低能 | | | | | | |
| | | 癲癇 | | | | | | |
| | | 言語 吃 | | | | | | |
| | | 言語 吶 | | | | | | |
| | | 其他 | | | | | | |
| 21 | 寄生蟲 | 十二指腸蟲 | | | | | | |
| | | 住血吸蟲 | | | | | | |
| | | 其他 | | | | | | |
| 22 | 脚氣 | | | | | | | |
| 23 | 肺以外ノ結核 | | | | | | | |
| 24 | 急性傳染病 | | | | | | | |

**記入注意** (8)肺結核ノ疑ナルトキハ疑トシテ記入 (11)齒牙ニハ齲齒其他主ナル疾患ヲ記入ス (12)關節ノ異常ハ四肢ノ欄ニ入ル (16)聽ノ項ハ耳語七米以下ノ重聽ナル者 (20)項「其他」中ニハ舞蹈病、小兒麻痺、其他ノ麻痺、神經質ヲ發見セル時、當該病名 (23)ニハ其臟器、組織名 (24)當該病名。





(III)

## III. 學校醫ノ教員校長及保護者ニ申告事項

1. 就學猶豫
2. 疾病ノ爲メ缺席スベキ申告其期限　年　月　日　日間
3. 某科目授業免除申告其期限　年　月　日　日間
4. 座席ノ注意
5. 近眼鏡、脫腸帶ヲ用フベキ注意
6. 夏期冬期休業中ノ注意
7. 其他

| 學校醫監督事項 | 保護者ヘ「通知」 | |
|---|---|---|
| | 年月日 | 事由 |
| | | |

# 兒童身體檢査原簿

名古屋市葵尋常小學校

| 學年 | 第一學期 | 第二學期 | 第三學期 | 本學年成績 |
|---|---|---|---|---|
| 學科別 | | | | |
| 國語 | | | | |
| 算術 | | | | |
| 歷史 | | | | |
| 地理理科 | | | | |
| 平均 | | | | |
| 書方 | | | | |
| 圖畫 | | | | |
| 唱歌 | | | | |
| 體操 | | | | |
| 裁縫 | | | | |
| 手工 | | | | |
| 平均 | | | | |
| 身行 | | | | |
| 修操 | | | | |
| 缺席日數 | | | | |
| 月 | 缺病 | 席事 | 遲刻 | 早引 |
| 四月 | | | | |
| 五月 | | | | |
| 六月 | | | | |
| 七月 | | | | |
| 九月 | | | | |
| 十月 | | | | |
| 十一月 | | | | |
| 十二月 | | | | |
| 一月 | | | | |
| 二月 | | | | |
| 三月 | | | | |
| 合計 | | | | |

學業成績

保護者業職

保護者名

現住所

出生地

學年 第 學年

大正 年 月 日生

年齡

兒童名

身體檢査

精神上ノ特徴

動作

血族關係

親兩健否

親兩年齡

親兩酒飲有無

兄弟ノ狀況

其他

家庭狀況

父 アリ ナシ

母 アリ ナシ

祖父 アリ ナシ

祖母 アリ ナシ

繼父母 父 母

兄 弟 姉 妹 屋人 男 女 其他

家庭ノ狀況

周圍ノ狀況





## IV. 血族及當該兒童ノ病歷

(IV)

父：生存　健全　病中(病名)　死亡(病名)

母：生存　健全　病中(病名)　死亡(病名)

兄弟姉妹：生存　健全　死亡(病名)

母乳　人工榮養　期間　何歲ノ時始メテ歩行セシヤ　歲

病氣

慢性病(病名)

麻疹、猩紅熱、百日咳、實扶垤里

皮膚發疹

眼病

耳病

手術ヲ受ケタルコトアリヤ

## V. 教員記入事項

I. 家庭ノ狀況(住居、衣服、食物、起眠、家庭業補助、賃仕事、其他衛生ニ關スル事項)

II. 就學後疾病ノ爲メ七日以上缺席セシ時(病名及期間)

III. 授業上注意セシ主ナル事項

IV. 夏期冬期休業ノタメ注意セシ事項

## 健康調

| 兒童氏名 | |
|---|---|
| 年齡 | |
| 保護者氏名 | |
| 在學年月 | 大正　年　月　入學 退學 |

### 身體狀況

| 種別 ＼ 檢査月 | 學年 | 學年 | 學年 | 學年 | 學年 | 學年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 體質 | | | | | | |
| 眼 | | | | | | |
| 視力 | | | | | | |
| 色盲 | | | | | | |
| 耳 | | | | | | |
| 聽力 | | | | | | |
| 鼻 | | | | | | |
| 口及咽喉 | | | | | | |
| 齒牙 | | | | | | |
| 頸腺 | | | | | | |
| 呼吸器 | | | | | | |
| 血行器 | | | | | | |
| 腹部臟器 | | | | | | |
| 神經系 | | | | | | |
| 脫腸 | | | | | | |
| 脊柱 | | | | | | |
| 畸形 | | | | | | |





### 身體ノ狀況

| 身長 | 胸圍 | 脊柱 | 頭圍 | 後經 | 横經 | 頭形率 | 體格 | 眼疾 | 耳疾 | 鼻疾 | 腺病● | 言語● | 顔貌 | 四肢●運動障碍● | 其他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 尺　寸　分 | 尺　寸　分 | | | | | | | | | | | | | | |
| **體重** | **胸形●** | **齒牙** | **榮養●** | | **筋肉●** | | **體質●** | **視力●** | **聽力●** | **咽喉疾●** | **皮膚●** | **脫腸●** | **畸形●** | **色盲●** | **檢査年月** |
| 貫　百　匁 | | | | | | | | 左　右 | 左　右 | | | | | | 大正　年　月 |

（頭圍・後經・横經・頭形率ハ「頭」ノ欄ニ屬ス）

### 既往症

| 歳 | 歳 | 歳 | 歳 | 歳 | 歳 | 歳 | 歳 | 歳 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病名 | | | | | | | | |
| 自 月 日 至 月 日 | 自 月 日 至 月 日 | 自 月 日 至 月 日 | 自 月 日 至 月 日 | 自 月 日 至 月 日 | 自 月 日 至 月 日 | 自 月 日 至 月 日 | 自 月 日 至 月 日 | |

### 現在症

| 月 日 | 病名 |
|---|---|
| | |

疾病ノ經過

### 監●護●

| 月 日 | 月 日 | 月 日 | 月 日 | 月 日 | 月 日 | 月 日 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | |

### 備考

注意（監護ヲ要スル疾病ハ朱書ニスルコト ◎體質ニ關係スベキ疾患ハ既往現在共ニ記スルコト ◎途中入學者ハ前學校名ヲ、視力聽力ニ故障アリテ座席ニ關係アルモノ及机腰掛ノ號數ハ備考欄ニ記入スルコト 著者説明 本簿ハ大正五年度ヨリ使用セラル●ハ著者ノ附セシモノ）

## 査票

| 況 | | | | | 監 | | | | 護 | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 皮膚 | 言語障碍 | 遺傳關係 | 其他 | 保護者ニ通知事項 | 學校ニ於ケル處置 | | 效果 | | 學校醫ノ意見 | | 教師ノ監察 | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |

（著者說明）本票ハ大正六年度ヨリ使用セラル

名古屋市東白壁尋常小學校





監督ニ附スベキ兒童ハ體質不良ト判定セラレタル者タルハ既ニ記セシ所ナルガ更ニ身體狀況ヨリ具體的ニ下ノ如キハ之ニ入ルベシ、榮養不良、貧血、腺病、佝僂性、肺結核ノ疑アル者、診斷確定者ハ昇校禁止、慢性氣管枝加答兒、心臟疾患、癲癇、腎臟炎、鳩胸、脫腸、中耳炎、耳漏、重聽者等皆日常ノ學校及家庭ノ取扱上『監督』ニ附スベキ者ナリ扁桃腺肥大、腺樣增殖ハ速ニ手術スベク、近視ハ適當ナル眼鏡、脫腸ハ手術セザルホカハ脫腸帶ヲ使用セシム、一時性ノ疾患ハ保護者ヲシテ治療セシムルハ勿論ナルガ、治癒後出席セシ時ハ、學校醫臨校ノ際檢診ヲ要スルコトアリ、殊ニ急性傳染病後ノ如キハ是ナリ、是ニ依テ適當ノ注意ヲ與フベキナリ。

『家庭通知』(Mitteilung)之レハ大切ナ事デアリマス、書面ニ依リ(或ハ口頭ニ依ッテ)家庭ノ衞生思想ヲ改善シテ往クト云フ考ヘ、夫レヲ常ニ念頭ニ置キテ、平易ナ書キ方デ出來タ、兒童ノ健康恢復法又ハ疾病ヲ治療ニ附スベキ事ヲ保護者ニ勸告スル書狀ナリ、或場合ニハ學校醫ノ家庭訪問モ必要トナル事ガアリマス、歐羅巴デハ傳染病ノ時ハ學校醫ガ家庭ヲ訪問視察シ、サウシテ色々ナ事ヲ指導スル、歸ッテ來テ他ノ同級生ノ豫防方法ヲ立テルト云フ風ニ遣ッテ居ル所モアリ、又學校看護婦ニ主トシテ家庭視察ヲサス土地モアル、通知書ノ實例ハ學校醫職務規程キースバーデンノ部ヲ參照セラレヨ、此數年來本邦ノ各地デ行ハレテ來リシモノ二三ヲ揭グ。

◉一、二、金澤市學校通知書　三、名古屋市同上

| | |
|---|---|
| 病名 | |
| 校名 | 小學校 |
| 兒童 | 學年　組 |
| 保護者 | |
| 通知月日 | 大正　年　月　日 |
| 備考 | |

## 通知書

學年　組

右貴兒ハ
ト申ス傳染性ノ皮膚病ニ罹リ居ラレ候ニ付テハ早速御家庭ニ於テ御治療被成度候萬一治療セラレザルニ於テハ規定上止ムヲ得ズ校醫ニテ治療（無料）可致候間御承諾相成度候尚健康兒童ヘノ傳染ヲ防グ爲メ必ラズ患部ヲ繃帶シテ登校セシメラルヽ樣御取計相成度又學校ノ養護上他兒童ト相違ノ點モ有之哉不計候間是亦豫メ御承引被下度此段御通知旁貴意ヲ得候

大正　年　月　日

金澤市　　小學校長

金澤市立學校醫　高口保太郎

保護者

殿

（著者説明　本通知書ハ大正五年度ヨリ使用セラル）



| | |
|---|---|
| 病名 | トラホーム |
| 校名 | 小學校 |
| 兒童 | 學年　組 |
| 保護者 | |
| 通知月日 | 大正　年　月　日 |
| 備考 | |

## 通知書

學年　組

右貴兒ハ「トラホーム」ニ罹リ居ラレ候ニ付テハ學校傳染病豫防上本市ノ規定トシテ學校ニ於テ醫師ノ治療（無料）ヲ受ケシムルコトニ相成居リ候間御承諾ノ上所定ノ治療日ニハ必ラズ出席セシメラレ度又他ノ兒童ヘノ傳染ヲ豫防スル爲メ學校ニ於ケル養護上健康兒童ト相違ノ點モ有之哉不計候間是亦豫メ御承引被下度候此段御通知旁貴意ヲ得候

大正　年　月　日

金澤市立學校醫　高口保太郎

金澤市　　小學校長

保護者

殿

追而御家庭ニ於テモ互ヘノ豫防等萬事御注意被成候樣切望致シ候

（著者説明　本通知書ハ大正五年度ヨリ使用セラル）

## 通知書

今回校醫ニ兒童ノ身體ヲ見テモライマシタラ、御宅ノ丈夫ナト云フ處マデハイカナイ樣デ、特ニ今殿ハ身體ガアマリ
ニオカヽリノ御樣子デスカラ、早ク醫者ニカヽツテオ直シナサル樣ニ御注意申上マス。
尙コノ御病氣ニツイテハ、色々學校ノ方デモ氣ヲ付ケマスカラ、御治療ノ御模樣
ヲナルタケ詳シク時々御知セ下サイ。

大正　年　月　日

保護者　名古屋市葵尋常小學校

殿

（著者說明　此通知書ハ大正五年度ヨリ使用セラル）

通知ノ效果

此通知ハ通知シタ結果ガドウデアルカ卽チ家庭ノ反應ハ如何、本邦デ既ニ之ヲ始メタカラ何レ經驗ガ出來テ、成績モ明ニナルト思フ、家庭ニ衞生ノ了解ガアルニ從而成績ハ良イ、余ガザクセン國ニ居タ時ニ同國ケムニッツ市知名ノ學校醫、學校醫長ドクトル、チイーレト云フ人ト知合ニナリシガ其ノ同市ノ一九一一年ノ成績ハ



| 小學校 | 男 | 女 |
|---|---|---|
| 一、生徒數 | 二〇八二六 | 二二二五二 |
| 二、檢査人員 | 一六二三五(七八・〇%) | 一八七六八(八四・三%) |
| 三、監視兒童 | 四一二五(一九・八%) | 四九七一(二二・三%) |
| 四、學校醫通知 | 二九六九(一四・三%) | 三七二六(一六・七%) |
| 五、醫師ノ治療ヲ受ケタルモノ及之ヲ勸告セシモノ | 一三三三(六・四%) | 二〇四二(九・二%) |
| 六、治療ヲ受ケザルモノ | 一三六(八・〇%) | 三〇八(一・四%) |
| 七、通知奏效セザル者 | 一四〇〇(六・七%) | 一三七六(六・二%) |

（備考）保護者ガ校醫ノ檢査ヲ承諾セザル者ハ他ノ醫師之ヲ檢査シテ檢査證ヲ提出スルモノナリ

通知スルモ奏效セザル事アリ何等應ゼザルナリ如此者少カラズ、然時ハ更ニ再三通知シ又ハ保護者會ニテ口頭ニテ談スナリ、同市ハ講話會ヲ校醫ノ職務ノ一ニ規定セル所ナリ。

疾病治療

漢堡市ノ統計(一九一二年)ニヨレバ『通知』ヲ受ケタル家庭ノ六四・八%ニハ奏效セリト。

疾病ト診斷シタル兒童ノ治療ニ就テハ本邦ハ『トラホーム』治療ヲ學校醫ニ擔當セシムル事多シ、余ハ之ヲ必要已ムヲ得ズ起ツタ事ト信ズ、歐羅巴デハ學校醫ノ職務ハ全然衞生上ノ檢査指導監督ト云フ事ニアルカラ、其擔當兒童ヲ治療スルト云フ事ハ禁止シテアル

一般ニ之ヲ職務規程上ニ掲ゲテ禁止シテアル、若シ擔當兒童ヲ治療スル主義ヲ認ムルナラバ其爲メニ非常ニ時間ガ掛ツテ自分ノ職務卽チ衞生上ノ職務ヲ行フ事ニ影響スルカラ學校醫ハ學校衞生ニ從事スルト云フ本職デ通ラヌ者ナラヌ、治療スベキ者ト判定セバ之ヲ保護者ニ通知勸告スベキノデ、自カラ治療ヲスル事ハ特別ノ場合ニ限ラヌ者ナラヌト信ズ。

學校ノ種類ト身體檢査

學校衞生ノ歷史ニヨレバヘルマン、コーン敎授ハ其專門ガ眼科ナリシヲ以テ、兒童ヲ檢査シ、近視眼者ノ多キヲ發見シテ、學校衞生ノ必要ヲ絕叫シ大ニ其發達ヲ催シタル功績アリ、又自カラ進ンデ無報酬ニテ兒童ノ治療モナセリ、同氏ノ門弟等モ同氏ト同ジク學校醫トシテ眼科醫ノ必要ナル事ヲ稱ヘタリシガ一般醫師及ビ學校醫ノ反對アリテ眼科專門ノ學校醫ヲ認メザル事トナツタノデアル。

身體檢査規程ハ小學校、中學校、其他高等學校及ビ實業學校等學校ノ種類生徒ノ種類ニヨリ多少檢査ノ趣ヲ變ヘナケレバナラヌト信ズ、例ヘバ職業ノ關係上或筋肉ノ發達ヲ要スルヤウナ事ガアルデアウ云フ學校ナラバカヽル種類ノ筋肉ノ檢査ガ非常ニ重クナツテ來ルノデアリマス。農業學校、工業學校等ニアツテハ檢査上適切ナル注意ヲ要スル、余ハ今詳シク此點ヲ述ベナイケレドモ其主義ダケハ認メラレン事ヲ望ムノデ、凡テノ學校ヲ一視同仁的ニ一律ノ方針方法デ檢査スルノハ不適當デアルト信ズル。

檢査回數

身體檢査ノ回數　義務敎育期間ニ於テノ身體檢査回數ハ何回ナスベキカノ問題デアリマス、本邦ハマンハイム式ニ則リ現在每年一回四月ヨリ五月ニ亙リテ實行シ、學校長ハ其統計表ヲ府縣ニ提出シ、府縣ハ其年六月末日迄ニ文部省ニ進達スルコトトナツテ居ル、此ノ檢査ハ總檢査又ハ一般檢査又學年檢査ト名ケ就學檢査竝ニ卒業檢査ト名義上區別スルケレドモ內容ハ大差ナク唯意義ト應用トニ考慮ヲ加フルノデアリマス。

總檢査　一般檢査　學年檢査

每年檢査ヲ施行スルコトガ最モ良イノハ別ニ多言ヲ要セヌト信ジマスガ、シカシ民質ノ如キザタセン・マイニンゲン國(此國ハ日本ニ次デ一九〇一年全國ニ國家的ニ學校醫ヲ設置セリ)ノ如キハ普通ハ就學及卒業ノ二回シカ檢査セヌ、卽チ每學年檢査ヲ行ハナイ、一兒童ガ全在校中二回ノ總檢査ヲ受クルニ過ギヌ、其間ハドウスルカト云フニ二週約一回常務的ニ半日三時間位一學校ニ在勤スル、其日ニ校醫ノ臨校ハ豫告セラレアルカラ、豫テ監視中ノ兒童及擔當敎員ニ於テ必要アリト考ヘタ兒童ト、尙又校醫ガ敎場ニ臨ンデ望診シ必要ヲ認メタ兒童トヲ醫務室ニ於テ診察シテ處置法ヲ指示スルト云フコトヲ繼續スル、其他ノ職務ハ職務規程ニ據テ働キ、又臨時召集セラレテ度々臨校スル場合モアルガ、茲ニハ詳述致シマセヌ、扨テ又キースバーデン市ノ如キハ就學卒業檢査ノホカニ隔年總檢査ヲ行ツテ居ル、ト云フノハ、ヅマリ一年(就學)ト八年(卒業生)トハ全部其年ニ檢査スルガ他ノ學年檢査トシテハ各年級ノ半數宛ヲ檢査スル、結局一兒童ハ在學中合計五回ノ檢査ヲ受ケルコトニナルノデアリマス、其間ノ健康監督法ハ前者ト同樣デス、如此總檢査ノ回數ハ(一)每年(二)總計二回(三)隔年ノ三別ガアリマス、私ハ檢査ハ每年十分ニ行フコトヲ希望

シマスガ、若シ現狀ノ儘デ、換言スレバ學校醫ニ十分ノ時間ガナイ、手當モ與ヘラレナイ、其爲ニ毎年檢査シテモ十分目的ヲ達スルダケノコトガ出來ヌトナレバ、隔年法デモヨロシイカラ、良クヤツテ欲シイト思ヒマス此ホカニ必要アル兒童ニツキ臨時ニ檢査スルノヲ

臨時檢査

**臨時檢査ト云フ。**

檢査時期

**檢査時期**ハ就學前檢査ハ可成五歲半位ノ處ガ良イト考ヘマス、檢査成績ノ惡イ者ヲ良クスル爲メノ時ノ猶豫ガアルカラ、若シ少シオクレルナラバ五歲九ケ月位ノ處ガ良イト考ヘマス。

就學檢査ハ四月就學匆々一先ヅザット望診的ニ檢査スルコトヲ主トシ、二週位經ツテ兒童ガ稍、學校ニ慣レテカラヤル、此際母ガ立會セバ最モ良イ、其他ノ學年者ニ就テハ發育比較ノ關係モアルカラ全國一定時季ニ一齊ニ行ヘバヨイ、檢査ニ便宜ノ時季デ宜シイト考ヘマス、或ハ六月ヨリ七月初旬迄デモヨイ、年齡ノ記載ガアルカラ差支ナイ、年齡ハ半歲別ニシテ報告シタ方ガ發育ヲ比較スルニ適當ス。

檢査要目

**檢査要目**ト致シマシテハ健康證ト學校統計表ノ雛形ニ示シタル通リナリ、梗概ダケヲ述ベンニ、身長體重ハ教員之ヲ擔當檢査ス、胸圍ハ胸形異常、胸腔內臟疾病等ニ對シ注意ヲ要スルヲ以テ醫師之ヲ行フ、體質、榮養、貧血佝僂病、腺病等ノ有無ニ特ニ注意スルコト、心肺ノ打聽ハ一般ニ行ヒ、特ニ疑ハシキハ後廻シトシテ同例ニ集メテ精檢スルコト、肺ハ特ニ結核ニ注意ス、心ハ機能及器質ノ障碍ニ分ツ腹部臟器脫腸ニ注意ス、脊柱ハ側彎後屈委勢トシ側彎ニ左右ノ別ヲ要セズ、次ニ四肢、筋肉、關節ニツキ注意シ、視力檢査斜視モ亦注意スベシ屢、精神能力ニ關係アリ)聽力檢査ニ於テハ囁語七米以下ヲ重聽トス、此際大ニ注意ヲ要スルコトアリ檢査者ノ用語、被檢者ノ鄕土音、鄕土語、精神能力發達ノ程度等ノ關係ガ重聽ノ判定ニ影響スルコト大ナリ故ニ檢査者ハ深ク此點ニ顧慮スルコトヲ要ス、本邦壯丁ノ檢査ノ成績ニヨレバ魚(六米)海(六、三米)天(七)耳桃のみ(七、八)三十三、笹、寫眞ノ如キさ行音ハ五十米ノ距離ニテ聞コエト云フ(岩田博士)。



耳病ニハ耳漏、中耳炎ニハ特ニ注意ス、皮膚ニハ疥癬、毛髮、虱、白雲、傳染性皮膚病等、口腔、鼻腔、咽頭ニテハ扁桃腺肥大(大、中、小)腺樣增殖ニ注意ヲ拂フ、腦神經系中低能、癲癇、但シ低能ノコトハ今日ノ學校衞生上補助學校ニ於ケル學校醫ノ職務ナル別章アル程ナレバ茲ニハ之ヲ略ス(本書第九章參照)又神經質(「子ルボジテート」)ハ特ニ注意スベキモノトス。

言語ハ吃、吶其他トス此其他ト云フハ直接ノ言語障碍ト又發聲器官ノ障碍ヲ含ム、言語不明瞭ノ如キ場合ニ舌繫帶、咽頭等ニ異常アルガ如キ是レナリ、齒牙ハ齲齒其他手當ヲ要スベキ點ニ注意シ且ツ齒磨、齒ノ不潔ニ注意ス、上、下、左右ノ區別ヲ要セズ、此他ノ畸形、傳染病、肺以外ノ臟器結核、癩、脚氣、腎臟炎、十二指腸蟲、住血吸蟲病等ノ寄生蟲病ヲ考慮スルハ勿論ナリ、又身體清潔如何ニ注意ス又卒業檢査ノ際ニハ色盲檢査ヲ要ス職業選定ニ關係アレバナリ。

寄生蟲檢査

**寄生蟲病**ハ本邦ノ國民病トシテ意義深シ學校衞生ノ爲メニ之ヲ全縣下ニ行ヒシハ大

正七年愛知縣小學校ニ於ケルモノヲ嚆矢トスベシ、ソハ大正六年十一月余ガ同縣召集ノ學校醫講習會ニ出張ヲ命ゼラレタル時同會ノ議ニ上リ、翌七年初メテ之ヲ實施セシモノニテ實ニ最近本邦學校衛生進歩ノ箴ヲナスモノナレバ茲ニ其成績表ヲ掲ゲ、且ツ小國民ノ保健上喜ブベキ事業ニ對スル縣當局、學校醫諸君ノ熱誠ヲ謝ス、殊ニ直接ノ當局者タリシ、故愛知縣技師同學校衛生主事井谷佐一郎君ノ多大ノ努力奮勵ニ衷心敬意ヲ表セント欲ス、此機會ニ小區域ナレドモ學校兒童檢便ノ文獻二三ヲ參照セン、千葉縣東葛飾郡七小學校兒童二〇八九名ニツキ長尾醫學博士ノナセル成績ハ如次、

千葉

| 保卵者百分比 | 蛔蟲 | 鞭蟲 | 十二指腸蟲 | 東洋毛樣線蟲 | 横川「メタゴニーム」 | 肝臓「チストマ」 | 日本住血吸蟲 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一〇〇 | 九七・三 | 四七・一 | 二八・七 | 四〇・七 | 七・八 | 七・八 | 〇・五二 |

長崎

長崎醫學專門學校土居、平尾兩氏ノ同市二小學校兒童四七六名ノ檢便成績ハ如左、

| 保卵者百分比 | 蛔蟲 | 鞭蟲 | 十二指腸蟲 | 東洋毛樣線蟲 |
|---|---|---|---|---|
| 七〇・五 | 五三・九 | 四五・七 | 五・九 | 二・七 |

長崎市外ノ村落學校兒童三三一名ノ檢便成績ニヨレバ保卵者九八・八％ニ上リ內十二指腸蟲、蛔蟲鞭蟲、共ニ村落兒童ニ著シク多シ、

如此土地ノ狀況、生活狀態等ノ衛生的要約如何ニヨリテ保卵者數率ニ大影響アリ、更ニ兒童ノ健康狀態ニ及ボス關係ヲ明ニスルニ至ラバ學校衛生上ノミナラズ國民保健上ニ裨益スル所大ナルベシ。



大正七年　愛知縣小學校兒童腸寄生蟲檢査成績表

| 郡市 | 學校數 | 男女別 | 檢査人員 | 十二指腸蟲 | 百分率 | 蛔蟲 | 百分率 | 鞭蟲 | 百分率 | 條蟲 | 百分率 | 其ノ他寄生蟲 | 百分率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 愛知郡 | 六 | 男 | 一二〇九 | 三六 | 三、〇〇 | 三〇五 | 二五、二〇 | 一〇 | 〇、八三 | 一 | 〇、〇八 | 二 | 〇、一六 |
| | | 女 | 九三四 | 一七 | 一、八二 | 二四七 | 二六、四〇 | 一七 | 一、八二 | 一 | 〇、一〇 | 一 | 〇、一〇 |
| 東春日井郡 | 二 | 男 | 三六七 | 六七 | 一、八六 | 一〇〇 | 二七、二〇 | 一九 | 一、九〇 | 一 | 〇、〇三 | 六六 | 一、八〇 |
| | | 女 | 二五〇 | 四七 | 一、八八 | 二二五 | 四四、八〇 | 二六 | 一、〇四 | 一 | 〇、〇四 | 三五 | 一、九〇 |
| 四春日井郡 | 一五 | 男 | 五二八 | 四五 | 〇、八六 | 一五七 | 二九、七〇 | 三六 | 一、四九 | 二 | 〇、〇三 | 四三 | 一、〇三 |
| | | 女 | 四三三 | 二四 | 〇、五六 | 一五四 | 三五、〇〇 | 二九 | 一、五〇 | | | 六八 | 一、五七 |
| 葉栗郡 | 七 | 男 | 二七〇 | 一〇 | 三、七〇 | 一四四 | 五七、一〇 | 二八 | 一、〇三 | 三 | 〇、一一 | 二 | 〇、一四 |
| | | 女 | 二三六 | 七 | 三、一二 | 一三六 | 五七、六四 | 一七 | 〇、七四 | 一 | 〇、〇四 | 五 | 〇、二三 |
| 中島郡 | 一四 | 男 | 二九四 | 二九 | 三、五〇 | 一六二 | 五四、〇五 | 一八 | 〇、六二 | 一〇 | 〇、三四 | 八七 | 二、八八 |
| | | 女 | 三三六 | 一三 | 三、八七 | 一四四 | 四二、八四 | 一五 | 〇、四五 | 七 | 〇、二一 | 七〇 | 二、〇八 |
| 海部郡 | 一〇 | 男 | 二七七 | 一六 | 四、四〇 | 一七六 | 四八、四〇 | 一六 | 〇、九二 | | | 一四 | 〇、八二 |
| | | 女 | 二二五 | 一〇 | 三、九〇 | 一四四 | 四四、〇〇 | 一四 | 〇、八〇 | | | 二八 | 〇、八〇 |
| 知多郡 | 二七 | 男 | 二七八 | 一〇 | 三、七〇 | 一二三 | 四六、七〇 | 一四 | 〇、五〇 | 九 | 〇、三〇 | 四一 | 一、五〇 |
| | | 女 | 二〇九 | 八四 | 三、七〇 | 一四四 | 四四、六〇 | 一八 | 〇、九〇 | | | 一五 | 〇、七〇 |
| 碧海郡 | 八 | 男 | 八三一 | 八〇 | 一〇、八〇 | 二六七 | 三二、一〇 | 一九 | 二、三〇 | 一 | 〇、一二 | 一二 | 一、四〇 |
| | | 女 | 六六三 | 七八 | 一〇、七六 | 二二四 | 三四、〇〇 | 一四 | 二、一〇 | | | 一〇 | 一、五〇 |
| 幡豆郡 | 二五 | 男 | 五三〇 | 六七 | 一二、七〇 | 二七四 | 五七、六〇 | 二八 | 二、六〇 | 二 | 〇、〇四 | 一〇 | 一、九〇 |
| | | 女 | 四五六 | 五九 | 一三、九四 | 二〇六 | 四四、六〇 | 一七 | 二、六〇 | | | 一〇 | 二、二〇 |

| 郡名 | 計 | | 八名郡 | | 渥美郡 | | 賀茂郡 | | 南設樂郡 | | 北設樂郡 | | 東加茂郡 | | 西加茂郡 | | 額田郡 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 全管合計 | 三六七 | | 二六 | | 九 | | 三一 | | 一八 | | 二九 | | 三一 | | 三〇 | | 一九 | |
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 在籍人員 | 二六八六 | 二五八五 | 六九九 | 二五九 | 三四三 | 二七〇 | 六四一 | 五八六 | 二四七 | 二三八 | 二七〇 | 二八六 | 二七〇 | 二三七 | 三九六 | 三九三 | 二四三 | 二〇二 |
| 檢査人員 | 七二三 | 三五八 | 四三五 | 一四二 | 一〇 | 一九 | 五一三 | 四四二 | 四四 | 一四 | 一五五 | 一〇五 | 一三五 | 一三 | 一四六 | 一七九 | 二二五 | 四九五 |
| 十二指腸蟲 | 六六〇 | 六六一 | 二六六 | 六一六 | 三一五 | 四一〇 | 七一八 | 六一六 | 一一六 | 一一九 | 六一三 | 五一五 | 五一八 | 五一〇 | 五一九 | 五一八 | 五五九 | 二四一 |
| 蟯蟲 | 四六四〇 | 二六六 | 二六七 | 一四九 | 一五四 | 一四五 | 二七八 | 二六七 | 七七五 | 七七八 | 一四一 | 二二六 | 一四一 | 七六〇 | 九二三 | 九八三 | 一二三 | 五八三 |
| 鞭蟲 | 四一四九 | 四一四一 | 二四七 | 二五六 | 五四一 | 五四〇 | 三二八 | 三一三 | 二二八 | 二六七 | 六七六 | 六六八 | 二二五 | 一〇三 | 一二六 | 一五六 | 二七一 | 二八七 |
| 蛔蟲 | 三六七 | 三四七 | 六九 | 六七 | 七七 | 七七 | 九一 | 七七 | 二九七 | 四一 | 七七 | 八四 | 二五 | 一〇一 | 一三六 | 一四〇 | 一一二 | 一一三 |
| 條蟲 | 四六 | 三七 | 二六 | 二三 | 二八 | 一一 | 二八二 | 二六六 | 一一 | 一一 | 三九一 | 三八七 | 一 | 一 | 三 | 三 | 一 | 一 |
| 鉤蟲 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇二 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇五 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 |
| 其他寄生蟲 | 一四五 | 一八三 | 一四二 | 一三二 | 一三二 | 一二〇 | 二二六 | 二二〇 | 二九 | 二四 | 一六五 | 一四七 | 一〇 | 七一 | 二六 | 二八 | 六 | 八 |
| | 二九八 | 二九八 | 二四七 | 二四七 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 | 二四八 |





## 大正七年 愛知縣小學校兒童腸寄生蟲年齡別統計表

| 年齡 | 男女別 | 在籍人員 | 檢査人員 | 十二指腸蟲 | 百分率 | 蛔蟲 | 百分率 | 蟯蟲 | 百分率 | 條蟲 | 百分率 | 鉤蟲 | 百分率 | 其他寄生蟲 | 百分率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 七年 | 男 | 六一四六 | 五四一二 | 二五七 | 四七五 | 二三八〇 | 四七九 | 一四七 | 二七九 | 三 | 〇〇五 | 〇〇五 | 〇〇五 | 一四五 | 二八六 |
| | 女 | 六一五三 | 五四九九 | 二三五 | 四五五 | 二二五 | 四五四 | 一九 | 二四七 | 三 | 〇〇五 | 〇〇五 | 〇〇五 | 一八三 | 二五五 |
| 八年 | 男 | 一〇九三五 | 九四〇七 | 五六六 | 五八九 | 二四〇二 | 四四七 | 一四九 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四二 | 二五六 |
| | 女 | 一〇四六二 | 九九七二 | 五四一 | 五四一 | 二二五 | 四四八 | 一四八 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四〇 | 二五〇 |
| 九年 | 男 | 九六二四 | 九四七七 | 五六〇 | 五八九 | 二四七 | 四四七 | 一四六 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四七 | 二五六 |
| | 女 | 九四四四 | 九四七一 | 五一四 | 五六七 | 二二八 | 四四八 | 一四八 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四〇 | 二五〇 |
| 十年 | 男 | 一〇〇七一 | 九七八一 | 五四五 | 五四五 | 二二四 | 四四七 | 一四六 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四七 | 二五六 |
| | 女 | 九八一五 | 八八一五 | 五四五 | 五四五 | 二二四 | 四四八 | 一四八 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四〇 | 二五〇 |
| 十一年 | 男 | 一〇〇四三 | 八八三〇 | 五七七 | 五六八 | 二二六 | 四四七 | 一四六 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四七 | 二五六 |
| | 女 | 九〇四七 | 七七八五 | 五九六 | 五六八 | 二二六 | 四四八 | 一四八 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四〇 | 二五〇 |
| 十二年 | 男 | 九八六六 | 八二四四 | 五五五六 | 五六一 | 二二四 | 四四七 | 一四六 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四七 | 二五六 |
| | 女 | 八二四四 | 七〇二二 | 四四一 | 四四一 | 二二四 | 四四八 | 一四八 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四〇 | 二五〇 |
| 十三年 | 男 | 六五五七 | 四五二四 | 二二七 | 二二五 | 一二六 | 三一九 | 一四〇 | 二四七 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四七 | 二五六 |
| | 女 | 六五五六 | 四五二四 | 二二七 | 二二五 | 一二六 | 三一九 | 一四〇 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四〇 | 二五〇 |
| 十四年 | 男 | 四七六〇 | 二二九 | 一四一 | 一二五 | 一二〇 | 三一八 | 一四〇 | 二四七 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四七 | 二五六 |
| | 女 | 四七六〇 | 二二九 | 一四一 | 一二五 | 一二〇 | 三一八 | 一四〇 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四〇 | 二五〇 |
| 十五年 | 男 | 三〇〇三 | 一八六四 | 一一二 | 一一二 | 一一〇 | 三一八 | 一四〇 | 二四七 | 三 | 〇〇五 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四七 | 二五六 |
| | 女 | 二七五一 | 一六八一 | 一一二 | 一一二 | 一一〇 | 三一八 | 一四〇 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四〇 | 二五〇 |
| 十六年 | 男 | 二七五〇 | 二三五 | 一〇二 | 一一六 | 一一〇 | 三一八 | 一四〇 | 二四七 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四七 | 二五六 |
| | 女 | 二二八 | 九四 | 一〇二 | 一一六 | 一一〇 | 三一八 | 一四〇 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四〇 | 二五〇 |
| 十七年 | 男 | 六二 | 一 | 一六六 | 一四五 | 一〇〇 | 三一八 | 一四〇 | 二四七 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四七 | 二五六 |
| | 女 | 六二 | 一 | 一六七 | 一四五 | 一〇〇 | 三一八 | 一四〇 | 二四八 | 三 | 〇〇四 | 〇〇四 | 〇〇四 | 二四〇 | 二五〇 |

終ニ尙ホ一言發育ニ關シ概括的ニ述ベタイ。

余ハ身體檢査ニヨツテ從來通リノ形ト質トヲ混ゼタ所謂强健中等薄弱ノ三種ノ批評ヲスルノハ善クナイ、シカシ發育ハヤハリ繼續シテ見ル必要ガアルト申シタノデス、結局ドウ云フ風ニ夫ヲ改メルカト申スト、從來ノ身長體重、胸圍ヲ基トスル强健、中等、薄弱ノ體格批評ハ廢止スル、併シ身長、體重、胸圍ノ三ハ從來通リ檢査記載スル、體格ヲ廢スル代リニ新ニ體質欄ヲ設ケテ之ヲ良、中等、不良又ハ甲、乙、丙等ノ三種ニ區別スル、從前ノ强健、中等、薄弱ノ區別ニ就テハ明治三十四年文部省ノ通牒ニヨリテ强健ハ發育榮養共ニ佳良ニシテ强壯ナル者、中等ハ少クトモ發育榮養中等ニシテ持久性ノ疾患ナキ者、薄弱ハ前二項ニ該當セザル者トシテアリマスガ、發育トシテ身長體重、胸圍ノ各年齡ニ於ケル中等發育表ニ據リテ中等發育ヨリ勝レルモノ、同等ノ者、劣レル者ヲ對照シ三種ノ批評ヲ加フルモ乍併長、重、圍ノ三因子ニ對シテ各當該因子ヲ比較スルノ繁アルノミナラズ比較ストモ個體ノ三因子ガ均等的ニ比較シ得ザル場合少カラズ、例ヘバ體重、胸圍ニ於テ優秀ニシテ且ツ其個體ガ强壯ナル場合ニモ身長ニシテ中等發育ノ水準ニ劣ルガ如キコト少カラズ、爲ニ之ヲ强健トシ難ク中等トスルモ不當ナリトスル困難事實アリ、身體檢査ノ目的ハ既ニ述ベタル如ク之ニヨリテ各個體ノ授業上ノ注意、法竝ニ健康增進若クハ輕快、恢復法ヲ講ジ、マタ同級生ニ對スル害的影響ノ有無等ヲ見ルノ規準ヲ得ルニアリ、之ヲ得テ然後相當ノ善後策ヲ執ル可キナリ、此意味ニ於テ從來ノ强健、中等、薄弱ノ評價ハ個體ノ健康策ニ利用ス



ル事甚ダ困難ナリ、評價其物ガ既ニ困難ニシテ適當ナル標準ヲ求メ難キ上ニ而モ苦心ノ效益少キモノナレバ、之ヲ廢止スルニ如カズ、況ンヤ、形質混合シタル評價法ニシテ不當ノ點アリトノ卑見ナリ。

如此シテ體格强、中、弱ナル欄ヲ取去ルモ、長、重、圍欄ハ其儘トシテ每檢査時之ニ記入シ單票健康簿ヲ用フベシトス、又學校ト、シテノ統計ハ從來通リニ之ヲナスノデアル、各單票ニハ檢査通リノ長、重、圍ヲ記入シ學校統計ハ平均シタル長ト重ヲ載セ體格欄ハ取去ルナリ、個體トシテハ健康簿ニ記入セラレテ其發育經過ヲ見ルヲ得ベク、又學校統計トシテハ從來ノ如ク平均數ヲ出シテ揭ゲルノデアル、之ヲ比較スルト云フ事ニナルト聊カ又卑見ヲ述ベネバナラヌ。（備考、胸圍ハ發育上カラハ長、重ホドニ意義ガナイカラ統計表ニハ略ス）

ビチ、ボルチハルト其他諸氏ノ發育判定法ガアルケレドモ學校ニ於テハ煩ニシテ應用シ難キノミナラズ是亦學校身體檢査ノ目的ニ役立タズ。

比較スルニ最モ都合良カラントト考フルハ第一ハ、余ノ私見デハ、全國各郡市ノ各十ケ年位ノ統計ヲ得テ見タイト思フ、ソシテ又之ヲ縣トシテ統計シテ見タイト思フ、ト云フノハ余ハ人種的關係ヤ、生活要約、季候、地勢、住居、食物、仕事、地方病等ガ働イテ發育ニ影響シテ居ル狀況ヲ見度イノデアル、文部省デハ每年全國府縣ヨリ集マル各學校ノ統計ヲ全部集計シ難イガ爲ニ平等的ニ之ヲ簡拔シテソレヲ集計スル事ニナツテ居ルガ、私ハ之ヲ一定ノ見當、例ヘバ此生活要約等ノ關係ヲ同ジクスル土地〳〵例ヘバ九州ハ三分ナリ五分ナリ

ニ別チテ統計ヲ試ミ、四國ハ二分、山陽モ二分スルトカ云フ風ニ統計シテ見タラバ、全國平均以外ニ或物ヲ得ラレルカト思フ、現ニ壯丁ノ如キモ或縣ノ山地デハ重、圍ノ美事ニ發育シタ者ガ多數アルモ其長ガ低イ、水田地方デハ重、圍劣リテ長ガ十分アル者ガ多イナドノ事ガアリ、又學校兒童デモソンナ傾向ヲ認メ得ラル、所ガアル、大分種々ノ差違點ガ土地ニヨツテ認メラルト思フ、ソレデ一學校デノ統計トシテ比較スルニハ第一其地方デ(或ハ郡デ)十ケ年位ノ統計ヲ作リ夫ト比較スルガ良イト思フ、然時ハ長、重、圍ガドウナルカ、勿論如何ニ出產、養育、榮養、其他ノ後天的要約ヲ良クシタカラトテ先天的遺傳ニ超越シタ異常ノ良發育ハ得ラレヌガ、ジカシ後天的要約ガ良ケレバ先天的ニ有スル素因ノ發育ヲ十分ニ遂ゲ得ルヤウニ出來ルノデアルカラ、發育ノ良否ヲ見ルト云フ事ハ此爲ニ必要デアルガ、私ハ可成生活要約等ノ同ジ土地ノヲ先ヅ比較スル事ガ良イト思フ、山地ノ統計デ背ガ低イ、重圍ガ良イ、ソレヲ大都市ノ兒童ノ長ノ高イモノニ比較シテ直ニ其土地ノ統計ノ良否ヲ定メルコトハ出來難イト思フ、勿論其先キ〳〵研究ノ爲ニ各異レル土地〳〵ト比較スル等ハ必要デアルガ、學校衛生上デハ一個體、一學校ノ全兒童健康增進ニ效益アラシメル事ヲ以テ主トセネバナラヌ、其爲ニハ先以テ縣下各郡ナリ市町ナリノ統計ニ比較シテ優劣ヲ見ルガ良イト思フ。

文部省ノ統計ハ先以テ日本兒童ノ發育平均デアルカラ、各地デソレニ比較スルハ固ヨリ良イ、是ハトニカク、多年、每年數十萬或ハ多イ時ハ百萬ヲ超ヘタル數ヲ統計セラル、ノデ本邦デ之ニ越シタル兒童發育統計ハナイ、其平均ニ比較シテ見ルト云フコトハ良イガ之ヲ以ツテ直ニ强、中、弱ヲ定メ難イト信ズル。序ニ云ツテ置キマスガ、文部省ノ統計法ハ兒童ノ頭數ダケノ身長ヲ加ヘ之ヲ頭數デ割ツタモノ卽チ身長ノ平均數デアル、統計ハ數ガ多イカラ價値ガアル、然ルニ學校兒童ヲ見ルト同年級デ最長最小ガアツテ夫ニ近イモノガ少數アツテ、ソレカラ大差ナイ中間ノ者ガ多數ヲ占メテ居ル、此多數者ヲ平均シタ者ハ比較上價値ガアルケレドモソレニハ十分文部省ノ如クニ何十萬何百萬ト云フ多數ニ就キテ統計シタモノデナクテハ當テニナラヌ、マダ誰モソウイフ統計ヲシタ者ハ日本ニアリマセン、唯ノ數千名ヲ統計スルトテ各人ノ單票ヲ集メテヤラネバナラヌノデ大抵ノ時間デハ出來ナイ、數千ヤ數萬デハ一土地ナラバ比較ノ價値ハアルケレドモ全國比較ノ基數ニハナラヌ、私ガ各郡アタリカラ貰ツタモノヲ見テモ縣ガ異ルト相當差異ガアリマスカラ、全國相手ナラバ餘程多數ヤラネバ役ニ立タヌソレデ文部省ノ統計ノホカニハ全國トシテハ比較スベキ良統計ハ無イノデス、序ニ余ノ注意トシテ揭ゲ度イノハ本邦小學校兒童ノ發育統計ニハ單ニ七歲、八歲又ハ一學年、二學年トアツテモ年齡ヲ見レバ七歲ノ內ニモ七歲ノ者ト七歲十一ケ月ノ者トガ居ル之ハ發育ノ上ニ大ニ差ヲ現ハスモノデアルカラ此點ヲ考ヘテ置クベキモノト信ズ、發育ハ學校以外デハ檢査ハ出來ナイ、學校デ見テ置ケバ間接ニ他ノ專門ノ爲ニモ役ニ立ツ、直接ニハ一般ニ發育良好者ニ學科成績ノ良イ者ガ多ク、又低能兒ニハ發育ノ惡イ者ガ多イ、發育ヲ見ル事ハ繼續スベキモ、私ハ各個人ノ

健康狀態ハ之デハワカラナイ、又統計表トシテモ從來ノ如ク强健者ガ幾%、薄弱者ガ幾%ト揭ゲテアッテモ然ラバソレカラ眞ノ健康者强壯者ガ幾%健康不良者ガ幾%アル、依テ何郡地方ハ善後策ヲドウセ子バナラヌ、或ハ日本ノ小學校兒童ハコレデハ困ルカラ體育ヲドウセ子バナラヌ、食物ハドウセ子バナラヌト云ッタヤウナ案ガ出テ來ナイ、カルガ故ニ體格批評ハ廢シテ體質トスルト云フ譯デアル私ガ外國デ調ベタ所デハ皆一般ニ體質又ハ體質又ハ體質及榮養トシテ日本ノ體格ニ代ヘテ居ルカラ色々取調ベテ比較シテ見テ遂ニ如右卑見トナッタノデアリマス。

統計法

却說又從來ノ單票即チ各兒童ノ爲メノ檢査票ハドウ改メルカ、又學校統計表ハドウ改メルカト云フニ單票ニハ兒童ノ健康ト授業ト同級生ニ影響スル事トニ重要ナル意義アル狀態ヲ選ミテ相當欄ヲ設ケテ記入スル、又統計表ニハ身體檢査ノ目的ニ合致シタ統計欄ヲ設ケテ記入スルノデ其示例ヲ別表ニ揭ゲテ大方ノ叱正ヲ乞フ。

備考　統計表ニハ學年檢査ノ際發見セシ疾病其他ヲ集計スルホカ每月臨校ノ際ニ發見シタルモノ（何レモ健康簿ニ記入ス）ヨリ集計ス依是前學年檢査後ノモノモ亦新當該學年級ニ集計ス殊ニ急性傳染病ノ如キ是ナリ。

傳染病ノ統計

又小兒急性傳染病ハ兒童ノ健康上及學校ノ利害上重大ナル影響ヲ及ボス者ナルヲ以テ特ニ一學年間ノ統計表ヲ製シ府縣長官ニ報告スルノ價値アリ左ノ作表ノ示例ヲナス。

| 消化器 | | | | 泌尿器 | | | 皮膚毛髮 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 齒牙 | 胃 | 腸 | 脫腸 | 腎臟炎 | 夜尿 | 其他 | 濕疹 | 疥癬 | 毛髮蝨 | 傳染性皮膚病 | 其他 |

| 耳 | | | 寄生蟲 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 耳漏 | 中耳炎 | 其他 | 十二指腸蟲 | 住血吸蟲 | [illegible] |

備考　統計表ニハ學年檢査ノ際發見セシ疾病其他ヲ集計スルカ或ハ臨校ノ際ニ發見シタルモノ(同レモ健康簿ニ記入ス)ヨリ集計スル依是前學年檢査後ノモノモ亦新令該學年級ニ集計ス殊ニ急性傳染病ノ如キ是ナリ。

傳染病ノ統計　又小兒急性傳染病ハ兒童ノ健康上及學校ノ利害上重大ナル影響ヲ及ボス者ナルヲ以テ特ニ一學年間ノ統計表ヲ製シ府縣長官ニ報告スルノ價値アリ左ノ作表ノ示例ヲナス。

府　郡　町
縣　市　村

# 小學校身體檢査統計表

大正　年　月

(1)

| 檢査項目＼學年 | | 第一學年 男 | 第一學年 女 | 第一學年 合計 | 第二學年 男 | 第二學年 女 | 第二學年 合計 | 第三學年 男 | 第三學年 女 | 第三學年 合計 | 第四學年 男 | 第四學年 女 | 第四學年 合計 | 第五學年 男 | 第五學年 女 | 第五學年 合計 | 第六學年 男 | 第六學年 女 | 第六學年 合計 | 總計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 總員數 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 檢査員數 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 體質 | 甲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 乙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 丙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 發育 | 身長 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 體重 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 榮養 | 良 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 不良 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全身病 | 貧血 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 腺病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 佝僂病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 脚氣 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 傳染病 | a)麻疹 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 水痘 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 百日咳 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 猩紅熱 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 實扶垤里 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 流行性耳下腺炎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 狂犬病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | b)肺結核 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 肺結核ノ疑 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他ノ結核 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | c)其他ノ傳染病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 呼吸器 | 扁桃腺肥大 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 腺樣增殖 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 兒答氣管枝加 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 心 | 器質障碍 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 機能障碍 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 腦神經 | 低能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 癲癇 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 言語障碍 吃 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 言語障碍 吶 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 言語障碍 其他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 消化器 | 齒牙 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 胃 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 腸 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 脫腸 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 泌尿器 | 腎臟炎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 夜尿 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 皮膚毛髮 | 濕疹 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 疥癬 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 毛髮風 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 傳染性皮膚病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

# 大正　年度傳染病一覽

校名　郡　町村　小學校

| 學級 | 第一學年 | | | 第二學年 | | | 第三學年 | | | 第四學年 | | | 第五學年 | | | 第六學年 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 學齡 | 第一學年 | | | 第二學年 | | | 第三學年 | | | 第四學年 | | | 第五學年 | | | 第六學年 | | |
| 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 | 學齡 |
| 注意 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 |

注意　印刷ノ事

| 檢査項目 | | | 第一學年 男 | 第一學年 女 | 第一學年 合計 | 第二學年 男 | 第二學年 女 | 第二學年 合計 | 第三學年 男 | 第三學年 女 | 第三學年 合計 | 第四學年 男 | 第四學年 女 | 第四學年 合計 | 第五學年 男 | 第五學年 女 | 第五學年 合計 | 第六學年 男 | 第六學年 女 | 第六學年 合計 | 總計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 骨筋肉關節 | 斜類 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 四肢 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 關節 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 胸廓 | 鳩胸 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 其他ノ異常 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 脊柱 | 側彎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 後屈 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 委靡不瓦 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 其他ノ脊柱病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 畸形 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 眼 | 近視 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 遠視 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 色盲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | トラホーム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他ノ傳染性眼病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 耳 | 重聽 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 耳漏 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中耳炎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 寄生蟲 | 十二指腸蟲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 住血吸蟲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 其他 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

## 重要事項統計

I. 『監督』ニ附セシ兒童數

男
女　　合計

II. 『家庭通知』ヲナセル兒童數

男
女　　合計

III. 疾病ノ爲メ七日以上缺席セシ兒童數

男
女　　合計

IV. 疾病缺席者全日數ノ平均

V. 死亡者數

VI. 傳染病發生ノ爲メ一部若クハ全部ノ學校閉鎖

其病名　　期間

VII. 夏期休業中林間學校海濱學校其他ノ健康恢復方法ニ附セシ兒童

方法ノ種類　　期間　　男　　女　　合計

VIII. 其他

備考

現行ノ小學校身體檢査ノ項目ヲ改メテ本表ノ如クナストキハ身體檢査ノ目的則チ兒童ノ健康狀態ヲ檢定シ之ニヨリテ學校ニ於ケル取扱方健康缺陷アル者ノ輕快又ハ恢復ノ方法ヲ案出シ得ベク且又各學校ノ健康狀態其否ヲ比較シ學校別、地方別等ニ適當シタル善後策ヲ立テ得ベシト信ズ

醫學博士　石原喜久太郎撰

| 學年 / 檢査項目 | 第一學年 | | | 第二學年 | | | 第三學年 | | | 第四學年 | | | 第五學年 | | | 第六學年 | | | 總計 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | 男 | 女 | 合計 | | | |
| 骨 | 鎖骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 肋骨 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 筋 | 關節 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 肉 | 胸郭 | 畸胸 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 其他ノ異常 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 關節 | 脊柱 | 側彎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 後凸 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 姿勢不良 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 其他ノ脊柱病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 畸形 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 眼 | 近視 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 遠視 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 色盲 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | トラホーム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 其他ノ傳染性眼病 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 聾 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 啞 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



# 大正　年度傳染病一覽

郡市　町村　小學校　校名

| 學級 / 病名 / 發生月 | 第一學年 | | | | | | | | | | | | 第二學年 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 麻疹 | 風疹 | 百日咳 | 流行性耳下腺炎 | 猩紅熱 | 日本紅斑熱 | 赤痢 | 腸窒扶斯 | 流行性腦脊髓膜炎 | 流行性感冒 | 結核 | 其他ノ傳染病 | 麻疹 | 風疹 | 百日咳 | 流行性耳下腺炎 | 猩紅熱 | 日本紅斑熱 | 赤痢 | 腸窒扶斯 | 流行性腦脊髓膜炎 | 流行性感冒 | 結核 | 其他ノ傳染病 |
| 四月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 五月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 六月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 七月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 九月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 十月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 十一月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 十二月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 死亡數 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 各級病數 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

注意
四月ノ部ヨリ翌年三月ノ部ヨリ十二月ノ部ヨリ翌年三月ノ部ヨリ翌年三月ノ部ヨリ翌年三月ノ部ヨリ

**結論**　身體檢査殊ニ總檢査ハ當該學校兒童ノ健康保護ノ爲メニ各兒童ノ健康狀態ヲ檢査シ、又授業上ノ關係ヲ明ニシ、障碍、異常アル各兒童ニ適切ナル善後策ヲ講ズベキ規準ヲ得ルニアリ而シテ依是夫々必要ナル方法ヲ執ルベキナリ、兒童ノ健康增進、疾病狀態輕減、恢復等ノ爲ニ直接必要ナル判定ハ體質デアツテ體格デハナイ、又疾病ノ種類ハ申ス迄モナクアラユルモノガ可能ナレドモ兒童期ニ來ル疾病ノ種類殊ニ學齡中ニ於ケルモノデ意義重要ノモノヲ念頭ニ置キテ檢査シ記載シ計上スル事ガ主ナリト思フノデアリマス、私ガ一寸表ヲ作ツテ出シマシタノハ唯一例デアツテ、一層良キモノハ多數ノ人ガ多年カヽツテ經驗シタモノニヨリテ作リアゲネバナラヌカラ唯例示ニ過ギマセヌ故御諒恕ヲ乞フ健康簿ニシテモ統計表ニシテモデス、統計表ハ當該校ノ兒童ノ健康良否ガ判定出來ルモノデナケレバナラヌト考ヘマス、之ガ集マリテ例ヘバ文部省ノ全國統計トナツタ時ニ國民保健中ノ小國民ノ健康狀態改善向上ノ指針ヲ得ルモノデナケレネバナラヌト考ヘマス。

學校醫ナリ學校長ナリニ餘リ面倒トナルデハナイカ、實行出來ヌ要求デハナイカトノ異論モアリマシヨウガ、ソコガ現狀ヲシテ向上發展セシメル策ト考ヘマス、必ズシモ毎年檢査デナク隔年デモヨイカラ前述ノ主旨ニ適フベク改メタイ、發育ニ關シ殊ニ人種關係ノ點ハ私ハ淺學ニシテ不確實ノ處アリト考ヘマスガ唯カヽル關係ヲ常ニ念頭ニ置キテ檢査ナリ統計ナリノ研究ニ當ラレンコトヲ乞フノデアリマス。

# 第六章　職業選定 (Berufswahl)

職業選定ト云フ事ハ、學校衞生上近年ニナツテ起ツタノデアル、獨逸デハ凡ソ十ケ年來ノモノデアリマス、其起ツタ理由ハ主トシテ小學校卒業後ニ、其個體ヲ長ク健康ニ保存ヲスルト云フ事ガ、當人ノ爲メハ素ヨリ、社會ノ爲メニ大ナル利益デアルト云フ觀念ニ基イタモノデ學校醫ヲシテ職業選定ト云フ事ヲ行ハシムル事ニナツタノデアル、獨リ普通ノ小學校ノミナラズ低能兒學校デモ亦必要トシテ實行スル。

夫レデ其方法ハ卒業セントスル學年ノ兒童ヲ身體檢査(卒業檢査)シテ保護者ヲ學校ニ喚ビ、兒童ト同席セシメ斯ク〳〵ノ理由デ斯ウ云フ種類ノ仕事ニ這入ツタ方ガ當人ノ爲メデアルト、直接ニ敎ヘルノデアル、又保護者會ニ對シテ學校醫ガ平素衞生講話ヲスル機會ガアルガ、此衞生講話ハ土地ニ依ツテハ學校醫ノ職務ニナツテ居テ、例ヘバ市ノ專任校醫ハ二週間ニ一回保護者會ニ於テ衞生ニ關シタ演說講話ヲシナケレバナラヌ、或ハ保護者ニ向ツテ直接其人ノ子供ノ身體ノ取扱ヲ口頭デ話シテ遣ラナケレバナラナイト云フ規定ノ土地モアツテ、ケムニッツノ如キハソレデアル、サウ云フ際ニ又廣イ意味デ職業選定ニ關スル講演ヲシテ居ルノデゴザイマス學校ニ於テ此職業選定ヲ實行スル事ハ强チ經費ヲ要スル事デモナイト思フ、余ハ大正三年文部省ノ學校衞生講習會以來其事ヲ推薦シツヽアリ、石川縣金澤市ノ高口學校醫ハ大正五年同市ノ學校デ職業選定ト云フ事ヲ試

ミラレタノデアル勿論職業選定ハ學校醫ガ兒童在學中ノ健康狀態ヲ能ク承知シテ居ナイト十分ニハ出來ナイ仕事デアル、在學以來健康簿ガアツテ、第一回身體檢査ノ折ハ之レダケノ健康狀態デアツテ、第二回ハ何ウ、第三回ハ何ウト、又毎月一回或ハ二回ノ學校視察ノ際ニ健康上特ニ注意スベキ兒童ヲ發見スレバ其大切ナ事ヲ健康簿ニ記載シナケレバナラヌ、夫レデ各兒童ノ健康上重要ナ出來事ハ當該學校醫ガ終末學年迄ニ既ニ了解シテ居ル譯デアル、從テ職業ヲ選定スル際ニ當該兒童ニ適當ナル職業ヲ指定シ得ルノデアル、現在吾々ガ卒業スル子供ノ將來ノ方針ヲ選定スルニハ、家ニ學資金ガ有ルカ無イカトカ、又肺病デデモアルカ無イカ位ノ事デ職業ノ選定ヲシタリ、或ハ學校ヲ選ブト云フ位ノ事デ、其他ニ確實ナル考ヘモアルマイト思フ、少クトモ私共ノ保護者ニハ無カツタロウト思フ。

選定標準

職業ノ選定標準ハ如何ト云フニ此點ハ保護者、教員等ニ十分諒解ノ出來ルヤウニ說明スルノガ必要ト思フ依テ其程度ニ於テ述ベ度イ。

發育榮養不良

第一ニ卒業スル兒童ガ一體ニ身體ノ發育ガ惡イ、身體ノ榮養狀態ガ惡イ時、此榮養狀態ノ惡イト云フ事ハ唯食物ガ粗末ノ爲メト云フ事デハナイ、食物ガ粗末デモ榮養狀態ノ善イ者ガ幾ラモアル、其原因ハ勿論食物ニモ關係ガアルガ尙ホ他ニモ重要ナ原因ガアル、皮膚ノ色ナリ、血色ナリ脂肪ノ出來方ナリ、筋肉ノ發達ナドガ惡イノデ健康上カラ云ツテ何ウシテモ良イ身體デナイ、サウ云フ者ニハ親ニ勸メルニ他家ヘ奉公ニ出ストカ、云フヤウナ事デナク、女兒ナラバ家事ノ手傳ヒデモスル、妹ヤ弟ノ面倒デモ見セルト云フヤウナ事ヲ勸告シ、一年位ハヨソノ仕事ニ就ク事ヲ猶豫サセル、或ハ夫レニ類似ノ程度デ、豪ク身體ヲ弱メナイデ、氣樂ナ相當ノ職業モアル、又男ノ子供ニモ同趣意ニヨツテ職業ヲ選バセル成可ク勞力ノ劇シクナイ職業ニ從事スル方針ヲ執ラセル。元來職業モ隨分澤山ノ種類ガアル實際ノ職業ハ書上ゲルト非常ニ數ノ多イモノデアル。東京市市立特殊學校(貧民學校)玉姫尋常小學校保護者ノ職業調ニヨルニ、極貧乏ナ人達デアルカラ範圍モ自然限ラレテアルガ、百四十四種ノ職業デアル、內閣統計局邊デハ似寄ツタモノヲ整理シテ二十六種位ニ分ケテアルガ實際ノ職業ト云フモノハ隨分澤山アルモノト云ハネバナラヌ、要スルニ身體ヲ調ベテ適當ノ職業ヲ指定シ得ルモノデアル。

呼吸器疾患

第二ニ前者ノ如ク身體ガ一般ガ弱イモノデナク、身體ノ或部分ガ特ニ惡イ者、呼吸器系統ノ抵抗力ガ弱イ、言ヒ換ヘレバ能ク風邪ヲ引ク、氣管枝加答兒ニ能ク罹ルト云フヤウナ事ガ在學中ニ多クアツタトカ肺炎ニデモ罹ツタトカ、マダ肺結核ト云フ譯デハナイケレドモ呼吸器ノ働キノ弱イト云フノデアル、斯ウ云フ者ニハ次ニ述ベル職業ハ甚ダ不適當デアル例ヘバ塵埃ガ能ク立ツト云フヤウナ職業ハ、呼吸器系統ノ弱イ者ニハ宜シクナイ。始終塵埃ノ多イ仕事ニ從事スレバ弱イ呼吸器ヲ益々惡クシテ遂ニハ肺結核ニナル虞ガアル。此塵埃ノ成分ハ色々アル例ヘバ鑛物性ノ塵埃、瀨戸物ヲ製造スル所ニハ鑛物性ノ塵埃ガ立ツ、石ノ仕事ヲスル石工、夫レカラ「セメント」ノ工業、硝子磨等ハ鑛物性ノ塵埃中ノ職業

ナリ、次ニ金屬性ノ塵埃之レハ金物ノ仕上ゲ職業等デアル其他塵埃ノ多ク立ツ仕事トシテハ纖維工業、紡績業ノ如キモノ、煙草製造所夫レカラ米搗屋等ノ植物性ノ塵埃デアル、又煙突掃除ダトカ石版、印刷、諸學校ノ掃除小使、サウ云フヤウナ者ハ、皆此塵ニ餘計接觸スル所ノ職業デアツテ、斯ウ云フノハ呼吸器ノ弱イ者ニハ甚ダ宜シクナイ、又呼吸器系統ノ弱イ者ハ風邪ヲ引キ易イ仕事ニハ不適當デアル、風邪ヲ引キ易イ仕事ト云フノハ色々アリマセウガ極端ナ例ヲ申スト、電車ノ運轉手ハ強イ風ニ當ル爲メニ體溫ヲ早ク強ク脱却サレル、其結果風邪ヲ引キ易イ事ニナル、又急ニ自分ノ居ル場所ノ空氣ノ溫度ガ變ルモノ、氷水ノ中カラ、熱イ湯ノ中ヘ飛ビ込ムヤウナモノデ、例ヘバ呼吸器ノ弱イ者ガ蒸氣ノ釜焚ヲスルト其時溫イ仕事デアルケレドモ、外ハ寒イカラ僅カノ間ニ氣候ガ劇變スルト云フ譯デ、體溫ノ調節ガ夫レニ巧マク應ジテ來ヌカラ、其際ニ感冒ニ罹ルト云フ事ニナル、其他鍛冶屋ノヤウナモノ、冶金工業ヲスル者、冷藏庫ノ仕事ヲスル者ハ皆急劇ノ氣溫ノ變化ニ屬スル職業ナリ、又漁師船乘業ナドモサウデアツテ、呼吸器ノ弱イ人ニハ宜シクナイ、此他、一定ノ有毒瓦斯ヲ發生スル職業ガアル、呼吸器系統ノ弱イ人ハ矢張リ、此有毒瓦斯ニ對シテモ感應性ガ強イ、總テノ化學工業ニハ有毒ノ瓦斯ガ發生スル、例ヘバ鹽素瓦斯、之レハ總テノ化學工業ニ於テ發生スル、又硫酸瓦斯ガ發生スル、又一定ノ金屬瓦斯ガ例ヘバ洋銀、眞鍮等ノ工業ニ於テ發生スル、斯ウ云フノハ有害瓦斯デ、呼吸器ノ弱イ者ハ身體ヲ長ク持ツ事ガ出來ヌ、尙ホ注意スベキハ呼吸器ノ弱イ者ハ密閉シタ部屋ニ働ク事ガ宜シクナイ、肺ヲ更ニ惡クスルト云フ事ニナル、日本ノ職業關係上肺結核ニ罹ツテ最モ多ク死亡スルモノハ印刷、石版、寫眞業ナドノ部類デアル、第二ガ小學校ノ教員デアリマス、小學教員ノ死亡ノ三分ノ一ガ肺結核ニ原因スト云フ、此原因ニ就テハ、私ハ別ニ說ヲ有ツテ居リマスガ、此寫眞業等ガ密閉シタ部屋デ働ク場合ガ多イ、斯ウ云フ業務ハ學校時代ニ呼吸器ノ弱カツタ者ニ取ツテ最モ不適當デアル、又呼吸器ノ弱イ者ガ職業トシテ、座席ニ就テ腰ヲ曲ゲル或ハ屈ンデ仕事ヲスルト云フモノハ、弱イ肺ノ血液ノ循環ナリ、又空氣ノ出入リナリヲ妨ゲ、一層肺ヲ惡クスル、彫刻、靴ヲ拵エル職業ナドハ、サウ云フ姿勢ヲ取ルノデ宜シクナイマダ色々アルデアラフガ今ノヤウナモノハ明ニ不適當ナ職業デアル。

夫レデハ斯ンナニ惡イ職業許リデアツテハ、選ルベキ仕事ハ無イヤウデアルガ、決シテサウデハナイ、呼吸器ノ弱イ者ハ成可ク野天デ働ク仕事ガ適當デアル、電車ノ車掌ノヤウニ或ハ船乘ノヤウニ、強イ風ニサラサレルノデモナク、身體ニ相當ノ溫度ヲ作ツテ此溫度ヲ奪ハレテモ又相當溫度ガ出來ルト同時ニ成可ク新鮮ナ空氣デ働ク職業ガ宜シイ、サウシテ餘リヒドク身體ヲ使ハスト云フ職業ガ宜シイ、例ヘバ農業ノ如キ事ハ決シテ劇勞ノ職業デハナイ、又日本ノ統計上ハ、農業者ニ結核ガ最モ少ナイ、農業ハ呼吸器ニ取ツテ健康ナ職業ト思ハレル、次ハ、植木屋ニナルカ或ハ庭掃除ノヤウナ事デモスルカ、或ハ外仕事ノ「ペンキ」屋ニデモナルトカ、八百屋ノヤウナ者デ野菜車ヲ引イテ歩クト云フ、類似ノ適當ナ仕事ガ幾ラモアリマス。

心臟疾患

心臟ノ弱イ者ガアル、之レハ日本ノ學校衛生ノ統計ニ上セテナイケレドモ、能ク調ベマスト、千人位ヰノ學校ニ數人位ノ割合ニアルヤウデアル、器質障碍ガ有ツテモ代償サレテ居ルト能ク診察セスナラバ知レヌ事ガアル。斯ウ云フ者ハサウ多クハナイ、ケレドモ、實際ニアルカラ、之ニ對シテハ成可ク靜カニ座業ヲ取ルト云フ職業ヲ敎ヘルガ宜シイ。精神的身體的ニ勞働ノ强イノヲ避ケシメル。

心臟ガ惡イカラ、皆蒼イ顏ヲシテ居ルカト云フト、ソウデハナイ。代償機能ト云フ作用ガアルカラ外カラ見タ所デハ別段病人ラシクナイガ醫者ノ方デハ此者ヲ注意セネバナラヌ事ハ能ク知ツテ居ル。日本ノ石屋ナドハ、石垣デモ積ムトカ、自然重イ物ヲ持ツノデアル或ハ大工トカ、鍛冶屋ダトカ云フ者ハ割合力ヲ要スル仕事デアル、又車夫、郵便配達ナド身體ヲ餘計使フモノデアル、又煉瓦積モ一枚ノ煉瓦ハ何ンデモナイガ、矢張リ澤山持ツカラ劇勞ニ屬スル職業デアル、サウ云フ職業ハ心臟ニ故障ノアル者ニ宜シクナイ、又心臟ノ惡イ者ハ、肺ノ惡イ者ト同ジク長ク前ニ屈ンデスル仕事ハヨクナイ、血液ノ循環ヲ惡クシテ、隨テ心臟ノ爲ニ良クナイカラ、サウ云フ職業ハ避ケル、然ラバ何ンナ職業ガ良イカト云フト可成ク身體ガ自由デサウシテ劇勞ト云フ方面デナイ、又惡イ姿勢ヲ執ル職業デナイモノ、例ヘバ商店デ座業ニ從事スルトカ、或ハ計算方ノヤウナ職務ヲ受持ツトカ、書記ノヤウナ事ヲスルトカサウ云フ種類ナラバ宜シイ、又美術ノ工藝品デ餘リ脊ヲ曲ゲナイデ出來ル仕事モアル。サウ云フ職業ガ適當デアル。



五感器官

次ニ五感ノ機能ニ障碍ノアル者、學校時代ニ於テ第一眼ノ事デアリマスガ、學校時代ニ度々眼炎ニ罹ツタ、結膜炎ニ罹ツタ、其他眼ノ粘膜ノ病氣ヲシタトカ「トラホーム」ヲ患ツタトカ云フ者ハ、冷タイ風ニ當ルカ、或ハ煙タイ瓦斯ニ會フカ、或ハ塵埃ガ多イカ、或ハ又非常ニ光ル物ヲ取扱フ、或ハ非常ニ熱イ仕事ヲスル、丁度冶金工業ノ如キ、銅ナリ、鐵ナリガ融ケテ流レテ出ル、夫レヲ持運ブトカ、其側ニ居ルト云フヤウナ者、鍛冶屋デモ、電燈屋デモ、サウ云フヤウナ光リ物ヲ取扱フ職業ニ從事スレバ涙ガ出テ眼ガ開ケテ居レナイ、卽チ眼ガ惡クナリ仕事ガ出來ナイ事ニナルカラ豫メサウ云フ事ヲ承知シテ居ツテ、眼ノ結膜ノ惡カツタ者ニハ始カラ他ノ職業ヲ敎ヘテ遣ルガ宜シイ。

片眼

片眼、眼ガ二ツアルノガ當リ前ナノニ不幸ニモ一ツシカ無イノデアルカラ、餘程注意ヲシテ職業ニ從事セナケレバナラヌ、眼ノ怪我ヲ仕易イ職業ガ色々アルカラ初メカラ注意ヲシテ此種ノ職業ヲ避ケネバナラヌ、夫レデ石工ナドハ眼ニ石ガ飛ブ、火藥ヲ使フ時ナド殊ニ然リデアル、又鍛冶屋ノ如キモ往々眼ヲ怪我スル事ガアル、如斯キ虞ノアル職業ニハ、一眼ノ人ハ絶對ニ初メカラ避ケテ他ノ安全ナ職業ニ就タ方ガ良イ、又直接眼ニサウ云フ虞ハ無クトモ、例ヘバ建築ニ從事スルト云フヤウナ事ハ、片眼ノ人ニハ非常ニ危イト云フハ、兩眼見エテ初テ物ノ距離ノ測定ガ出來ルノデアルカラ、高イ所ヘ登ツテ距離ガ正當ニ目測出來ナイ場合ニハ能ク怪我ヲスル。夫レデ建築業者トカ、或ハ屋根屋、瓦屋ノ如キ或ハ煙突ノ仕事ヲスルモノトカ、船乘漁夫モ元ヨリデ、消防夫ナドモ勿論デアル、眼一ツシカ無

イ人ハ初メカラ、絶對ニサウ云フ危險ノ無イモノヲ選ブト云フ考ヘデナケラチバナラヌ。

近眼

近視眼者、餘リ長イ間近イ物ヲ見テ居ナケレバナラヌ職業ハ避ケタ方ガ宜シイ。例ヘバ寫字業、機械屋、裁縫、刺繍其他類似ノ職業ガ幾ラモアルガ成可クサウ云フノヲ避ケル必要ガアル併シ其反對ニ、近視眼者ハ、眼ガ近クテモ毫モ差支無イノハ、例ヘバ百姓或ハ植木屋或ハ賣子デアルトカ、使ニ歩クトカシ殊ニ西洋ナラバ下女ガ、眼鏡掛ケテ居テモ、別段人ガ何ントモ思ハナイ、斯樣ニ適當ナ職業ガアル此ノ近視眼ニ不利益ナ職業ハ遠視眼ニモ同ジク不利益デアル、次ニ

色盲

色盲、此色盲ハ鐵道船舶ト云フヤウナ交通業ニハ素ヨリ不可ナリ、圖畫其他繪具「ペンキ」染色業、反物屋等ニ不適當ナルハ素ヨリ不可ナリ、刺繍、造花等凡テ色別ヲ必要トスル仕事ニハ不利ナリ、色盲ノ檢査ハ卒業學年ノ身體檢査ノ際絶對ニ必要デアル。

耳

耳ノ惡イ者、學校ニハ能ク耳漏ニ罹ツテ居ル兒童アル。サウ云フ種類ノ耳ノ惡イ者ハ、身體ガ弱イ者デアル風邪ヲ引キ易イ種類ノ職業ハ宜シクナイ。既ニ呼吸器病ノ處デ述ベタ風邪ヲ引易イ職業ハ耳ノ惡イ者ニハ不利益ナリ慢性ノ耳漏ニ罹ツテ居ル者ガ職業上風邪ヲ引キ易イ狀態ニアレバ、進ンデ更ニ重イ病氣ニ罹ル虞ガアル。

兵隊ニ往クトカ、海軍ニ往クトカ、獵師ヲスルトカ、或ハ巡査ノヤウナ外ノ寒イ所ニ立ツタリ、歩イタリスル職業ハ此如キ耳ノ惡イ人ニハ宜シクナイノデアリマス。

重聽者

耳ノ遠イ者、此重聽ノ者、ハ勿論色々不適當ナ職業ガアル。言ヒ換ヘレバ殊ニ言語ヲ多ク使フ職業ハ不適當デアル。之レハ常識上判ツテ居ル事デアル、事實上耳ノキコエナイ爲メ客商賣スルトカ、或ハ賣子ニナルトカ、召使ニナルトカ云フ事ハ不適當デアル。理髮業之レハオ客サンノ註文ガ聽ヘナイタメニ聞キ誤ツテ口髯ヲ剃ツテ了ツタト云フ事實モアル故ニ一般ニ職業トシテハ可成人ト交渉ノナイ業務ガヨイ、美術工藝ナドノ内デ人トアマリ相談ナク自分ノ頭ト腕トサヘアレバ出來ルト云フヤウナ仕事ガ適當ス、然ラバ一生涯非常ナ利益ガアル身體ニモ生活ニモ利益ガアル譯デアル。其他水ノ中デスル仕事、例之潛水業或ハ近頃デハ飛行機、飛行船ニ乘ルヤウナ仕事ハ皆耳ノ爲メニ良クナイ。急ニ耳ノ影響デ頭ガ痛クナツタリ色々スルカラ、又人ニ依ツテハ能ク目ヲ廻ス(眩暈)ト云フ身體ノ者モアル。斯ウ云フ者モ耳ニ關係シテ居ル事ガアルノデ、其職業ヲ選ブ時注意セヌト、不慮ノ危害ヲ起ス。屋根屋ガ落チタト云フ事モアル。健康ドコロデハナイ生命ニ危害ガアル如斯者ニハヤハリ座業デ家庭工業ガヨイ。

次ニ女子デ、例ヘバ毎月月經ガ甚ダ重イ、平均以上ニ惡イト云フヤウナ者ハ、力ノアル職業、或ハ長ク立ツテ働ク職業ハ不適當デアル、成可ク坐ツテ遣ル仕事ヲ選定シタ方ガ宜シイ。夫レハ裁縫、編物ノ如キガ良イ。其他脫腸、此脫腸ハ手術ヲシタ方ガ良イガ脫腸持ガ立ツテ強イ仕事ヲスルニハ不適當デアルカラ成可クサウ云フ事ハ避ケタ方ガヨイ。癲癇ノアル者モ亦大ニ注意ヲ要ス、幼稚園ヤ小學校ノ教員ナドニハナレナイ、人ト交渉ノ少ナイ仕事ガヨイ。

以上ハ何人ニモ同感デアラウト思フ種類ヲ擧ゲタノデアルガ、マダ種々ノ病氣ト職業トノ關係ヲ考ヘネバナラヌ、夫ハ醫師ノ側カラ云ヘバ種々具體的ニ擧ゲ得ラルヽガ今言ツタヤウナモノハ何ント考ヘラモ確カナ事デアツテ、不適當ナノヲ避ケテ適當ナモノヲ與ヘタ方ガ至當デアル、ナンデモナイ事デアルケレドモ斯ウ云フ工合ニ、此總テノ卒業セントスル兒童ニ注意ガ行渡レバ後日大ニ利ガアル若シ何ノ注意モナク不適當ノ業ニ就イタ爲メ後ニ體ガ續カナイノハ固ヨリ、又轉職スルノモ損デアリ、夫レヨリモ初メカラ適當ノ業ニ就イテ甘ク行クナラバ當人ノ爲メニモ社會ノ爲ニモ幸福デアル、卒業兒童ノ體ノ狀況ヲ細別シ、又實際ノ各種ノ職業ヲ分類シテ兩方ヲ配合シ、表デモ作クツタナラバ一層良カラウト信ズルガ、上陳スル所ニヨリ大體職業選定ナルモノヲ一般ニ實行スレバ、國民ノ利益デアルト云フ事、學校衛生ノ實際的效果ヲ擧グベキ一項デアルト云フ事、又卒業學年身體檢査ノ一重要意義ヲナスモノデアルト云フ事ガ諒解セラレナバ此章ノ目的ハ十分ニ達シ得タト信ズ。

# 第七章　都市ノ學校衛生

本邦ノ都市ノ學校衛生上必要ナル新ラシイ施設ニ就テ述ベタイ、卽チ既ニ其必要ガ迫リツヽアルト信ズル學校衛生上施設スベキ事項ヲ說カン但シ之レハ必ズシモ都市ニ限ラナイ村落ニ於テモ素ヨリ施設シテ效果アル事ナレドモ都市ハ殊ニ必要ガ多イト思フモノヲ列敍スル次第ナリ。

本邦ノ都會ハ近年急速ニ工業ノ發達及ビ交通ノ頻繁、人口ノ增加ヲ見ツヽアリ、其結果住民ノ衞生上ニ危害ノ度ヲ增加シツヽアリ、衞生學、傳染病學ノ發達史ヲ讀ムニ、歐洲都會ノ發達ニツキテ市民ノ健康ガオビヤカサレ、如何ニセバ之ヲ防ギ得ルカニ苦心シタリトアリ、本邦ノ都市ノ如キハ特ニ年々急激ニ發展ヲシ、工業ナリ商業ナリ其他ノ事業ガ偉大ノ進歩ヲスルガ故ニ之ニ伴フ衞生上ノ危害如何ト云フ事ヲ顧慮シナケレバナラヌト思フ、東京市ノ空氣ガ漸々ニ惡クナル事ニ就キ考ヘテ見ルニ、元東京市ノ住民ハ、各戸ノ風呂ヲ沸カスニ、薪ヤ木炭ヲ使ツタモノデアル、其燃燒產物デモ、素ヨリ一定ノ有害物ヲ含ンデ居ルケレドモ、石炭ニ比較スレバ少イモノデアル、今日デハ石炭ノ方ガ經濟デ且早ク湯ガ沸ク爲メニ之ヲ使用スル者ガ非常ニ多クナツタ、四十萬戸ノ人ガ石炭ヲ使用スル、勿論幾分ハ薪炭モアラフガ、扨テ此各戸カラ發生スル石炭ノ燃燒產物タル瓦斯體ヤ煤煙等ノ理學的、化學的ノ成分ト云フモノハ、以前ノ薪炭ヲ使ツタ場合ニ比較スルト多大ナモノデア

ル、又市内ノ公衆洗湯モ同樣ノ經過ヲ取ツテ來タ、之レハ個人ノ家ヨリハモツト早ク石炭ヲ使ウヤウニナツタ、人口ノ繁殖ニ伴ツテ入浴スル者モ多ク、若シ愛宕山カ或ハ上野ノ西郷サンノ銅像邊リヘ登ツテ見レバ、警視廳令ニ依ツテ一定ノ型ヲ有ツテ居ル洗湯ノ煙筒ガ全市ニ參差シ夫レカラ朝カラ晩迄黑イ煙ヲ吐イテ居ル、是等ハ風呂ダケノ關係デアルガ、此十五年前或ハ十年前ニ比較スルト有害ノ產物ガ夫レダケデモ多量ニ發散シツヽアル、又一方ニ市區ノ改正ヲ行ツテ道路ノ幅ガ廣クナリ、其上ヲ電車ヤ自働車ガ通ツテ土地ノ表面ヲ煽ル度合ガ、年一年ニ頻々ニナツテ來ルサウシテ道路ノ塵埃ヲ發生スル、風ガアレバ、夫レガ高ク飛ンデ上ノ方カラ各家ノ中ニ振リ撒ク事ニナル、又交通機關ノ發達ニツレテ其危害ノ爲メニ吾々ハ何レダケ神經ヲ勞スルカ知レヌ、如此東京ノ市中ニ住ンデル者ガタマニ他ノ都會ニ參ルト、非常ニ身體ガ樂ニナルヤウニ感ズル、道ヲ歩イテ居ツテモ轢殺サレルト云フ虞ガ少イ、之レハ吾々ノ神經ノ注意ト云フモノガ餘程輕減シタ證據デアル、都會ガ發達スルト共ニ吾々ノ神經ヲ勞スル事モ多クナル、音響其モノモ亦吾々ノ神經ヲ餘程勞スル、交通機關ヨリ來ル雜音、電車線沿道ノ人ハ馴レテ居ル、積リデアラウガ、若シ馴レナイ人ガサウ云フ所ニ一時間モ居ツテ話ヲスレバ、大聲ヲ出ス爲メニ必ズ聲ヲ嗄ラス、又電車ノ爲ニ朝早ク起サレル事モ必ズアル、斯樣ナ事ハ近年著シクナツタト思フ、其上ニ工業ノ發達モ顯著デアル。

斯ク考ヘルト、都市ノ衛生狀況ガ非常ニ變動シテ來タ、都市ニ下水裝置ガアレバ夫レガ爲メニ人間ノ衛生ニ有害デアル液性廢棄物ヲ早ク除却シテ、吾々ノ住ンデ居ル地面ガ非常ニ清潔ニナリ乾燥シ空氣モ良クナル、然ルニ多數ノ都市ハ年々液性ノ廢棄物ガ多クナルニモ拘ラズ、完全ナ下水道ガ出來難イノデアル、住民ノ健康上ニ慢性ノ惡影響ガ及ビツツアルニ相違ガナイ。

斯ク都市ガ繁榮スルノニ必要ナル衛生法ノ發達ガ同時ニ伴ハナイト云フ事實デアル下水ノミナラズ塵芥ノ始末モ不完全デアル、土地ヲ汚ス事甚ダシイ、糞尿ガ肥料ニ供セラレ、腸窒扶斯、赤痢ガ年中絶エナイ、屠畜場モ不潔デアル、魚ノ市場ニシテモ、青物ノ市場ニシテモ、又乳牛ノ飼養ニシテモ、文明國ノ飲食品監督ノ實況ニ比較シテ觀レバマダ〳〵幼稚ナモノデ、實ニ殘念ノ至リデアル。

此中ニ住マツテ居ル兒童(兒童バカリデハナイガ)ハ注意ヲシナケレバ、健康狀態ヲ保ツテ十分ニ教育シテ往クニ支障ヲ來シハセヌカト思フ、夫故ニ都會ノ衛生又學校衛生ト云フモノハ現在將來共ニ十分注意ヲシテ往カナケレバナラヌト云フ所以ナリ。

總ジテ都會ハ人口ノ稠密デアル關係カラシテ自然兒童數モ多イ、從テ學校ノ數ガ多イ。一方ニハ交通ガ便宜デアル爲メニ學校ヲ整理スレバ普通ノ學校ト特殊ノ學校トニ分類シテ、夫レニ相當スル設備及ビ教育ヲ行ヒ得ベク、ザウ出來レバ必ズ顯著ナ效果ガ擧ルト信ズル、今左ニ其五、六ノモノヲ述ベン。

## 第一　補助學校

補助學校
同學級

此兒童ハ低能兒デアルト云フ診斷ヲ下サル、事ハ、誰デモ好ム者ハ無イデアラウ。夫レハ本邦許リデハナイ、各國共ニサウデアラウ、乍併事實何處ニモ低能兒ガアル、卽チ所謂陶冶可能デアッテ若シ彼ノ補助學校ノ制度ガ完備シアラバ之ニ收容シ教育可能デアル所ノ低能兒ガ存在スル本邦デハ專門家ノ說明ニヨルニ兒童百名ニ就テ一名又ハ一名半ノ割合ニアルト云フ。本邦デ十萬ノ人口ニ對シテ學校兒童ノ率ハ一萬二千位アル然ラバ兒童一萬ニ就テ百何十名ノ低能兒ガアル計算トナル現在七百何十萬ノ小學兒童ガアルガ低能兒ノ推定數ハ莫大ノモノトナル譯デアル、其兒童ハ教育上マダ認メラレテ居ナイ、爲メニ普通ノ兒童ト同ジ學校同ジ學級ニ置カレテ、サウシテオ情ケノ及第ヲスルカ、或ハ一年置キニ落第シテ漸ク昇級サシテ貰フト云フ風デアルガ如シ。之レ決シテ效果アル教育ヲ受ケテ居ルモノデハ無イ姑息的ナ否ナ寧ロ有害無效ノ事デアル。斯ウ云フ事ヲ永タ遣ッテ行クナラ何年間カニ何萬ト云フ無用有害ナル人間ヲ社會ニ供給スルト云フ推定ニナル。

其處デ吾々今日ノ學校衛生ノ立場デハ何ウシテモ低能兒問題ト云フ者ヲ早晩解決シナケレバ不可ヌ。不適當ナル教育法ヲ施シテ、ソレガ社會ニ出サレ、出サレタ後ハ社會ノ厄介ニナル、厄介所デハナイ、社會ニ害惡ヲ流ス善良ナル風俗ヲ害シ或ハ犯罪ヲナス、斯樣ナ事ヲ吾々自身ガ知ラズニ或ハ薄ク知ッテ居ルガ之ニ對スル適當ノ策ヲ取ラズニ居ル、コレハ早晩何ウニカシナケレバナラヌ問題デアル低能兒ヲ集メテ之ニ適當ナル教育ヲ施シ兎ニ角或種ノ職業ニ從事サセテ、自分ダケハ生活シテ往ケル幸福ナル人間ニシテ往クト云フ事ニセネバナラヌ。更ニ低能兒教育ノ事ハ以前ハ教育家ノ仕事デアッタガ近行ハ醫學者ノ協同トナッタノデアル、低能兒診斷、補助學校ニ送附等ニ學校醫ガ協力セナケレバナラヌ。低能兒ハ精神上ノ缺陷(精神病學、教育病理關係)ノホカ元來身體ノ上ニモ缺陷ノ多イ者デアルカラ其健康保護ハ普通兒ヨリ一層必要デ、補助學校ニ特ニ補助學校醫ナル者ヲ設ケル、夫デ、今日ノ學校衛生ニ於テハ補助學校醫ノ職務ト云フ一ツノ「チヤピター」ヲ爲シテ居ル、村落ニ於テハ兒童數ガ少イカラ其内ノ低能兒ハ附近ノ市ノ學校ニ預ケルトカ、郡ノ組合デ補助學級ヲ作クル等ノ方法ヲ執レバ庶幾ハ適當ノ教育ガ施シ得ラルヽト思フ詳細ハ第?章參照。

## 第二　林間學校

林間學校ハ獨逸ノシヤロッテンブルグ市デ千九百四年ニ創施シタモノデアリマシテ、林間學校ノ考案ハ學校衛生ノ泰斗伯林醫科大學小兒科ノバキンスキー氏ニ出ヅ。其發案ヲシタノガ千八百八十一年デ、之ヲ實現シタノガ千九百四年デス。バギンスキーノ考ヘデハ都市ノ學校ノ兒童ノ中ニハ虛弱ナ者ガアル、此者ハ普通ノ學校デ教育シテハ身體上宜シクナイ、其救濟策トシテ一定ノ衛生法ヲ組立テ其ノ下ニ教育スレバ教育ヲ受ケツヽ身體恢復シ得ルモノデアルト云フ主旨ナリ。詰マリ林間學校ノ創設發案ヲシタノデアリマス。所ガ世人ノ注意ヲ左程惹起サナカッタ、シヤロッテンブルグニドクトルノイフエルト氏(此

人ハ醫者デハナイドクトルフィロソフィエデ、シヤロッテンブルグノ學務課長ヲシテ居ル）ガ色々研究シテ千九百四年ニ初メテシヤロッテンブルグノ郊外ニ「グルーチワルト」ト云フ大ナル森林ガアル此森ハ「タンチン」樹カラ成立ツテキル（松ト杉ト、檜ノ木ノ相ノ子ノ外觀アル樹木ナリ）砂質ノ土壤ノ上ニ何里モ續イタ林ガアル、其處ニ初メテ「バラック」式ノ小學校部ヲ造ツタノデアリマス、夫レニ林間學校（ワルドシュウレー）ト命名シタ、併シ衛生學上ノ意義カラハ新鮮空氣學校ト云フノガ至當デアル、「ワルドシュウレー」ノ名稱ハソレ以來ノ歷史名トナツタ、亞米利加ニ於テハ「オープン、エア、スクール」ト云フホカニ獨逸ノ「ワルドシュウレー」ト云フ言葉ヲ使ツテ居ル、ノイフェルト氏ハ學校衛生上實地ニ公益スルモノヲ立テタノデアル、日本デ初メテ常設ノ林間學校ヲ設ケタノハ、東京ノ白十字會ト云フ私立ノ結核豫防ノ團體ガ神奈川縣ノ茅ケ崎ノ海岸松林中ニ數千坪ノ地面ヲ神奈川縣カラ無代貸與ヲ受ケテ、其處ニ數千圓カノ資金ヲ投ジ建築シ大正六年八月一日開校シタ、是レ本邦常設林間學校ノ嚆矢ナリ、以前カラ夏期ニ短期臨時林間學校ニ類シタ施設ヲシタノガアル夫等ハ常規ノ教育所デハナイ、林間學校ノ名ヲ用フルケレドモ「フェリエンコロニー」ニ屬スルモノデアル、林間學校ハ大體上小學校ノ學科課程ヲ正規ニ教フルモノデアル、如右所謂林間學校ガ本邦デ近年增加シツヽアルガ其内ニハ良イノモアリマスケレドモ又サウデモナイト思ハルヽノモアル、余ノ見ル所デハ畢竟教員ガ林間學校ノ主旨、方法ヲ十分ニ理解セヌ結果デアツテ、實地ヲ見ルト兒童ガ疲勞ヲシタリ、色々混雜ヲシテ居ル、サウ云フ事ハ林間學校ノ主旨ニ十分適シタトハ云ヘヌ、林間デ一時サウ云フ不徹底ナ遣方ヲシテ居ルト云フニ過ギナイ、近來新ラシイ試ミト云フ事ガ雜誌ニ澤山載セテアル、吾々ハ新ラシイ試ミハ結構デアルガ、若シ眞面目ニ遣ルナラバ能ク研究シテ然後實行ニ著手スレバ必ズ效果ヲ擧ゲ得ラルベキモノデアル、而シテ第一ニ重要ナルハ兒童ノ選定デアツテ、普通ノ健康者ト共ニ虛弱者ヲ混ゼザル事、卽チ虛弱者ノミヲ集ムル事、第二ニ取扱上、作業ト休息ノ交代、卽チ精神的肉體的勞作ノ後ニ必ズ十分ノ休息ヲ與フル事、第三十分ナル榮養物ヲ與フル事、第四空氣日光ノ作用ヲ十分ナラシムル事等デアル、詳細ハ第八章參照、

「フェリエンコロニー」

職業選定

衛生幼稚園

## 第三　「フェリエンコロニー」

林間學校ト同主意ノモノデ、都市ノ學校衛生上必要ナル新施設デアル、之ニ附スベキ兒童ハ林間學校ノ夫ト同樣ノ身體缺陷アル者デアル、詳細ハ後章參照、

## 第四　職業選定

是亦最近學校衛生ガ學校卒業後ノ者ニモ連絡スベキ一新施設ナリ、依テ特ニ第六章ヲ設ケテ之ヲ述ベタリ。

## 第五　衛生幼稚園

學齡ニ達シタ兒童ヲ檢査スルニ其内或部分ハ就學ニ適シナイ者ガアル、夫ヲ探レバ身體ヲ惡クシ且ツ教育ノ目的ヲ達シ得ナイ、學齡始期ノ兒童中如此兒童ガ常ニ一定ノ「パーセント」ニ存在スル就學後ニ如此者ヲ發見スルノハ學校衛生上遺憾トスル所ナリ、故ニ學

齡前ニ於テ換言スレバ五歳カ五歳六ケ月ノ頃ニ身體檢査ヲ行ツテ發育ノ惡イ者、虚弱ナ者ヲ判定シ之ヲ衛生幼稚園ニ收容シ恰モ林間學校ニテ行フ如キ衛生法ヲ行ヘバ半歳間ニ多クハ體ガ良クナツテ就學可能トナル、是ガ理想的、根本的ノ方法デアル(第二章第三項就學前ノ幼兒保護及第五章身體檢査條ノ參照)

重聽學校
同學級

## 第六　重聽兒ノ學校

本邦小學校ノ身體檢査ハ十分ニ行ハレテキナイ、余ガ東北ノ或地ニ參ツタ時其處ノ郡視學ガ色々研究シテ居ツタ、其人ガ或學校ニ往ツテ一ノ學級ノ擔當教員ニ、出來ノ惡イ兒童ヲ出シテ呉レト云フト、數名ノ殆ド低能兒ト認メテ居ル學科不成績ノ兒童ヲ與ヘテ呉レタ、夫レヲ視學ガ自身デ考査シテ見テ數學ノ問題ナドヲ出シテ二人向ヒ合ツテ遣ルト皆ヨク出來ル、斯ウ云フ風ニ出來ルノニ、ナゼ低能的ノ兒童デアルカト言ツタラ、擔當教員ハ非常ニ驚イタ、能ク調ベテ見ルト、或者ハ聽力ノ不足ノ爲メ、或者ハ近視眼ノ爲メデアツタ、夫レデ之レハ自分ガ確ニヨク調ベタカラ救フ事ノ出來タ兒童デアルト思フト、其視學ノ人ガ余ニ話シタノデアツタ、近視眼ハ眼鏡ヲ掛ケレバ宜シイ、只今ハ近視ノ者ハ皆眼鏡ヲ掛ケル、其方ガ眼其物ノ爲メニモ良イト云フ事ニナツテ居ルガ、重聽者ダケハサウ云フ譯ニハ參リマセヌ、兒童ノ中、聽力ノ缺乏シタ者ヲ普通ノ學校デ教授スレバ效力ガ擧ラナイシ、又、聾啞學校ニ送ルト、サウ云フモノハ聾啞ニナツテ了フカラ、聾啞學校ニ送ラレナイ、依ツテサウ云フ程度ノ者ヲ集メテ、或一ツノ學校内ニ重聽學級ヲ造ルカ、或ハ大都會デハ特別ノ重聽學校ヲ作リ、其處デ教育スル、然時ハ矢張リ夫レニ相當シテ效果ガ擧ル例ヘバ聽力ニ障碍ガアルトキニハ、其殘ツタ聽力ヲ利用シ且ツ眼ノ力ヲ練習シテ、サウシテ將來ノ生活ニ必須ナル方法ヲ教ヘテ往ク、是亦先進國近年ノ事業デアツテ、マダ十分ニハ普及シテ居ラヌケレドモ其意義ハ既ニ認メラレ年々普及ノ趨勢デアル、我大都會ニ於テモ兒童ノ多イ所デハ、斯フ云フ事ヲ調ベテ試行スル必要ガアラウト思フ　(第三章教授衛生中重聽學校ノ項參照)

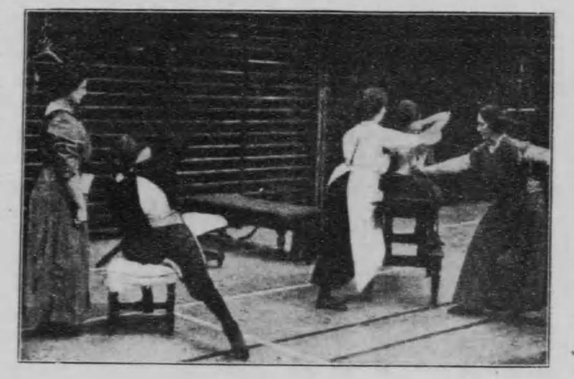
學校矯正
體操

## 第七　學校矯正體操　Orthopaedischer Schulturnen.

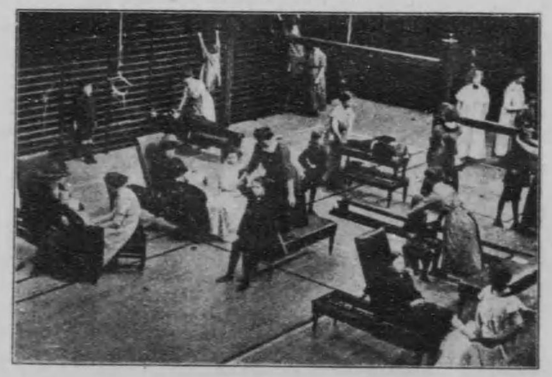
學校醫ガ身體檢査ノ際ニ發見スル脊柱ノ不正者ハ本邦ニハ、三乃至四%アルケレドモ、是ニ對シテ未ダ適當ノ矯正法ヲ行ハズ、而シテ其ノ原因等モ調査不明デアル、以前ノ學校衛生學デハ原因ヲ主ニ机腰掛ノ不適當ニ歸シ、又姿勢不良ノ習慣ヲモ之ニ歸シタノデアルガ、シカシ主ナル原因ハ筋肉ノ發育ノ薄弱デアツテ、其又原因ハ先天的ガ多イノデアル、夫故脊柱不正者ノ救濟ノ必要ハ一層重ク見ルベキモノデアル、今日ハ整形外科學ガ發達シタカラ合理的ニヤルニハ學校醫ノ判定シタ脊柱不正者ヲ、更ニ整形外科醫ノ精密ナル檢査ニ移シテ專門的ニ其救濟法ヲ指定セシムルニアリ、其爲ニ自治團體タル市ハ整形外科醫ヲ矯正體操ノ監督者ニ囑託シ置キ、各學校ノ學校醫ガ脊柱不正者ト認定シタ者ヲ更ニ其整形外科醫ニ送ル、其人ガ專門ノ立場カラシテ檢査シテ、矯正體操ニ附スル必要ノ有無ヲ決定スルノデアル、此矯正體操ハ脊柱、不正ニ關係ノアル筋肉ノ發育ヲ促シテ姿勢ヲ

良クスル、其結果胸部ノ內臟ノ作用モ良クナツテクル、此姿勢ノ不正ト云フ事ハ脊柱ノ不正ガ常ニ存在スル時ハ吾々ノ生命生活ニ重大ノ關係アル內臟ノ作用ヲ惡カラシメ健康上ニ害ガアル、此不正ヲ矯正セバ效果大デアル、矯正體操ハ一週一回又ハ二回放課後ニ

第一圖
學校矯正體操（一）
（スコットランド）



第二圖
學校矯正體操（二）
（スコットランド）





一時間宛行フ、男女組ヲ別ニシ、二十人ヲ一組トシ、一時間內ニ徒手、匍匐運動及機械體操ノ三種ヲ行フ、器械ハ主ナルモノ凡ソ五種アツテ、其他ニ二三種アリ、兒童ハ先ヅ各自各器械ヲ順次ニ用ヒテ四十分間ニ皆ナ了ハル、後ノ二十分間ハ徒手體操ト匍匐ト呼吸運動トヲヤル、器械ニ掛カルニハ兒童ノ脊柱彎屈ノ狀況ニヨツテ區別アリ、之ハ學校醫ヨリ體操教師ニ測定圖ヲ與ヘテヨク承知セシメルノデアツテ本體操ニ附シタル後、又檢査ヲシテ不正ノ度ガ輕クナレバ圖ニ之ヲ記載スル事ニシテアル、斯ウ云フ風ニ矯正法ヲ行ツテ非常ニ成績ガ宜シイカラ各地デ行フ事ニナツタノデアル。本邦ノ學校身體檢査ノ統計ヲ見レバ脊柱ノ不正者ハ少クナイノニ、唯單ニ檢査シ、單ニ統計シテ置クニ止メテハ宜シクナイ、若シ如此善後策ヲ講ズルナラバ兒童ノ身體ノ發育ヲ促シ健康ヲ良クスル事明白デアル、本邦ニハ學校體操器械モ可ナリ普及シタノデアルガ、現在ノ設備ヲ利用シテモ矯正上ノ目的ハ相達スル事ガ出來ル事ト思フカラシテ、脊柱不正者ノ爲ニ特殊矯正體操ヲ組織施行スル必要ヲ認メルノデアル、

## 第八　學校齒科

齒科ノ教育所創設ハ米國ガ先著デアルガ、國民ノ齒科保護トシテノ施設ハ獨逸ガ嚆矢デアル。

千八百三十九年ニ米國バルチモアニ世界最初ノ齒科醫學校ガ出來タ、又學校兒童ニ齒科醫治療ノ必要ナル事ヲ首唱シタノハ千八百五十一年ブルッセルノタルマ氏ナリシモ殆

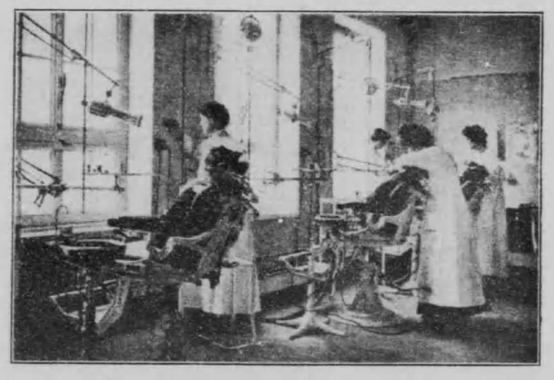
ンド世ニ耳ヲ借サレズニ過ギタノハ遺憾デアツタ、獨逸デ最初ノ齒科醫教室ノ出來タリシハライプチヒ及伯林デアツテ千八百八十四年ノ事デアル、之ニ亞デブレスラウニモ出來タ。

千八百九十年代ノ初頭ニ、獨逸バーデン國フライブルグ市ノレーゼ氏ハ學童及兵士ヲ檢査シタノデアルガ、學童ノ九十%ハ皆重キ齒疾ニ罹レルコトヲ明カニシタ、氏ハ之ハ國民ノ一般健康ヲ害スルモノナルガ故ニ救濟セザルベカラザルコトヲ說キ齒牙ノ齲蝕ハ國民病中最モ普及蔓延セルモノトシタ。

歐米ノ齒科醫ハ齒疾ガ身體ノ發育、精神ノ發育ヲ害シ凡テノ病氣殊ニ結核ニ罹リ易クナリ、又貧血及黃萎病其他種々ノ傳染病ニカカル重要ナル原因關係ヲ有スルコトヲ高唱シテ居ルガ、同時ニ學校衛生ノ經驗デハ齒疾ハ勿論學童ノ爲ニ重要視スルケレドモ齒科醫ノ唱フル程デハナイ事ヲ唱ヘテ居ル。

第三圖

學校齒科（ストラスブルグ）市





學校齒科創設

更ニ學童齒疾救濟ニ關シテハ千八百九十四年ニコッペンハーゲンニ齒科醫師會議ヲ開キシ際ニ學校ノ貧困兒童ニ無代救濟ヲ決議シタ、

此歲リッター Ritter 氏ハ學校齒科醫ナル者ヲ設置スベキ事ヲ提唱シタノデアルガ、スグニハ出來ナイ、初メ務メテ齒ノ齲蝕ナルモノハ最モ難義ナ國民病トナラントシテ居ルト云フ事ヲ普ク世間ニ知ラセルヤウニ努力シタ卽チ知識ノ普及ニ務メタノデアル。

千九百年ニドレースデン市ノリングナー Lingner 氏ハ中央齒牙衛生所ナルモノヲ私設シタ、ゾシテレーゼ氏ガ所長トナツタレーゼ氏ハ兒童ハ齒ガ惡キ爲メニ身體ノ發育ヲ惡クスルコト、從テ又精神的緊張力ガ弱クナルモ云フベキハ

健康ナル身體ノミニ健康ナル精神在リ、精神的緊張力ノ弱キニ從ヘ學校兒童ノ得點小ナリ、故ニ齒惡キ者ハ學術成績不良ナリ。

ト、

千八百九十八年ニストラスブルグノ大學教授プロフエッソルエルンスト、イッセン Prof. Dr. med. E. Jessen 氏（醫學士）ハ同市學校兒童ノ齒牙ヲ檢査スルノ許可ヲ受ケテ之ニ從事シタノデアツタガ、終ニ學校衛生ノ實績上記念スベキ日ガ來タ、千九百二年十月十五日ニ同市ニ於テ世界始メテノ所謂學校齒科 Schulzahnklinik ガ開設セラレ、同氏其指導者トナツタノデアル、之ニ亞デハ同年ダルムスタット市ニ學校齒科起リ、次年ニハノルドハウゼン、ドレ

ースデン、ウルム、ブライブルグ(バーデン國)、アルトナニモ設ケラレ、是ヨリ諸市ニ普及シタ、千九百十四年ニハ五十市以上ニ設立シタ、獨逸國外ニモ亦發達シタ、第五回萬國齒科醫會議ガ伯林ニ開催セラレタ際ニ次ノ決議ヲ見ルニ至レリ。

『市設學校齒科ハ現時ニ於ケル國民衛生上ノ國際的要求ナリ、學校齒科ハ傳染病殊ニ結核ノ豫防撰滅上主要ナル補助法ナリ』ト。

イエッセン氏ノ言ニ

學校齒科ノ價値ハ承認セラレタリ、然レドモ其完全ナル價値ハ各都市ガ各學校齒科ヲ有スル事、各村落ニハ學校ニ齒牙保護法ガ輸入セラル、ニ至リテ始メテ現ハル可シ。

學校衛生ハ國民保健上ノ基礎中心タルニ於テ國民保健ハ始メテ完全ニ發達ヲ遂ゲ得ルモノデアルガ、學校齒科ヲ見ルニ至リテ國民ノ齒牙保護ガ完全トナルベシト卑信スルノデアル。

本邦文部省ノ年々ノ統計ニヨレバ學校兒童ニハ四二乃至四八%ノ齲齒ヲ算ス、而シテ男兒ヨリハ一般ニ女兒ニ多シ、其救濟法ハ未ダ講ゼラレズ、余ノ考ニテハ學校醫ニ齒科ニ關スル知識ヲ普及シ、身體檢査ノ際重要ナル齒疾ヲ發見セシメ必要ニ應ジテ之ヲ適當ナル齒科醫ノ治療ニ送附スルヲ可トス、都市ニ於テハ豫メ市ニ兒童齒科治療醫ヲ囑託シ置キ、各學校ノ學校醫ノ證明書ヲ以テ之ヲ訪ハシムルコトトシ、村落ノ學校ノ爲ニハ郡ニ巡回治療醫ヲ囑託シ年一回巡回治療スル制度トナサバ一進歩ナルベシト信ズ。

健全ナル永久齒ハ健全ナル乳齒ヲ有スル事ヨリ來ル、學校齒科ノ前ニ幼兒ノ齒牙保護法發達ガ根本的事項ナリトス、此點ハ學校衛生ガ幼兒保健法ト連絡スルコト必要ニシテ既ニ第二章ニ說イタノデアル。

學校齒科ハ少額ノ經費ニテ組織セチバナラヌ、決シテ營利的性質ノモノデナイノハ言ヲ要セヌ、今ストラスブルグ學校齒科ノ經費ヲ記サン、勿論支出ハ市ノ負擔デアル(一九〇六年、プロフェッソル、イエッセン氏報告一ケ年間ノ支出額)。

治療兒童數　一八、六〇七名

事務所費、醫師報酬、使用人手當、器械、材料、洗濯等。

一切合計　八五五〇馬克

右ニヨリ兒童一名當リノ費用ハ四十六(「ペンニヒ」ニシテ當時ノ邦貨相場ニテ約二十二錢ニ相當ス。

又シャロッテンブルグ市ノ學校齒科ニテ(千九百十三年十一月十四日余ガ見學ノ際同所長ドクトル、グェルケ氏ヨリ受ケシ一九一二年度計算書ニ據ル)

一、市立小學校兒童員數

男　一三、〇三四名　女　一二、七五三名

合計　二五、七八七名

二、右ノ内學校齒科ニテ檢査セシ者

男　四、九九六名　女　四、一六五名

合計　九、一六一名

其内學校齒科ヲ訪ヘシ者

(a)　齒疾ヲ有セザル者

男　二四六名　女　二九七名

合計　五四三名(即チ被檢査者中五・九%ハ無疾者)

(b)　齒疾アリテ治療セシ者

男　三、七一三名　女　三、〇二九名

合計六、七四二名

備考　學校齒科訪問及治療ハ保護者ノ任意

三、(b)ノ内初メテ學校齒科ニ來リシ者

男　二、九七一名　女　二、四二三名　合計　五、三九四名

四、治療ノ種類

(a)　拔齒

乳齒　五三二八

永久齒　一二四〇

(b)　充塡

乳齒　四九四四



永久齒　六〇六一

(c)　齒根治療及齒根充塡

乳齒　七一八

永久齒　二三二一

(d)　清淨法　一一一三

其他ニ顎形矯正法ヲ行ヒシ者アリ又新就學兒童ニ於テハ其齒牙ノ六〇%ハ齒疾無シ、殘ノ四〇%ニハ齒疾ヲ有スルカ、又ハ既ニ脫落シタル者ナリシト、一般ニ兒童ノ九五%ガ齒科ノ治療ヲ要スト、同市ニテハ一ケ年經費約九千圓ヲ要スト云ヘリ、尙ホ此學校齒科ハ幼稚園兒ヲモ治療シ且ツ其他ノ幼兒保護施設(乳兒保護協會)ヨリノ幼兒ヲモ治療スル事トシテアル、シヤロッテンブルグハ學校衛生ノ模範市ナレドモ學校齒科ハ他ヨリ少シク遲レテ千九百八年設立シタノデアル

本邦小學校兒童ニアリテハ、文部省統計ニヨレバ齲齒アル者トシテハ(全國ノ小學校ニ亙ル)

| | | |
|---|---|---|
| 男 | 大正四年度 | 四一・二〇% |
| 同 | 五年度 | 四一・六九% |
| 女 | 同　四年度 | 四三・一〇% |
| 同 | 五年度 | 四三・三五% |

ナルガ從來本邦ノ學校身體檢査規程ニ於テハ齒疾トシテハ單ニ齲齒トノミ指定シアルヲ以テ其詳細ハ未詳ナリ齒科專門醫ノ調査ニヨレバ

| | | |
|---|---|---|
| 川上氏檢査 | 東京府下中野町桃園小學校 | 八六・〇〇% |
| 同 | 東京市六小學校 | 八八・〇〇% |
| 入戸野醫學士 松井氏 | 千葉縣師範附屬小學校 | 九八・九一% |
| 宮原醫學士 永峯氏 | 東京市萬年小學校 | 八六・八〇% |

宮原醫學士等ノ統計ハ勿論專門家タルガ故ニ其檢査モ精密ナルヲ以テ齲蝕ノ程度モ亦弱度ヨリ其統計ニ入ルガ故ニ前記文部省統計全國學校醫ノ計上セル數ヨリ多カルベシト信ズ、又同學士ハ兒童一名ノ齲齒數ハ一・六・一九%ナリト云フ。

余ハ前記セシ如ク學校醫關與ノ下ニ都市ニ於テ學校齒科ノ發達セム事ヲ望ムモノナリ。

## 第九　學校給食 Schulspeisung, School feeding.

學校給食

是迄東京市特殊學校ニテハ水害ノ後ナドニ救急的臨時的ノ學校給食ヲ行フ必要ガアツタ之ハ一時的ノモノデアルガ此學校(主ニ貧民區域ニ設ケラレ、學校ヨリ學用品ヲ給シ又沐浴ヲサセ、理髮ヲ行フ事アリ)ニ於テハ朝食ヲ喰ズニ來ル兒モアル、又橫著デハナクシテ辨當ヲ持ツテ來ラレナイ者モアルカラ、事實上學校食事ノ必要ガアルト云ハヲバナラス。歐羅巴デハ社會ノ制度ガ違フケレドモ、貧乏人ガ安ク割合ニ美味イ、且ツ榮養ノ多イ食物ヲ食ベ得ル制度ガ出來テ居ル、卽チ人民賄所ト云フノデアル、本邦大都市ノ近頃ノ簡易食堂ガ夫ノ幼稚ナモノデアラウ、其制度ニハ一定ノ組織系統ガアリ又其食物ニ就キテハ十分ニ學術的研究ノ基礎ノアル物ヲ供給スルノデアル、貧乏ノ爲メ食物ノ不足セル者ノ爲メニハ最モ良イ社會的事業ノ一ツデアル。サウ云フ事ガ社會全般ニ行ハレテ居ル、夫レヲ學校ニ應用シタノガ學校給食デアル。

學校ノ兒童ヲ調ベルト榮養不良ノ者ガアル、其原因ヲ調ベテ朝飯ヲ食ハズニ來テ居ル者ガアル、又晝飯ヲ食ハヌ者ガアル、又亳モ溫カイ食物ヲ食ベタ事ノ無イ者ガアル(此冷飯ト云フモノハ假令身體ガ良クトモ溫イ物ニ比ベルト消化ノ良クナイモノデアル、何時モ冷飯許リ食ベテ居レバ、身體ノ良イ人デモ惡クナル)ソコデ如此朝飯ヲ食ベナイデ學校ヘ來ルヤウナ兒童アラバ學校看護婦ヲ遣ツテ家庭ヲ調査サセル、貧乏ノ結果、若クハ母ガ勞働者デアツテ外ニ出ル爲メ子供ノ食事ノ注意ガ行屆カナイト云フ事モアル、或ハ橫著ノ結果ト認ムベキ事ガアル、サウ云フ事情ヲ能ク調ベ學校給食委員ノ決定ニヨツテ或ハ給費、半給費或ハ實費ヲ徵收スルコトニシテ學校食事ヲ與ヘル、又晝飯モ同ジ事デ、サウ云フ調査ヲ行ツテ學校食事ヲ與ヘル學校食事ニハ切符制度デ兒童ヲ賄所ニ送ルト云フ風デアル、新ラシク建築シタ學校ハ、學校內ニ立派ナ食堂ガアツテ其處デ食スルヤウニシテアル、經濟ハ自治體ノ出資、實費徵收、或ハ半實費徵收等ノ方法ヲ主トシテ、又愛國婦人會ノ如キ團體ノ金及ビ勞力寄附ニ俟ツテ事業ヲ運轉スル、夫レデ吾々ハ或ハ遠カラズ斯ウ云フ

時代ガ大都市ニ現ハレテ來ルト思フカラ玆ニ一二ノ實況ヲ紹介セン。

## 學校給食

シャロッテンブルグ市報告

### (a) 朝食

市立小學校補助學校及幼稚園ノ生徒中給食ノ必要アル者ニ對シ夏冬ノ各半歲之ヲ給與ス其分量ハ各兒童四分ノ一「リーテル」ノ牛乳ト一筒ノ食麭ナリ。

給與スベキ兒童ノ認定ハ學校之ヲナス、第一ニ家庭ニ於テ暖メラレタル朝食ヲ得ザル者、若クハ毫モ朝食ヲ得能ハザル者、第二榮養狀態ノ不良ナル者ヲ以テ朝食ヲ給ス可キ者ト定ム。

各學校ハ之ヲ給與スベキ兒童ニ相當スルダケノ朝食量ヲ受ク。

朝食ノ支給ハ愛國婦人會ノ給費ニヨル、同會ノ委託ヲ受ケ居ル商店ヨリ毎日學校始業前ニ於テ之ヲ學校ノ小使ニ渡スモノトス、現時一「リーテル」ノ牛乳ヲ二十片、四筒ノ食麭ヲ十片ト計算シ之ヲ四人分トス即チ一人前七五片ナリ(三錢六厘)。

朝食時刻ハ學校始業前若クハ第二授業時間後ノ十五分休憩時間トス新築校舍ニアリテハ特ニ朝食室ノ設備ヲ有ス、牛乳ヲ煮沸スルコト、煮沸器具及飲用「エナメル」椀ノ整頓清潔法及ビ兒童ニ朝食ヲ分配スル事等ハ學校小使ニ委託ス、之ガ爲ニ特別報酬ヲ支給ス。

一九一〇年ニハ總計二十萬二千人前ノ朝食ヲ支給シタリ而シテ之ニ對シ市ハ一萬六千馬克ノ支出ヲナセリ。

### (b) 午食





饑餓ノ爲ニ學校ノ授業阻害ヲ被ル小學兒童ニ午食ヲ給與スル第一回ノ試ミハ一八九九年ニ訴ラザルベカラズ、此年當市學校ニ始メテ家事科(ハウスハルトング)ヲ加ヘタル時是ナリ、特別ノ必要アル場合ニ於テ該兒童ニ毎週一兩回教授ノ際製シタル料理ヲ幾分ヅヽ給與シタルモノナリ。

併シナガラ總テノ家事料理ニ於テ全週間一獨立ヲ調製セラレタリシヲ以テ之ヲ更ニ擴張スルコトハ適當ナラザルコトトナレリ。

第二回ノ試ハ一九〇七年ニシテ前者ト全然異レル理由ニ基ケリ、嚴冬中、全日、暖カキ食事ヲナシ得ザル七十名ノ兒童ニハ毎日、又他ノ六十名ニハ隔日毎ニ一回宛市費ヲ以テ暖カキ午食ヲ給與セリ、食事給與ハ一部ハ愛國婦人會一部ハ少年保護所(ユーゲンドハウス)ヨリス、眞ニ必要不得已兒童ヲ限リ單簡ナレドモ榮養多キ食事ヲ給シ一名ニツキ平均七十瓦ノ肉ヲ與フ兩會ハ兒童數ガカク少數ニ過ギザリシ間ハ市ノ給費ニ對シ一人三十片トシテ計算シタリ。

一九〇八年二月ニ至リ市立小學校ニ「家庭」ニ於テ毫モ暖キ午食ヲナシ得ザル兒童數ハ果シテ若干アルヤ」ノ照會ヲ出シテ取調ベタル結果家庭ノ狀況ヲモ調査シタル後毫モ毎日暖キ午食ヲナサズ、又夕食ニ於テ毫モ其補給ヲ得ザル兒童ニハ凡テ一般ニ各學期間ハ固ヨリ且又休暇中ト雖モ毎日一回暖キ午食ヲ給與スルコトニ決定シタリ、カクシテ後每日食事スル兒童ハ一九〇八年三月ニハ三百四十名ニ上リ十一月ニハ四百二十名ニ十二月ニハ四百五十名トナレリ一九〇九年二月ニハ更ニ五百名トナリ同年四月一日ヨリ九月三十日迄ニハ每日五百人前宛給與シ十月一日以降ハ六百人前ニ昇レリ一九一一年ニハ市內ニ五ケ所ノ食事所配置セラル、一筒ノ食事所ノ內ニ少年保護所ハ一筒ノ中央料理場ヲ有シ之ヨリ三筒ノ支所ヲ管理扶

助ス此他愛國婦人會モ亦一箇ノ食事所ヲ有ス此食事所ハ人民賄所ニ附設セラル。

最近榮養學ノ研究ノ結果ト衛生家ノ意見ノ合致トニヨリテ一九〇八年二月二十七日ヨリ獻立ヲ變更シタリ卽チ從來每日調理セシ肉食(一人每ニ七十瓦)ヲ改メテ每週唯二回トナシ其他ノ日ニハ榮養ニ富ミ且ツ美味ナル蔬菜調理トナスコトトナセリ此改正ノ結果午食一人前三十片ナリシモノガ直ニ低價トナリ十五片トナシ得タリ從テ同一ノ食物ヲ以テ從前ノ二倍數ノ兒童ヲ養フニ足ルニ至レリ、獻立ノ一定數ハ少年保護所ノ紹介ニヨリ伯林大學生理學ルブナー教授ノ教室ニ於テ其榮養價ヲ試驗シタリ、其結果學校給食ノ獻立ガ合理的ナルコトヲ明ニセリ、唯料理ガ少シ硬キガ故ニ之ヲ少シク軟カクスベシトノ注意ヲ受ケタリ、依テ之ニ從ヒ調理ヲ改メタリ、又漸次原料ノ購入方ニ改善ヲ加ヘタル爲メニ此一點ノミニヨツテモ既ニ食物ヲ二十%ダケヨリヨク佳良ニシ得ルノ利アリタリ、又他ノ事務上ノ改善ヲ謀リテ一層經濟的トナシ、食物內容ノ改善ヲ期シ得ルニ至レリ。

兒童ヲ學校給食ニ附スル爲メニハ次ノ規程ニ據ル。

(1) 次ノ者ハ學校午食ニ附セズ。

當該家族ノ收入ガ十分アリ且ツ母(若クハ他ノ者)ガ規則正シク十分ノ午食ヲ調理シ得ル時。

(2) 家族ノ收入ハ兒童ニ食事ヲ供給スルニ足レドモ、母ガ外ニ在リテ必要ニシテ不得已仕事ヲ有スル時又ハ母ガ疾病ニ罹ルカ又ハ死亡ノ爲メニ事實上十分ナル午食ノ調理ガ不可能ナル時ハ實費ヲ徵集シテ學校給食ニ附スルモノトス。

(3) 收入ハ十分アルトモ母ノ世話不行屆等ノ爲メニ十分ナル午食ヲ調理供給セザル時ハ先ヅ狀況調査係ヲシテ親シク忠告セシメテ母ヲシテ本來ノ義務ヲ盡サシムルヤウ務ム無效ニ終ハル時ハ緊急ヲ要スル他ノ兒童ノ處置後ニハ本兒童ニ對シ學校給食ヲ提議ス此時ハ實費徵集ヲナス。

(4) 實際貧民ノ子弟ニシテ貧困ノ爲メニ十分午食シ能ハザル者實地上兒童ヲ學校給食ニ附スル手續トシテハ擔當教員ハ校長ヲ經テ、住所氏名及健康狀態ヲ記載セル一書式ヲ作クリテ少年保護所ニ送附ス然時ハ豫メ各學校ヨリ一二ノ教員ヲ學校給食協會事務ニ參加セシメアルヲ以テ其一名ニヨリテ家族ノ生計ヲ報告セシム、依是協會長及一二ノ教員ヨリ組織セラレタル委員會開會セラレ茲ニテ兒童ノ學校給食ヲ決定シテ當該學校ニ通知スルナリ、此通知書ハ當該兒童名簿ニ附綴シテ保存セラル、給食許可ノ際ニハ「健康證」ニ記載セラル、學校及學校醫ハ依是常ニ給食兒童ヲ知悉ス、給食兒童ハ食事證明切符ヲ受ク。

シヤロッテンブルグ市ニ於テハ午食ヲ給セシ兒童ハ次ノ如シ。

| 年次 | 分量 | 代價 |
|---|---|---|
| 一九〇七年 | 一六〇七〇人前 | 三八二七、四五馬克 |
| 一九〇八年 | 一〇八一六〇人前 | 一七二七二、八〇馬克 |
| 一九〇九年 | 一六二〇〇〇人前 | 二六六八七、五三馬克 |
| 一九一〇年 | 一八二三二〇人前 | 三〇五六〇〇〇馬克 |

備考　右代價ハ保護者ヨリ徵集セル分ハ引去リタルモノナリ。

一九一四年歐洲大戰開始後獨逸ニテハ學校給食ノ必要戰前ヨリ一層增加セシガ如シ一九一五年末發行衛生學寶函ニヨレバ、伯林ノ學校給食ハ

| | |
|---|---|
| 一九一二年度(同年四月ヨリ一九一三年三月迄) | 一五九〇九四四人前 |
| 一九一三年度 | 一八九七七八九人前 |
| 一九一四年六月 | 一四九九四一人前 |
| 一九一四年七月 | 一〇五二六一人前 |
| **一九一四年八月** | **二五一三六三人前** |
| 一九一四年九月 | 五七四八一一人前 |
| 一九一四年十月 | 五八五九八〇人前 |
| 一九一四年十一月 | 五二一九九二人前 |
| 一九一四年十二月 | 四八八六〇五人前 |
| 一九一五年一月 | 四四四〇〇八人前 |
| 一九一五年二月 | 四四八五二四人前 |
| 一九一五年三月 | 四八七四七一人前 |

ナリシガ戰爭ノ開始結果一九一四年八月以降ハ急增ヲ見タリ

| | |
|---|---|
| | 一九〇九一三二八馬克 |
| | 二二七七三四六八馬克 |
| | 一七九九二九二馬克 |
| | 一二六三一三二馬克 |
| | **三〇一六三五六馬克** |
| | 六八九七七三二馬克 |
| | 七〇三一七六〇馬克 |
| | 六二六二九〇四馬克 |
| | 五八六三二六〇馬克 |
| | 五三二八〇九六馬克 |
| | 五三八二二八八馬克 |
| | 五八四九六五二馬克 |

戰前ニハ午食ハ保護者ヨリ徵集ノ場合ニハ一人前十片ナリシガ戰爭開始後ハ騰貴シテ十五片トナセリ、食事所ハ一九一三年ニハ十三ケ所ナリシガ戰爭起リシ後一九一五年ニハ五十ケ所トナリシト。

學校食事ノ榮養價檢査ハ伯林市立試驗所ニ於テ施行セリ戰後ト雖モ之ヲ繼續シテ時々ノ檢査表ヲ揭出シアルガ、其一二ヲ比較スレバ一人前ノ午食ハ如次。

一九一〇年冬

| | 脂肪 | 蛋白 | 含水炭素 | 熱量 |
|---|---|---|---|---|
| 主食 | 四瓦 | 八・〇瓦 | 四四・六瓦 | 二五三 |
| 「ソップ」 | 一・四瓦 | 二・六瓦 | 一二・八瓦 | 七六 |
| 合計 | 五・四瓦 | 一〇・六瓦 | 五七・四瓦 | 三二九 |

一九一四年十月、十一月

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 主食 | 七・九瓦 | 七・三瓦 | 四五・二瓦 | 二八九 |
| 「ソップ」 | 一・二瓦 | 二・一瓦 | 一三・四瓦 | 七五 |
| 合計 | 九・一瓦 | 九・四瓦 | 五八・六瓦 | 三六四 |

依是學校食事ノ學術的根據ヲ見ルベシ。

## 第十　學校浴

日本人ハ好ンデ沐浴スルモノト一般ニ信ゼラルヽガ、夫レハ御同樣ダケノ事デアツテ、地方ニヨリテハ年中湯ニ入ツタ事ノナイ兒童ガアルノニ驚クベシ、或地方デハ住民ガオ湯ニモ入ラズ水泳モセヌ所アリ、東京市デモ貧民窟デオ湯ニ往ケヌ人ガ澤山アル。ナゼ往ケナイカト云フト衣服ノ不自由、更衣ガ無イ、洗濯ナド到底スル事ガ出來ヌト云フ家庭ガアル。サウ云フ家庭ノ兒童ガ市立特殊學校ヘ來ル。特殊學校デハ日本流ノ風呂ヲ立テ、一週

間ニ一回入レル。隨分汚ナイ事ニナルガ、オ湯ノ中ヲ見ルト虱ガ浮イテ居ルト云フヤウナ狀態デアル。世ノ中ガ進ムニ隨ツテ必ズサウ云フ者ガ餘計出來テ來ル譯デアル。貧富ノ懸隔ノ結果サウ云フ者ハ必ズ增シテ來ル。歐米ノ學校浴ト云フノハ單ニ清潔ト云フ觀念デ遣ルノデナイ、清潔ハ勿論良イ事デアルガ同時ニ重ナル目的ハ健康ヲ增進スル爲メデアル、皮膚ノ抵抗ヲ丈夫ニスル、皮膚ノ血液循環ヲ佳良ニスル進ンデハ全身ノ健康ヲ增進スルト云フガ目的デアル、夫レデ一般ノ學校ニ學校浴ヲ設ケ、一定ノ課業ト課業間ノ十五分休憩時ニ如露ノ裝置デ一定溫度ノ湯ガ一定ノ分量ダケ出テ來ル。一人デ何分間ニ何レダケ出テ來ルト云フ風ニ、石鹼ヲ全身ニ使ツテ、新ラシイオ湯デ身體ヲ清潔ニスル事ガ出來ル。但シ之ヲ嫌フ者、家デ這入ルカラ必要無イト云フ兒童ニハ强制シナイ、自由ニ委シテアル。學校浴ハ主ニ身體ノ健康ヲ增進スルト云フ意味デ、一ノ學校體育ト云フ觀念デ行フモノデアル。

都市ノ學校醫制度

## 第十一　都市ノ學校醫制度

終ニ大都市ノ學校醫制度ノ事ヲ一言致シ度イ、學校醫ヲ設置スルニ專務トシテ置クノト、開業ガ本業デアル醫師ニ、一定ノ契約ニヨリテ囑託スルノト二通リアル、大都市ニハ何レガ適當デアルカ。

私ハ豫テ其事ニツキ考ヘテキタカラ、歐羅巴デ實地取調ノ際ニ其地其地ノ當局者ノ意見ヲ聞ク事トシテ居マシタ。

第二章第三項ニモ記シタノデアルガ、開業醫ノ兼務デアル、副業制 Nebenamt ノ標本ハキースバーデンデアツテ、一方專務 Hauptamt ノ方ハマンハイムガ代表的「レコード」デアリマス。

本邦都市デモ開業醫ニ傍ラ學校醫ヲ受持ツテ貰フト云フノガ大多數デアリマスガ、名古屋市ハ全ク專務デ、東京市ハ今專務ニナリツヽアツテ現ニ二十人許ハ專任學校醫デ餘ノ八十人許ハ兼務デアル。地方小都市デ全然專務ノ所モ少シハアル。私ハ多分專務制ニ發達スルト考ヘマス、又ソレガ利益デアルト考ヘマス。

獨逸ニ於ケル專任制度ガ都市ニ適合スルトノ意見ハ第二章第三項ノ(一)ニ記シタ獨逸醫師會及キースバーデン市學校醫長故クンツ氏ノ意見デ明カデアル、殊ニクンツ氏ハ學校醫ノ事業ノ理想及要求ハ漸次ニ擴張セラレ學校醫的業務ガ常ニ增進シツヽアルカラ專任制ガヨイト云ツテ居ル。

學校醫長

又ブヨルツハイムノ校醫ノ學校衛生時報ニ記セル所ヲ見ルニ『專務兼務問題ハ到處速ニ解決セラルベシ、專務校醫ヲ設ケタル市ヲ見ルニ正ニ良經驗ヲ示セリ而シテ一方兼務制ハ漸次其ノ不十分ナル制度ナルコトヲ表ハセリ』ト云ツテキマス。事業ハ人ニアレドモ一般ニ制度ノ良否ニヨツテ效果ノ擧ガルト然ラザルトノ岐ル、所デアル、私ハ本邦都市モ漸次專務制ニナルモノト豫見シテ居リマス、之ガ利益デアリマス。一市ニ多クノ專務校醫アルトキハ、一人ノ醫長アルコトガ必要デアルト思ハレル。之ガ校醫ノ利益ヲ代表スルコト、執務ヲ整頓スルコト等ニ便利デアル。

# 學校衛生ノ補助機關＝學校衛生婦

都市ノ學校衛生補助機關トシテ必要缺グベカラザルモノハ學校看護婦デアリマス、之ガ置イテ無イノハ畢竟實效アル學校衛生ヲ知ラザル爲メト謂ツテモヨロシイ程誠ニ必要便利ノモノデアリマス。

學校看護婦 School nurse, Schulschwester (余ハ之ヲ學校衛生婦ト云フヲ適當トナス) 發達史ヲ詳述スル必要ハアリマスマイ、之ハ以前カラ教育雜誌ニモ紹介セラレ來テ居リマスカラ、其初メハ英國デ一八九三年デミス、ヒューズ Miss Amy Hughes ガ篤志デ貧民學校兒童ノ輕症ノ病氣ヲ看護スルト云フヤウナ仕事デアリマシタ、故ニ看護婦ト云フ名義ガ相當デアツタ、一八九八年ニ「ロンドン、スクール、ナルセス、ソサイチィ」龍動學校看護婦協會

第四圖

學校衛生婦家庭訪問

(ボスストン小學校)

ナル一私團ガ成立スルニ至ツタ、ソシテ一定ノ職務規約ト云フヤウナモノガ出來タ、龍動市ハ一九〇四年ニ初メテ公ニ之ヲ認メテ設置シタ、亞米利加デハ一九〇二年十一月七日ニ紐克市デ公設シタ、漸次事業ガ發達シタノデアル、初メハ醫者ニ密接ノ關係アルモノデハナカツタ、ト云フノハ、初メノ規程ヲ見ルト夫ガソカル、獨逸ハ餘程遲レテ出來タノデ、英米ヨリハ後進デアルガ、シカシ初メカラ學校醫ノ職務ト密接シ、學校醫ト連絡ガアリテ初メカラ學校衛生上必要ナル完全ノ補助機關タルコトヲ示シテ居ル、獨逸デハブレスラウ市ノ市醫エーベッケ Oebbecke 氏トシャロッテンブルグ市ノペェールシヤウ Poelchau 氏ガ首唱シタ、一九〇八年三月シヤ市市長ガペエルシヤウ氏ノ進言ニ基キ一名ノ看護婦ヲ設置シタ、之ガ獨逸ニ於ケル創設デ、爾後廣ク各市ニシヤ式學校看護婦ト稱シテ設置スルニ至ツタノデアル。

今シヤ市ノ學校看護婦ノ仕事ノ大要ヲ記述シマシヨウ。

一、學校醫カラ度々保護者ニ對シ兒童ヲ醫師治療ニカクベキコトヲ勸告シテモ、之ニ從ハザル場合ニハ看護婦ハ校醫ト校長トノ要求ニヨリテ家庭ヲ訪問シ、保護者ニ校醫ノ勸メニ從フヤウ直接懇談スル、此際看護婦ハ豫テ其小供ガ度々申立テタ通リ、事實父モ母モ小供ヲ醫師ノ許ニ伴フ時間ガ無イ爲メカ、或ハ他ニ原因ガアルカヲ決定シテ來ル、其決定シタ事ト感想トヲ手帳ニ記入シ、又校醫ト校長トニ口頭デ其由ヲ告ゲル。

二、若シ看護婦ガ、ソノ保護者ハ家事及職業關係又ハ病氣ノ爲メニ妨ゲラレテ兒童ヲ醫師

方ニ伴フコトガ出來ヌト認定シタナラバ、看護婦ハ兩親ニ代ツテ之ヲ務ムベキコトヲ兩親ニ交渉ス、若シ之ヲ承諾スル時ハ、次ニ看護婦ハ兩親ガ果シテ其治療費ヲ負擔シ能フヤ否ヤヲ決定セチバナラヌ、保護者ガ費用ヲ支辨シ得ルトキハ小供ヲ保護者ノ定メタ醫師ニ伴フシ、又費用ニ堪ヘヌトキハ其區ノ市醫方ニ同行シテ無代療治ヲ受ケシム其際ハ校長ヨリ認メタ通知書ヲ市醫ニ交付スル、若シ專門的治療ヲ要スルトキハ兒童ハ市眼科醫或ハ他ノ專門醫ニ紹介セラレル此專門醫ハ貧困兒童ヲ無料デ治療スル事ニナツテ居ル、看護婦ハ同伴シタ兒童ガ醫療ヲ受ケタルアトハ再ビ其宅マデ之ヲ送ルゾシテ保護者ニ醫師ノ處置法ヲ報告スル。

**三、** 鼻腔、鼻咽頭腔、咽頭等ノ增殖物、腫脹腺ノ剔出ガ必要デアル場合ニハ看護婦ハ規定書式ヲ以テ保護者ノ承諾ヲ受ケ之ヲ治療醫ニ交付スル手術後兩三日ニシテ看護婦ハ兒童ノ容體ヲ視察シ必要アラバ兩親ニ其看護ノ仕方ヲ注意シテヤル。

**四、** 治療醫ガ、眼鏡、脫腸帶、又ハ「バンダーゼ」其他ガ入用ダト云ツタ時ニハ看護婦ハ其調達ヲ監督セチバナラヌ、保護者ノ希望デアラバ、夫カラ代ヲ取ツテ其品ヲ買ヒ與ヘル、若シ貧困ノ爲ニ代金ガ出セナイナラバ看護婦ハ市醫ノ許ニ赴ク、市醫ノ取扱デ救貧費ヨリ物品ヲ註文スル。

**五、** 看護婦ガ家庭訪問ニヨツテ、其處デ、身體ノ養護、榮養法、睡眠、被服ナドニツキ不都合アル點ヲ氣付キタルトキハ、保護者ニ對シ兒童ニ適法ノ榮養法ナリ、又酒類飲用ノ害ナリ等ヲ懇諭シ、體ヲ清淨ニ洗フコト、沐浴スルコトノ大切ナルコト、室內及寢室內空氣ガ清潔デナクテハナラヌコトナドヲ說明スル。

**六、** 兒童ガ不潔デアルトカ、被服ガ不足デアルトカ、榮養ガ不良デアルトカ或ハ虱ナドガ付イテ居ルカ其他類似ノ場合ニ、看護婦ハ家庭ヲ訪問シテ家事上ノ改善法、住居、榮養ナドノコトヲ能ク說明シテ衛生ノ向上ヲ勸メル、又住居改善ニツキテモ當該公署ニ交渉シテ便宜ヲ謀ル、若シ兒童ガ既ニ肺結核療養所ノ看護婦ノ看護下ニアツタ場合ニハ、學校看護婦ハ更ニ其事件ヲ肺病世話所ニ報告シ向後ノ世話ヲ期セシメルヤウニスル。

兒童ガ頭虱其他寄生ヲ受ケテ居ル場合ニハ其治療ノ事モ亦世話スル、住居ナリ襯衣ナリニソンナ寄生蟲ガ居タトキハ看護婦ハ保護者ニ交渉シ、市立消毒所ニヨリテ清潔法ヲ施行セシメル。

**七、** 傳染病者ノアル家庭ニハ、學校看護婦ハ訪問ヲ避ケル、若シ偶然カヽル場合ニ遭遇セバ、看護婦ハ速ニ十分ノ消毒ヲ行フヤウ務メチバナラヌ義務アリ。

**八、** 學校醫ガ檢査ヲスル場合ニ、特ニ必要アラバ之ヲ補助スルコト、兒童衣服ノ著脫等ヲ手傳フコト。

右ノ如ク看護婦ノ仕事ヲ具體的ニ說明スルガ、尙ホ此ホカニモ仕事ガアル、學校給食ヲ決定スル場合ニ家庭ノ事情ヲ探訪スルナドハ重要事デアル、私ガドレースデンニ居タトキニ其處デ全獨逸學校醫會ガ開カレタガ、其時シヤ市ノ學校看護婦成績報告アリ前記ベールシヤウ氏ハ一九〇九年乃至一九一〇年ノ一年間ノ仕事ヲ報告シタリ、看護婦ハ二名デ二十六校ヲ擔當シ一千〇四十六件ヲ處置シタ、其成績トシテハ其內ノ八十五%ハ完全ニ效果ヲ擧ゲタ、九%ダケハ徒勞ニ歸シタ、殘リノ六%ハ疑問ナリシト。

兎ニ角、婦人ガ此方面ノ社會的事業ニハ最モ適當シテ居ル證據ニハ其效果ガ顯著デアルノ

デワカル。

學校看護婦ハ之ヲ養成スルニドウシテ居ルカト云フニ、如次。

一。條件

年齢二十歳ヨリ。期間半歳。素養—小兒預所主任試驗合格者、又ハ之ニ相當ノ素養アル者。

甲　學理的科目

1、社會政策　水曜八乃至九時　ドクトル　ケストナー

2、幼少年者養護　土曜一〇乃至一一時　ドクトル　デエーンシング嬢

3、救貧法　水曜九乃至一〇時　ケエツプ嬢

4、獨逸語　土曜一二乃至一時　ドクトル　ハルナック嬢

5、專門雜誌ノ講義初歩　土曜一一乃至一二時　フォン　ギールケ嬢

6、學校看護事項　火曜九乃至一一時　ブルーメンタール嬢

乙　技術的科目

7、事務室作業

丙　實習

8、學校食事補助勤務

9、事務室補助及學校看護見習

10、Reclerchen

右ハ一九一三乃至一九一四年ノ教案ニシテシヤ市社會教育的「セミナール」ニテ余ガ受ケシ小册ニ據リシモノナルガ學校衛生事業ガ如何ニ社會的事業ト密接セルカヲ見ルニ足ルベシ

本邦ノ或都市ニ於テハ學校看護婦ヲ置キテ學校醫ノ「トラホーム」治療ノ補助機關トナセルアリ。

學校衛生ノ發達ノ爲ニハ一定ノ養成講習ヲ行フノ必要アリト思フ、余ハ之ヲ學校衛生婦トシテ養成シ、吾ガ國情ニ適スル科目ヲ教授シ實習セシメ、又相當ノ手當ヲ受ケシムルヤウ、婦人ニ適當ナル一職務タラシメンコトヲ期ス、而シテ其時期ノ到來ヲ鶴首シテ期待ス。

# 第八章　小學校ノ結核豫防

## 第一項　小學校ニ於ケル結核豫防ノ必要

明治四十三年春文部省ニ於テ執務セル頃デアリマシタカ、內閣統計局ニ於キマシテ初メテ二箇年ニ亙リテ職業別ニヨル日本人ノ死亡原因統計ガ發表ニナリマシタ、卽チ其發表ニナツタ時ハ四十二年及三年デアツタガ發表ニナツタ材料ハ明治四十年度分及翌四十一年度分ノ二箇年度デアリマス。

ソレデ其統計ヲ見ルト學校衛生上重大ナ事實ヲ含ンデ居ル、今マデ實際ニ於テ確カニ人ノ知ラナカツタ所ノ新事實ガ現ハレテ居ル、卽チ日本ノ小學校ノ敎員ニハ肺結核ノ死亡ガ少ナカラヌトイフ事實デアリマス。此事ハ敎育又學校衛生上重大ナ事柄デアリマスカラシテ、此統計ヲ材料トシ之ニ他ノ材料ヲ加ヘ編纂シテ、サウシテ當局者ニ上申モシ、意見モ開陳イタシマシタ、所ガ當時サウイフ事實ガ初メテ現ハレタノデ、當局者モ非常ナ注意ト熱心トヲ以テ其事ヲ聞カレマシテ、色々ト計畫ヲ始メラレタノデアリマス。私ノ調ベマシタモノハ其當時學校衛生ノ關係當局者ニ配布ヲ致シ、又一二ノ公ケノ會ニ於テモ意見ヲ述ベタノデアリマシタ、ゲレドモ其當時考ヘマスニハ、此統計トイフノハ單ニマダ二年間ノ經驗ニ過ギナイカラ十分ニ確實トイフコトハ出來マイ、少ナクトモ數年ノ統計ノ



成績ヲ見ナケレバ、豫防ノ方法ヲ講ズルニ付キテモ十分ノ計畫ヲ爲スニハ材料ガ足ラヌノデアラウト考ヘマシテ、ソレニ必要ナル計畫ヲイタシテ居ル中ニ、急ニ日本ヲ出發シナケレバナラヌコトニナリマシテ、三年間、不在デアツタガ其間文部省デモ計畫ヲ進メラレ實地上ニハ古瀨學士ヲ福島、岡山兩縣ニ派シテ敎員ノ身體ヲ檢査セシメラレタノデアリマシタ大正四年度カラシテ現行ノ規程ヲ實施セラルヽニ至ツタノデス、敎員肺結核豫防其モノダケデモマダ〳〵遺憾ナ點ガアルト考ヘマスガ私ハ敎員結核問題ハ小學校結核豫防上カラ見レバ根本問題デハナイ、沂ツテ小學校兒童ニ對シテ豫防ヲシテ行ク事ガ根本デアルト考ヘマス私ガ獨逸、墺太利、瑞西ヲ歩ルイテ學校衛生ノ事ヲ調ベテ居リマスル時ニ敎員殊ニ小學校敎員ノ結核ノ事ヲ何ツモ質問ヲ致シマシタ、學校衛生ノ當局者或ハ小學校長或ハ學校醫長、學校醫トイフヤウナ人ニ、イツデモ質問ヲシ居リマシタガ、ドウモ不思議ニ先方デハ敎員、殊ニ小學校ノ敎員ニハ肺結核ガ少ナイ、ソレデ是ハ日本ノヤウニ若シ職業病ナラバ、元來歐羅巴ニモ結核ガ澤山アツテ結核豫防運動ガ盛ンニ起ツテ居ルノデアルガ、敎員ニモ無クテハナラヌ筈デアルノニ、實際非常ニ少ナイ、ソレデ校長敎員ナドノ申スノニ自分ハ十年間、十五年間、小學校ニ奉職シテ居ルケレドモ曾テ同僚ノ肺結核ニ罹ツタ人ニ遭遇シタコトガナイトカ、或ハ單ニ一人肺結核ニ罹ツタ人ニ出會ツタコトガアルトイフヤウニ、ドコニ行ツテモサウイフヤウナ答辯デ誠ニ不思議ニ思ツタノデアリマス。

丁度私ノ滯歐中ニ此問題ニ付イテ熱心ニ調ベテ居ツタ人ガアリマシタ、現今ノ獨逸人ノ教員結核問題ヲ調ベマスルニ參考ニナルノデス其人ハドクトル・アルトシュール(Dr. Altschul)ト云フ人デ、墺太利ベーメンノブラーグ市ノ人デアリマス。小學校教員ノ結核ノ調査ヲシテ、度々演說ヲナシ、報告モシテ居リマス。一九一三年ノ十月下旬ニ伯林ニ第十一回萬國結核會議ガ開カレマシタノデ私モ出席致シマシタガ、此人ハ其節モ矢張リ學校教員結核問題ニ付イテ演說サレテ、聽衆ノ大ナル注意ヲ惹キマシタ。其時此人ノ述ベマシタ趣旨トシテハ

教員間結核ノ意義

『教員ノ肺結核ハ單リ學校兒童ニ對シテ傳染ノ危險ノ甚ダシキノミナラズ、此病氣ニ罹ツテ居ルモノハ第一ニ精神竝ニ身體ガ弱ツテ居ル、詰マリ斯ウイフ人ノ授業力、兒童ニ適當ノ課業ヲ教ヘテ行ク所ノ勢力トイフモノガ非常ニ減ツテ居ル、之ガ即チ教育上甚ダ恐ルベキコトデアル、併シナガラ學校ノ教員タル人ガ元來多ク肺結核ニ罹ルモノデアルカ、或ハサウ多ク罹ラナイモノデアルカトイフコトハ各地ノ成績ヲ調ベテ見テモ一致シナイ點ガアル、詰マリ言ヒ換ヘレバ比較的多イ土地モアル、又少ナイ土地モアル、ソレデ自分ハ一ツノ發議ヲ此會ニシタイ、トイフノハ、教員肺結核問題ハ學校衛生上重大ナモノデアルカラシテ萬國國際的ノ教員ノ疾病統計トイフモノヲ採リタイ、殊ニ其疾病統計ニ付イテハ肺結核トイフモノヲ主モニ顧慮シテ、其事ヲ目的トシテ統計ヲ採リタイ』

トイフコトヲ述ベラレタノデアリマス。所ガソレニ對シマシテ伯林ノ教員協會ノ學校衛生會 Vereinigung für Schulgesundheitspflege des Berliner Lehrervereins ノ會頭デアルフリードリツヒ、ローレンツトイフ人ガ立ツテ獨逸教員死亡互助會ノ經驗ガアル、其材料ニ付イテ自分ガ取調ベタ所ノ成績ニ依ルトイフト教員ノ結核死亡ハ其他ノ職業ノ者ト比較シテ特ニ多クハナイノデアルトイフコトヲ述ベマシタ。

此ローレンツトイフ人ハ大正二年ニ教員結核ニ關スル一ノ小冊子ヲ發行シマシタ、伯林ノ獨逸教員ノ死亡互助會ノ經驗ニ依ル教員ノ結核死亡 Die Tuberkulosesterblichkeit der Lehrer トイフノデアリマス。之ニヨレバ獨逸現在ノ教員肺結核ノ事ガ極メテ能ク簡單ニ分カルヤウニナツテ居リマス。

非職業病

此人ノ調査ノ結論ヲ茲ニ記スレバ第一ニ教員ノ結核死亡ハ他ノ職業者ニ比較シテ別ニ多イモノデハナイ、此結核死亡ノ中ニハ肺結核モ含ンデ居リマス、ソレデ此調ベニ依リマスルトイフト一一・三九%デアルソレカラ第二ニ此教員社會教員トイフ一ツノ階級ノ結核死亡トイフモノハ、他ノ一般ノ人民、卽チ獨逸人ノ結核死亡一般ガ最近十年間ニ漸次減少ヲシテ居ル、ソレト同樣ニ教員ノ結核性ノ死亡トイフモノモ漸次ニ減少シテ來タ、第三ニ教員ノ結核死亡數ニ付イテハ田舍ノ教員ト、ソレカラ都會ノ教員トニ依ツテ大ナル差異ハナイ、都鄙共ニ其數ヲ一樣ニシテ居ル、第四ニ教員結核死亡ノ最モ多イ時期ハ教員ガ教職ニ付イテ其在職中ノ最初ノ時期デアルヤウデアル、是ハ確カニ言ツテアリマセヌ

ケレドモ、ザフイフ風ニ見エル、卽チ年齡ヲイフト二十歲カラシテ三十歲ノ間ノ死亡ガ最モ多イ、第五ニハ此敎員結核トイフモノハ決シテ敎員ニ特有デアル所ノ特異的ノ職業病ト斷定スベキモノデハナクシテ、是モ一ツノ社會的要約ニ因スル所ノ疾病デアル、職業其モノガ原因デハナイ、敎員ノ生活上ノ社會的要約ニ原因シテ居ルモノデアルト、斯ウイフ結論ヲシテ居リマス、ソレデ詳シイ數ノ上ノ事ニ付イテハ申上ゲマセヌケレドモ、此右獨逸敎員互助會ノ經驗ニ依リマスルトイフト、敎員一般ノ結核死亡トイフモノハ存外ニ少ナイノデアリマス。

日本ニ於キマシテハソレニ反シテ、敎員結核ノ死亡、結核性ノ疾患ニ罹ツテ死ヌル數トイフモノハ、例ヘバ明治四十年カラシテ四十三年ニ至ル四箇年間ノ統計ニ依リマスルトイフト。

⊙敎員死亡原因中結核死亡—敎員死亡千人ニツキ

| | |
|---|---|
| 肺結核 | 三〇五・九乃至三四四・七% |
| 結核性腦膜炎 | 一一・三乃至　一六・三% |
| 腸結核 | 二二・七乃至　三七・二% |
| 其他ノ臟器ノ結核 | 二・六乃至　二五・三% |

斯ウイフ風ニナツテ居リマス非常ニ多イノデアリマス。

獨逸デハローレンツノ調ベタ統計ノ外ニ又獨逸ノ他ノ地方デ調ベマシタ統計ガアリマスガ、何レニ致シテモ日本ホド敎員ノ結核死亡ノ多イ所ハナイヤウニナツテ居リマス、ツマリ內閣統計局ノ統計ニ依リマスルト、日本ノ統計ニハ死亡數ガ餘ホド多ク現ハレテ居ルノデアリマス、此ノ彼我對照イタシマシテ著シイ相違トイフモノハ職業病デアルトカナイトカイフ點ニアリマス、ソレデ日本ニ於テハ敎員ノ肺結核ハ事實デアリマスカラシテ、目前其豫防ヲシナケレバナラヌノデアリマス、此要望ヲ充タスニ付イテハ、今目前ニ是非ヤラナケレバナラヌ方法モアルト卽チ拋ツテ置ケナイモノモアリマス、ソレカラ又將來ヲ圖ツテ將來ノ豫防法ノ爲ニヤツテ行カナケレバナラヌモノモゴザイマス、目前ヤツテ往カナケレバナラヌ方法トイフノハ、此學校ニ於テ肺結核ノ敎員ノ病毒ガ他ニ傳播蔓延シナイ方法ヲ採ラナケレバナラヌ、卽チ早ク病毒ノ所在ヲ發見セネバナラヌ則チ早ク診斷ヲ付ケネバナラヌ又其人ヲ早ク隔離セネバナラヌ又同時ニ此結核敎員自身ノ治療法モ講ジナケレバナラヌノデアリマス、此事ハ事實肺結核ガアル以上ハ一日モ忽ガセニスルコトノ出來ナイコトト思ヒマス。

一方將來ノ爲ニ色々ト調査モシナケレバナラヌノデアリマス、其調査ニ依ツテ豫防上種々計畫ヲシテ行ク事柄ノ根據ヲ得ルコトガ出來ルト思ヒマス、例ヘバ本邦敎員ノ肺結核トイフモノハ果シテ職業病デ有ルカ無イカ、是ハ一ツノ例ニ過ギマセヌケレドモ、マダサウイフ問題モ色々アラウト思ヒマス。

私ガ特ニ述ベタイノハ右述ベマシタ中ノ將來ノ爲ニ圖ツテ往クベキコトデ之ガ小學

校結核豫防ノ根本ドアルト考ヘマス此將來ト申シマシテモ、目前ヤッテ行カナケレバナラヌ事柄ト同時ニ、將來ノ爲ニ出來ルダケ一緒ニ早クヤッテ往キタイトイフ事柄ヲ申スノデアリマス。

現在ノ國民ハ將來ノ日本ノ爲ニ精神身體ノ健康ナル第二ノ國民ヲ作リマシテ、日本ノ國家、日本ノ民族ノ繁榮ヲ圖ラナケレバナラヌ責任ガアル、第二ノ國民ヲ教育スベキコトニ對シテハ小學校ノ教員ガ最モ大切デアルトイフコトハ明カデアッテ、從ッテ小學校ノ教員ノ活動ヲ俟タナケレバナラヌカラ、其活動ノ基礎トナル所ノ教員ノ健康ヲ圖ッテ往カナケレバナリマセヌノデアリマス、此教員モ必ズ一度ハ小學校ニ在ッタ者デアル教員ノミナラズ國民ガ凡テ小學教育ヲ受ケネバナラヌカラ小學校時代ノ豫防ハ何レノ方面ノ爲ニモ根本トナルモノデアル故ニ教員ノ結核豫防ヲ言ヒ換ヘレバ、全國民ノ結核豫防トイフモノハ、ヅマリ此小學時代ニ圖ラナケレバナラヌノデアリマス、其方法トシテ最モ必要ナルハ林間學校「フェリエンコロニー」等ノ手段デアル。

林間學校

兒童ガ學校ニ這入ッテ參リマシタトキニ身體檢査ヲ致シマシテ、ソレデ結核ニ罹ッテ居ルモノ、ソレカラ又結核ノ素質ノアルモノ、腺病質ノモノ、及其他ノ一定ノ疾患ヲ有ッテ居ルモノヲ併セテ診定ヲシナケレバナラヌ、其重クシテ就學不能ノ者ハ勿論就學延期ヲイタシマス、ソレヲ除イタ外ノモノハ所謂豫防ノ爲ニ林間學校ニ送ラナケレバナラヌノデアリマス、此林間學校ハ主義トシテ、結核ニ罹カラウトイフモノヲ罹ラナイヤウニスルノデアリマス、結核豫防ノ根本義ハ單ニ結核ニ罹ッタモノヲ隔離ヲシテ、サウシテ其排出スル所ノ病毒ヲ消毒スルニ止マラズ、斯ウイフ風ニ、廻ッテ第一著ニ結核ニ罹ラナイ方法ヲ講セザレバ、イツマデ經ッテモ病氣ハ絶エナイノデアリマス、此林間學校ノ事ハ次章ニ述ベマスガ、一九〇四年シャロッテンブルグ市創立後成績佳良ナルコトガ明ニナッテ唯今デハ獨逸國ニ總計十七箇所トナリ、又墺太利、或ハ瑞西、英、佛、米其他ニモ此林間學校ヲ設立シテ居ルノデアリマス。

「フェリエンコロニー」

次ニ先年東京九段ノ精華學校ノ兒童ニ行ヒ其成績ヲ、故小原賴之君カラ學會ニ報告サレマシテ其後各市ニ普及シマシタ所謂「フェリエンコロニー」デアリマス、此「フェリエンコロニー」モ同ジ目的ヲ以テ各國民ノ間ニ盛ンニ行ハレテ居リマス、其目的ハ林間學校ト同樣デアリマス、伯林ダケデモ「フェリエンコロニー」ノ組合ガアッテ既ニ千八百八十年位カラ行ハレテ居リマシテ、千九百十二年末マデノ報告ニ依ッテ調ベテ見マスルト、例ヘバ千九百十年ニハ伯林ノ協會デ其年ダケデ五千百五十三名ノ兒童ヲ百十八組ノ「コロニー」ニ分ケマシテ、サウシテ體質ニ相應シテ種々ノ場所ニ送ッテ居ルノデアリマスソレデ此豫防ノ成績トイフモノハ又非常ニ著シイノデアリマス。

「アブヘルケンガ」

又一時人ガ衞生ヲ誤解シマシタ時代ガアリマスガ、卽チ「身體ヲ頑强ニス」トイフコトヲ忘レテ居ッタ時代ガアリマス、衞生トイフコトハ決シテ弱ハサウナモノダケヲ保護スル

モノデハナイ、弱イ者ヲ強クシ、強イ者ヲ尙ホ強クシテ弱クナラナイ工風ヲシナケレバナラヌデスカラシテ此方針ヲ又一層學校ニ於テモ特ニ注意シテヤツテ行キタイ、例ヘバ兒童ハ寒暑共ニ自然ニ對シテ抵抗力ヲ發揮スルコトノ出來ルヤウニ成ルベク新鮮ナル空氣中ニ、運動ヲ奬勵シテ寒冒ニ罹ラナイ方法ヲ講ズルトイフ方法デアリマスガ、主義トシテハ此「アブヘルツング」トイフモノニ非常ニ力ヲ入レタイト存ジマス

又モウ一ツ林間學校ニ送クル必要ノナイ兒童デモ、例ヘバ胸廓ノヨクナイモノデ、後日肺ノ疾患ニデモ罹カリ易イト思フヤウナ胸廓ヲ有ツテ居ル兒童サウイフモノハ普通ノ授業時間中、讀ミ方トカ或ハ書キ方トカ或ハ綴方トカ等一般ノ授業時間ニ於テモ方々カラ特ニ姿勢ノ注意ヲ與ヘル、教員ノ方デモサウイフ兒童ニ對シテハ絕エズ注意ヲ拂ツテ行タ、又體操時間ニハ特ニ體操教師ガ斯樣ナル兒童ノ運動ニ始終注意ヲシテ行タトイフコトハ非常ニ必要デアラウト思ヒマス、尙ホ又私ハ歐洲ニ居ル時、一般ニ肺部ヲ強壯ニスル體育ヲ盛ニ講ジタイトイフ意味カラ、所謂強肺體操ヲ見タノデアリマスガ、非常ニ盛ンナモノデアツテ如何ニモ肺部ヲ強壯ニスルコトノ出來ルヤウニ見ユル、強肺體操ガ行ハレテ居マシタ、如此、十分ニ效能ノアル強肺體操法ヲ編成シマシテ、特ニ體操時間ノ一部分ヲ斯ウイフ目的ノ爲メニ分ケルトイフ方針ヲ採ツテ見タナラバ肺結核ノ豫防ニ效アラント考ヘマス。

其他小學校兒童ノ麻疹及百日咳ノ豫防ガ結核豫防上甚ダ必要デアリマス此點ハ特ニ



社會的施設

本邦小學校ニ於テ閑却サレテ居ル、如此傳染病ニ罹リタル爲メ多クノ兒童ガ結核ニ罹リ易クナルノデアリマス。

次ニ又結核ノ豫防ニ關シマシテハ單リ學校ニ於テ實施スルノミナラズ、社會ニ於ケル社會的豫防施設ガ極メテ必要デアリマス、其爲ニハ色々ノ機關或ハ治療所ノヤウナモノヲ設ケナケレバナラヌノデアリマシテ、ソレニ付イテハ本邦ニ於テ結核豫防協會ガ起リ其事業ガ發達シツヽアルノハ大ニ賀スベキ事デアリマス、又內務省カラ法律トシテ結核豫防法ガ出ルニ至ツタノハ豫防上甚ダ有效ナル事デアリマス、獨逸ノ結核豫防中央委員會ノ組織ノ如キ有力ナ團體モ必要ト思ヒマス、尙又結核患者ノ發生シタ時ハ特ニ其患者ニ對スル處置ノミナラズ、家族ニ對シテモ結核ニ付イテ看病ノ方法ナリ或ハ豫防ノ方法ナリヲ忠告スル親切ニ勿告スル機關ガ必要デアル、又種々結核治療ヲ目的トスル講習會ノ如キモ必要デアル、又結核ノ治療ノ爲ニ赤十字社ノ如キモノト連絡ヲ取ル、是ハ日本デ近來サウイフ仕組ガ出來テ來マシタ、獨逸ニ於テハ赤十字社トイフモノハ非常ニ活動ヲシテ居ルノデアリマス又治療所ノ外ニ恢復所モ拵ヘナケレバナラヌノデアリマス、獨逸ニ於キマシテハ大正二年三月ノ第十七回結核豫防中央委員總會ノ報告ニヨレバ、結核ノ治療所ハ(Heilstätte)全國ニ百四十九箇所アリマシテ、ソレニ對シテ病牀ノ數ガ一萬五千二百七十八設ケテアル、是ハ大人デ肺結核ニ罹ツテ居ルモノニ是レダケノ病牀ガ與ヘテアリマシテ、一年平均一人三箇月ハ此中デ治療ヲ受ケルコトガ出來ル、卽チ一年ニ計算イタ

シマスレバ六萬一千人ノ患者ガ百四十九箇所ノ治療所ニ於テ治療ヲ受ケルコトガ出來ルノデアリマス、又子供ニ向ヒマシテハ重症ノ肺結核ニ罹ツタ子供ヲ收容スル場所（Kinderheilstätte）ガ全國デ二十七箇所アリマス、此處ニハ一千二百ノ病牀ガ備ヘテアリマス、尙ホ子供ノ爲メニ其他ノ病院（Anstalte）ガ百三箇所モアリマシテ、此處ニハ九千百五十七ノ「ベツト」ガアリマス、此百三箇所ノ病院デハ腺病性竝ニ既ニ結核ノ危險ガ迫ツテ居ル所ノ兒童ヲ送ルコトガ出來ルノデアリマス、併ナガラ小兒ノ爲メノ此治療所トイフモノハ、多クハ夏ノ間ノミ活動スル裝置デアリマシテ、冬期ハ多クハ閉ヂルノデアリマス、又林間ノ恢復所（Walderholungsstätte）トシテハ獨逸全國ニ百十四箇所アリマシテ、是ハ大部分矢張リ夏期ノ用ニナツテ居リマス、是ハ大人ノホカ小兒ニモ分ケ與ヘルコトガ出來マス、其中小兒ノ爲ニ設ケタモノヽ一部分ハ丁度林間學校ニ於ケルガ如キ普通ノ學業ヲ授業スルダケノ設備ガ出來テ居ルノデアリマス、ソレカラ又林間學校ハ前申シタヤウニ獨逸全體ニ十七箇アル、斯樣ニシテ小學校ニ於ケル結核ノ豫防ハ國民結核豫防ノ根本トナルモノデアルカラ小學校ニ於テ十分ニ之ヲ行フ必要ガアルト考ヘマスガ同時ニ社會ニ於テモ種々ノ事業ヲ行ハネバナラヌト信ジマス（第二章第四項第五參照）。

## 第二項　林間學校及「フェリエンコロニー」

### 第一　林間學校

大正六年八月一日白十字會ガ相州茅ケ崎ニ開設セルモノガ本邦唯一ノ常設林間學校デアル從來林間學校ト稱ヘ夏季ニ開設スルモノ多キモ效果ガ十分デナイノガアル、其原因ハ第一ニ兒童ノ選定、其ノ他此ノ事業ニ關係スル教員ノ選定及ビ日課ノ配當等ガ十分ニ研究セラレテ居ナイ爲メト、且又經濟ノ切リ盛リノ研究ガ出來テ居ナイ爲メニ永續シナイモノガ往々アル、尤モ余モ全國ニ亙ツテ悉ク調査シタ譯デハ無イガ、其ノ組織ナリ方法ナリニ於テ、コレマデニ最モ意ヲ得タモノハ、大正三年ニ京都ノ赤十字社ガ關係シテ天ノ橋立ニ於テ試ミタ短期ノ夏季林間學校及ビ大正元年以來種々改善シツヽ發達シタ香川縣高松市ノ夏季林間學校デアツテコノ二ツガ自分ノ見聞シタ中デハ最モ勝レテ居ルヤウニ思フ。マタ京都市デ東山ノ私立高等女學校長朝倉氏學校醫遠藤、塚本兩氏ト其ノ他ノ有志者ノ盡力ニヨリテ作ラレタ東山林間學校トイフノハ、場所モヨシ、組織モ可ナリヨク出來テ居ル、實際是等ハ林間學校ノ名ヲ冠スルケレドモ分類シテ見レバ、全フェリエンコロニー、又ハ半「フェリエンコロニー」デアツテ、眞ノ林間學校ハマダ白十字會ノダケデアル。

今、林間學校ニ就テ注意スベキ主要ノ點ヲ擧グレバ、

**第一**　ニ兒童ノ選定ト云フ事デアル、林間學校ナルモノハ今日ノ學校衛生學上學校兒童ノ衛生トイフ章ノ中デ學齡兒童ノ身體ノ發育及ビ其保護トイフ項ガアル其中第一ニ體育ニヨル身體發育ノ增進方法ト第二ニ身體ノ佳良ナル發育ヲ確實ニスル爲ニ豫防的ニ施ス特殊ノ養護法ト云フノガアツテ、此ノ第二ノ中ニ編入サルベキモノデアルベテ

林間學校ニ收容スル兒童ノ選定ハ此ノ方針デヤツテ行カナケレバナラヌ、從ツテ兒童ハ身體檢査ノ結果、第一ニ貧血性ノ兒童、第二ニ腺病性ノ兒童、第三ニ神經質ノ兒童、第四ニ心臟及肺ニ故障ノアルモノ等デアル、但シ其ノ心臟ニ故障ノアルモノト云フノハ、心臟ノ機能ガ代償サレテ居ルモノデアル、代償サレテ居ナイモノハ到底學校デ取リ扱フ事ノ出來ナイモノデアルガ、故障ハアツテモ代償サレテ居ルモノハ學校デ注意シテ扱ヘバ體ガ良クナツテユケル、今度ノ歐洲戰爭ニ於テ代償サレテキル心疾患ノ者ハ兵士トシテ用ヒ得ラレルト醫學者ガ云ツタト云フ事デアル、又、肺ニ故障ガアルト云フノハ肺病ノ初期デアルケレドモ、喀痰ニ結核菌ノ無イモノ、卽チ病毒ガ體外ニ漏レナイカラ傳染ノ虞ノ無イモノヲ指スノデアル（喀痰ニ病毒ノ出ル者ハ開放性結核デアツテ學校傳染病規則ニヨリ登校ヲ禁ゼラレル）

林間學校ニハ以上ノ如キモノヲ選定シテ收容スルナラバ必ズ效果ガ擧ガル、然ルニ健康者ヲモ交ヘ、マタ他ノ色々ノ病氣ノアルモノヲ交ヘテ收容スルトキハ、取扱ヒノ上ニ統一ヲ計ルコト難ク、從ツテ、或者ニ適シ或者ニハ適シナイトイフ事ニナリ易ク、效果ヲ檢スルニシテモ一齊ニ行カナイカラ折角ノ骨折モ目ニ見ユル結果ヲ得ナイ事ニナル、此ノ點ニ於テ日本ノ林間學校經營者ハ大ニ注意シテ貰ヒタイモノデアル。

**第二**　林間學校ハ今日ノ衞生的方法ノ下ニ、右ノ如キ體質ヲ持ツタ子供ヲ輕快セシメ、治癒セシメ、同時ニ學校教育ノ目的ヲモ達シヨウトスルノガ特色デアルカラ、ソノ爲メニ、最モ大切ナノハ規律デアル、總テヨク效果ノアル事業ヲ行フニハ、必ズ規律ヲ要スル事ハ、如何ナル場合ニモ認メラレル事デアルガ、林間學校ニ於テモ極メテ規律的ノ取扱ヲスル必要ガアル、世間ニヨクアルヤウニ、或ル病氣ニ罹ツタモノガ、何カノ信仰ニ基イテ或ル期間嚴格ニ規律的ノ行動ヲナシテ居ルト病氣ガヨクナル事ガアル、之レハ全ク合理的生活ヲ規律的ニ行フガ爲メデアル。

**第三**　林間學校ノ子供等ハ元來身體ニ故障ノアルモノデ、殊ニ滋養ニ富ンダ食物ヲ要スル體デアル、併シ學校ノ事ダカラ贅澤ナ美食ヲサセルワケニハ行カナイガ、滋養ニ富ンデ安價デ、子供ノ口ニ適スルヤウナモノヲ精選シ調理シテ食ハセル事ヲ考ヘネバナラヌ。從ツテ學校トシテ、食事ノ獻立ニハ常ニ深イ注意ヲ拂ハナケレバナラヌ。

**第四**　林間學校ハ土地モヨシ空氣モヨイ所ヲ選ンデ設ケルノデアルカラ、空氣ト日光トヲ十分ニ兒童ノ身體ニ作用サセネバナラヌ、皮膚ヲ丈夫ニシ、血液ノ循環ヲヨクスル爲メニ、沐浴ヲ行フ、カノ噴霧浴ナドハ輕便デアル。

**第五**　兒童ノ作業能力ヲヨク調査シテ、其ノ能力ニ對シテ適當ナ仕事ヲサセ、能力ニ超過シタ事ハサセナイヤウニ適切ニ計ツテ課スノガ原則デアル、學課、體操等總テノ作業ノ後ニハ必ズ開放シタ休憩、自由遊戲ヲ課スルヤウニシテ、此ノ兩者ヲ規則的ニ交代サセル凡テ作業ト休息トガ都合ヨク配當サレル事、之レガ林間學校ノ日課ノ上ニ最モ大切ナル方針デアル。

**第六**　林間學校ハ普通ノ學校ノ兒童中ヨリ選定シタ兒童ヲ收容シテ、輕快治癒シタ後ハ之ヲ元ノ學校ヘ送リ返スノデアルカラ、其ノ間ニ矢張リ授業ヲシテ、元ノ學校ノ元ノ學級ヘ歸ツテモ差支ノ無イヤウニシテヤラネバナラヌ、ソレデ、獨逸ニ於ケル狀況ヲ見ルニ各學級ニ於ケル授業時間ハ普通ノ學校ヨリ大ニ減ジテ居ルケレドモ其代リ一學級ノ兒童數ヲ殊更ニ減少シテ一級ヲ二十人ニ限リ、教師ガ各兒童ノ個性ニ對シテ十分ニ注意シテ授業スル事ガ出來ルヤウニシテ、毎週授業時間ノ合計ハ普通學校ニ比シテ遙カニ少ナイケレドモ其ノ教授ノ目的ハ達シテ居ル最下級卽チ一二年ハ毎日ノ學課ノ時間ガ二時間ニ制限サレ、上級デモ二時間半乃至三時間ニ制限シ、學科目ハ副科目ノ方ハ幾分減ジテアルケレドモ、主要ナル學科目ハ普通ノ學校ト同ジタ悉ク教ヘル事ニナツテ居ル。一時限ハ二十五分カ、長クトモ三十分位ニシテ、其ノ後ニハ必ズ同長ノ休憩ヲ伴フ。此休憩ヲ適當ニスレバ疲勞ハ十分恢復出來ルモノデアル。ソシテ授業ハナルタケ戶外ニ於テスル事ニナツテ居ル。林間學校ヲ始メテ設ケタ獨逸ニ於テハ矢張リ林間學校ト稱シテ居ルガ、適切ナ名稱トシテハ、外氣學校ト云フ方ガヨイト云ツテ居ル。內容カラ云ヘバ外氣學校又ハ新鮮空氣學校トモ稱スベキデ、米國デハ林間學校（ソーヒヤ・ヒユー）トモ云フケレド又外氣學校（オープン、エーア、スクール）ト云ツテ居ル。雨ガ降ルトカ雪ガ降ルトカスレバ教室デ教ヘルガ、ソノ場合ニモナルベク窓ヲ開放スル。唯非常ニ寒イ時ダケハ窓ヲ閉ヂテ室內ヲ暖メル事モアル。

Waldschule Open air school

コレマデ私ノ見タ日本ノ林間學校ノ或處デハ、教員ガ十分ニ林間學校ノ目的及方法ヲ理解セズ、兒童ノ取扱ガ當ヲ得ナイ爲メニ兒童ガ疲勞シテ居ルノヲ見タ。ヨク注意シテ運動ト休憩休息トヲ案配スレバ疲勞スル氣遣ハナイノデアルガ、カウイフ結果ヲ見ルノハ休息ノ不足カ、又ハ配當ガ惡イ爲メカデアル。

**第七**　林間學校ハ獨逸デハ一般ニ常設デアルガ通學制度ニナツテ居テ、寄宿制度ハ特殊ノモノ、外ハ採ツテ居ナイ。自治團體卽チ市ガ之ヲ設ケテ、市內各學校ノ兒童中カラ體ノ惡イモノヲ選拔シテ之ガ恢復ヲ計ラウトスルノデアルカラ、所在ヲナルベク通學ニ便利ナ所ニ定メテ居ル。始業ハ夏ハ八時其ノ他ハ九時デ、兒童ハ十五分前ニ登校スルモノトシテアル。總テ食事ハ學校デスルノデ、兒童ハ學校ヘ著イテカラ第一ノ朝食ヲスルノデアル。終業ハ大抵午後七時ニナツテ居ル。

**第八**　兒童ノ缺席ハ普通ノ場合ヨリ一層注意シテ、モシ病氣デ缺席スルヤウナ事ガアレバ、遲クトモソノ翌日ニハ病狀ヲ記シテ屆ケ出デサセル。學校醫ハ之ニヨツテ其ノ子供ノ狀態ヲ察スルノデアル。學校ハ空氣モ土地モ良イ所デアルカラ、日曜日ト雖モ平素ト同ジク登校サセル。仕組ガ面白ク出來テ居ルカラ子供ハ樂シンデヰル。子供ノ爲メニ面白イ作業モアルシ、遊戲モアルシ、園藝ナドモアリ、鳥ヲ飼フ所モ、砂遊ビモ、沐浴モアツテ、朝カラ晩マデ飽キル事ハナイ。

**第九**　食事ハ大事ナ事デアルカラ、學校デ獻立ヤ料理ヲシテ、一日ニ五回與ヘル事ニナツテ居ル。分量モ十分アツテ兒童ハ飽食スル事ガ出來ル。ソシテ常ニ獻立ニ變化ヲツケテ

子供ニ向クヤウニスル。獨逸ハ日本ヤ英國ナドトハ違ッテ、晝飯ガ主食事ニナッテ居ルカラ、晝飯ハ十二時半デアッテ肉ニ蔬菜、莢豆類、或ハ米ノ飯、或ハ又「マカロニ」ナドヲ添ヘテ食ハセル。日曜日ノ晝飯ハ殊ニ御馳走ガアッテ、燒肉ニ馬鈴薯及ビ「コンポット」(果物ヲ甘ク煮タモノデ、獨墺デハ食後ノツキモノ)等ヲ與ヘル。晝飯ノ外ハ「パン」ニ「バタ」ニ牛乳、殊ニ牛乳ハ質ノ良イノカ安ク得ラレルカラ澤山ニ供給スル。卽チ朝學校ニ來テ第一朝食デ「ソップ」ニ「パン」第二朝食(十時頃)牛乳ニ「パン」午後ハ牛乳ニ「パン」夕食ハ「ソップ」又ハ粉末菓子ト「バタ」「パン」等デアル。普通ノ學校ト違ッテ、晝飯ノ後ニ半時間位寢カセル。元來食事ノ後直ニ仕事ヲスルノハ消化ニ害アリ、腦ヲ働カセルニモ食物ガ胃ニ在ルノハヨクナイカラ、食事ノアトハ休息サセルノガヨイ。殊ニ主食ヲ晝食トスル所デハサウデアル。ソコデ林間學校デハ、天氣ノイヽ時ニハ林間デ簡單ナ安樂椅子ノ上ニ子供ヲ寢サセル。夏ハ毛布一枚、冬ハ三枚デ溫度ヲ保ツ。雨ノ降ル時ニハ屋根ノ下ニ寢サセルガ、ソコハ屋根ト後壁ガアルダケデ、其ノ他ハ總テ壁ヲ備ヘナイ設備デアル。之ヲ臥養館 Liegehalle ト云フ。

食物ニ關シテハ家庭ノ事情ヲ考ヘ一定ノ標準ニヨッテ費用ヲ徵收シテ居ル。ソレニハ調査機關ガアッテ家庭ノ狀況ヲ調査シ、貧富ノ度ニ應ジテ一日ノ食事代ヲ五片、十片、五十片ノ三樣ニワケテ徵收シテ居ル。最モ貧シイモノニ對シテハ無代價デアル。

**第十** 林間學校デハ日曜日ノ午後三時カラ五時迄ニ、兩親ガ訪問スル事ヲ歡迎シテ居ル。

**第十一** 林間學校ヘ兒童ヲ收容スル手續ハ、普通學校ノ學校醫、學校長及ビ擔任教師ガ認定シテ申シ込ムスルト林間學校ノ校醫ガ診察シテ採用スベキモノト見レバ、更ニ林間學校委員ト云フモノガアッテ之ヲ決定スル。缺員ガ出來タ際ニハ各學校ニ待ッテ居ル豫備兒童ガアッテ空席ヲ充ス事トナル。

**第十二** 此ノ林間學校ノ起原ハ一八八一年、伯林ノ醫科大學ノ教授デ有名ナ學校衞生學者バギンスキイトイフ人ノ創意ニナルモノデ、大シタ病氣デハ無イケレドモ、慢性ノ病氣ヲ持ッテ居ル兒童及ビ普通兒童ト同樣ニ授業ヲ受ケサセルニハ少シク不適當ダト云フヤウナ虛弱兒童ノ爲メニ此ノ林間學校ヲ設ケタラヨカラウ。ソシテ一方デハ保養ヲシナガラ、一方デ授業スルヤウニシタラ宜カラウト云フ事ヲ唱ヘタノデアル。其後暫ク實行ハ出來ナカッタガ、一九〇四年ニ、シヤロッテンブルグ市ノ學務課長ドクトル、ノイフエルト云フ人ガ此ノ思想ヲ實現シタ(同氏ハ一九〇六年ノ Gesunde Jugend 健康ナル少年誌上ニ其事ヲ書イテ居ル)ソレガ非常ニ良イトイフノデ獨逸ノ各地デ行ハレ、外國デハ、英ノロンドンガ直ニ之ヲ始メ、米國デモシヤロッテンブルグニ摸シテ實施シタノデアル。米國第一ノ學校ハ一九〇八年ニ設ケタロート島ノデアル。

**第十三** シヤロッテンブルグノ林間學校ノ效果ハ、教育上ニモ健康上ニモ非常ニ佳良デアッテ、兒童ノ體重ガ中々增加スル。身體ノ惡イ狀況ガ改善セラレル。貧血、筋肉薄弱等ガ無クナッテシマフ。腺病質ノ兒童ノ二〇、五%ハ全治スルシ、又肺「カタル」兒童ノ一〇%ガ完全

ニ治シタ。

凡テ虚弱ナル者ガ健全トナルナラバ結核豫防上ノ十ノ七八ノ目的ヲ達シタト云ヘル、卽チ林間學校ハ小學校結核豫防上極メテ重要ナモノト謂ハレル。

此ノ學校ニハ小學校ノ部ト中學校ノ部トアッテ、小學部ハ私ノ參觀シタ時ハ夏季デアッテ二百六十名ヲ收容シテ居タガ、其ノ他ノ季ニ於テハ八十名デアル、一學級ノ人員ハ二十名ト制限シテアル、開校ノ時期ハ毎年四月ノ初メカラ十二月二十四日迄デ、最寒ノ時間ハ閉ヂテ居ル、一九一一年ノ經費ハ、小中學校全部デ六萬四千五十四「マーク」デアル、授業食物等ヲ生徒ノ頭數ニ割當テルト一日五十三片餘トカ云フコトデアル。

**第十四**　林間學校ニ收容スルヲ要スル兒童數ハ、普通ノ學校兒童數ニ對シテ如何ナル比例ニナルカト云フニ、獨逸デハ一%以上アル、我ガ國デハ、高松氏市ノ手塚校醫ガ同市内ノ各學校ニ就テ精密ニ調査セラレタ所ニヨルト、同市デハ一―二―三―四%ハアルト云フ事デアル。

**第十五**　食物ヲ選ブ事ハ非常ニ肝要デアルガ、自分ノ考ヘル所デハ、滋養ニ富ンデ、安價デ、且ツ子供ノ嗜好ニ適スル物ハ地方ニ依ッテ違フカラ、ソノ土地デ用ヰ慣レタモノ、中カラ選定スルガヨイト思フ。高松市デハ、產業組合員ノ中ニ自家ニ乳牛ヲ飼フ人ガアッテ、牛乳一合二錢位デ提供スルカラ、之ヲ多ク用ヰテ居ル。落花生ノ如キハ滋養ニモ富ンデ居リ、兒童ノ好ムモノデアルカラ、之モ多ク用ヰル。サウイフ風ニ何カ其ノ土地ニヨッテ安價ナ滋養品ヲ選擇スルガヨイ。林間學校ハ空氣モヨシ、運動モ休養モ十分ニスル。カラ、食物モ多量ニ與ヘテ差支ナイノデアル。

**第十六**　日本デハ林間學校ヲ雜草ナドノアル十分ニ開拓セラレナイ所ニ設ケル事ガアルガ、コレデハ蚊ヤ其他ノ盤蟲ナドガ居テ、教授ニモ睡眠ニモ不快ヲ感ズルノガ多イカラ、サウイフ點ニハヨク注意セネバナラヌ。建物ハ簡單デ宜シイ、殊ニ夏季ダケナラバ簡單ナ設備デヨイ、總テ「バラック」トシテ、雨天運動場、食後ノ臥養館、臺所等ヲ設ケ、其ノ他空氣浴、日光浴、砂浴、溫湯浴場等ノ設備ヲ要スル。教員ハ兒童二十人ニ就テ一人位ノ割合ニスルガヨイガ、ナルベク人數ヲ少クシテ、林間學校ニ對スル理解ト熟練トヲ有スル人ヲ選ンダ方ガヨイ。濫リニ教師ヲ多クスルト、却ッテ船頭多クシテ船山ニ上ルノ弊ガアル。教員ノ外ニ學校醫ヲ置カネバナラヌ。獨逸デハ林間學校ノ校醫ハ一週二回出勤スル制度ニナッテ居ル。(普通ノ學校デハ二週ニ一回)期間ハ日本デハ今迄一二週間位ノ所モアッタガ、ナルベク夏ノ間ダケ全部開イタ方ガ結構デアル。授業復習等ノ課業ヲヤラセル事ハ夏ト雖モ差支ハナイ。

## 第二　「フェリエンコロニー」

「フェリエンコロニー」ハ、日本デモ夏休ミニ行フ所ガ隨分アル。東京デ最モ注意スベキ方法デ行ッタノハ、前記ノ精華學校ガ、群馬縣妙義山ノ山腹ニアル神社ヲ利用シテヤッタモノ

デ、其ノ時ニハ小兒科醫ノ小原賴之氏ガ關係シテ行ッタノデ、成績ハ餘程善カッタ。京都赤十字ガ天ノ橋立ニ設ケ、又大日本學校衞生協會ノ鎌倉ニ設ケタノモ夫デアル。外國ニハ多年行ハレテ居ル。其ノ目的ハ身體ノ弱イ子供ヲ集メテ、ソノ恢復ヲ計リ、心身ヲ爽快ナラシメル爲メニ田舍ノ空氣ノ良イ所ヘ送ルノデアル。出來ルダケ新鮮ナ空氣ノ中デ、十分ノ榮養物ヲ與ヘ、養護ニ努メルノデアル。コレハ、モト都會ノ人ガ田舍ノ親戚又ハ知人ノ然ルベキ家庭ヘソノ子供ヲ託シ、夏休中預カッテ貰ッタモノデ、コレガ起原トナッタノデアル。後ニ至ッテ所謂『閉鎖フェリエンコロニー』ト云フモノガ出來タ。閉鎖ト云ッタノハ兒童ヲ自由ニ解放シナイカラデアル。ソレハ一人ノ敎師ガ指揮者トナッテ、子供ヲ集メテ團體トシテ田舍ヘ連レテ行クノデアル。其場合ニハ廣イ寢室及ビ廣イ部屋ノアル一軒ノ家ヲ貸リテ住ミ込ムノデアル。歐洲デハ「フェリエンコロニー」協會ト云フモノガアッテ、私設ノ慈善會ナドガ主トナッテ實行シ、近所ニ大キイ森ノアル地方ヲ選ンデ行ク事ニナッテ居ル。近來田舍ノ寺院ヲ利用シテ滯在スル事モ起ッテ來テ居ル。

休暇中都會兒童ヲ田舍ニ送ルコトヲ最初ニ試ミタノハ丁抹ノコッペンハーゲン市デ、一八五三年ニ行ッタモノデアル。同市ノ學校兒童中ノ貧血ノ兒童ヲ主トシテ集メタノデアルガ、成績ガ良カッタノデ、其ノ四年後一八五七年ニハ七百ノ兒童ヲ送リ、一九〇六年ニハ一萬七千人ヲ送ッテ居ル。之ハ全市兒童數ノ三八%デアル。獨逸デハハンブルグ市ガ、一八七六年ニ初メテ子供ヲ田舍ヘ送ッテ居ル。一九〇六年ノ統計ニヨレバ同市カラ二千五百十人ノ兒童ヲ送ッテ居ル。近頃ノハ團體フェリエンコロニー」トナッタ。

閉鎖「フェリエンコロニー」ノ元祖ハシュワイツデ、一八七六年ニワルター、ビオンガ六十八名ノ兒童ヲ團體トシテ送ッタ。シュワイツカラ各地ニ擴マッタノデアルガ、最近一九〇九年ニシュワイツデハ八千百八十六人ノ兒童ヲ百十九ノ團體トシテ送ッテ居ル。ソシテ一人平均十八・四日トイフ日數ニナッテ、總經費ガ三十五萬九千九百七十一「フラン」デアル。獨逸デハ「フェリエンコロニー」ノ爲ニ後援團體ガ幾ツモ出來テ居テ、後援者ハ主ニ自治團體タル市デアル。一九〇六年ノ統計ニヨルト、一萬七千二十五名ノ兒童ガ出テ居ル。

「フェリエンコロニー」ニ送ル兒童ハドウシテ定メルカト云フニ、獨逸デハ第一ニ學校醫ガ身體檢査ヲシテ指定スル。林間學校ニ送ル兒童ヨリモ輕イモノヲ選ブノデアル。主ニ山地ノ大森林ノ近傍ニ送ルガ、モシ幸ニ海岸ニ適當ナ所ガアレバ海岸地ヘモ送ル。併シソレニハ、兒童ノ身體ヲ檢ベタ上ニ、山ニ適スルカ海ニ適スルカヲ定メルノデアル。

日本ハ山間ニ寺院ノ利用スベキモノ少カラザルヲ以テ此企ガ一層普及スルコトヲ望ム。

## 林間恢復所

ナホ獨逸ニハ林間恢復所ト云フノガアル。特ニ身體ノ弱イ子供ヲ、夏休ミ全體ヲ通ジテ恢復所ニ入レルノデアル。費用ハ極タ貧困ナモノニハ後援團カラ支出スルガ、保護者ガ相當ノ收入ヲ得テ居ルモノデアル時ニハ、ソノ全部又ハ一部ヲ返納セシメル。此處デモ矢張

リ滋養ニ富ンダ食物ヲ與ヘ、終日外氣中ニ居ラシメル特ニ注意シテ實行スル事ハ、潛在シテ居ル家、殊ニ寢室ハ、非常ニ規律正シクシ、且ツ清潔ヲ保チ、身體ハ入浴ニヨツテ常ニ清潔ヲ保ツ事デアル。カウイフ事ヲ毎日嚴重ニヤツテ居レバ身體ノ發育ヲヨクスル事ガ出來ルノデ、體量モ身長モ增加スル。併シ恢復所カラ都會ノ自宅ヘ歸ツタ子供ハ、生活狀態ガ急ニ變ルノデ、折角增加シタ體量ガマタ減ズルト云フヤウナ事モアル。

## 半フェリエンコロニー

現今日本ニ於テ普及シツヽアルモノハ多クハ是ニ當ルノデアル「フェリエンコロニー」ニハ隨分費用ガ掛カルノデ、外ニ一ツノ思ヒツキカラ、半「フェリエンコロニー」ト云フノガ設ケラレテ居ル。矢張リヤヽ不健康ナ兒童ヲ、全夏季デナク、夏季ノ半分ダケカ、或ハ全夏季ニ亙ツテ日中ダケヲ扱フト云フヤリ方デアル。コレハ、ライプチヒノ「シユレーベル、プエライン」トイフ協會ガヤツタノデアル。此ノ協會ハ、一九〇六年ニ二千四百四十九名ノ兒童ヲ郊外ヘ連レ出シタノデアル。伯林デハ醫師ベーヘルト云フ人ガ初メテ林間デ半「フェリエンコロニー」ヲヤツタ後、絕エズ發達シテ居ル。カウイフノガ費用ガ掛ラナクテ子供ノ健康ヲ增進スルコトガ出來ル。我國デ地方ノ都市デハ既ニ實行シテ居ル所モアル。之ヲ一層盛大ニシタイ。

「フェリエンコロニー」ハ、學校衞生ノ立場カラハ林間學校ト同ジ種類ニ屬スル特殊體育法ニ屬シテ居ル。シヤロッテンブルグアタリデハ、市カラ「フェリエンコロニー」ノ爲メニ一年二千「マーク」位ハ拂ツテ居ル。伯林デハ一九二〇年ノ統計デハ五千百五十二名ノ兒童ヲ送リ出シテ居ル。ソレガドウイフ風ニワケラレタカト云フト、全日「フェリエンコロニー」ニハ「ゾール」浴ヘ送ツタモノ、海水浴ヘ送ツタモノ、田舍ヘ送ツタモノ等ガアル。其他半「フェリエンコロニー」ヘ送ツタモノモアル。團體ノ數ハ百十八ニ分レ、費用ハ全體デ二十五萬三千百三十四「マーク」デアル。

都會ノ兒童ト村落ノ兒童トデハ大ニ生活狀態ヲ異ニシテ居テ、今日特ニ講究スル必要ノアルノハ都市ノ兒童デアルカラ、都市ノ行政及ビ敎育ノ局ニ當ル人、竝ニ特殊學校ノ後援會等ノ人々等ハ、大ニ此ノ點ニ盡力セラレタイモノデアル。

## 林間學校及「フェリエンコロニー」

### (一) シヤロッテンブルグ市立林間學校規定

一、本校ノ目的トスル所ハ(第一)ニ貧血性、線病性、神經質、心及肺疾患兒童ノ輕快治療等ノ衞生上ノ企圖ニ在リ而シテ之ガ爲ニハ規律的ナル生活法、單純ナレドモ滋養アル食物、新鮮且純淨ナル森林空氣、十分ナル日光力、噴撒浴、作業能力ニ對スル作業ノ完全ナル適應、作業ト遊戲トノ規則的交換、休息及運動等ノ諸項ヲ應用ス、而シテ一週ニ少クトモ二回ハ一醫師ノ登校アルモノトス、(第二)ニ敎育上ニ對シテ林間學校ハ兒童ガ恢復後再ビ普通ノ市立學校ニ復歸スルモ同校ニ於テ嘗テ同級生ナリシ兒童ニ比シテ學力ニ差別ナキヤウ敎育スルコトヲ目的トス。健康ヲ障碍スルコトナクシテ此目的ヲ達センガ爲ニ林間學校ハ次ノ方針ニヨツテ兒童ノ敎育ニ努力ス。

各級每週ノ授業時間ハ著シク輕減スレドモ一方ニハ一級ノ兒童數ヲ減少シテ敎師ハ入念ニ授業シ以テ授業時間催少ニヨリ生ズル缺點ヲ補充スル主意ナリ、下級ニ於テハ每日學科ノ授業ハ二時間上級ニ

## 小學校ノ結核豫防

於テハ二時半乃至三時間ニ過ギズ而シテ各科就中副科ハ幾分カ短縮スレドモ普通市立小學校ニ於ケル主要學科目ハ悉ク之ヲ教授スルナリ各級ノ兒童數ハ平均二十名ニ限レリ、之ガ爲ニ教員ハ能ク各個兒童ニ對シ十分ニ教授スルコトヲ得ベシ、學科ノ授業ハ三十分間ノ講義トシ其次ニハ必ズ五分間ノ休憩ヲ與フ、而シテ次ノ三十分ノ後ニハ十分間ノ休憩ヲ與ヘ、因是兒童ヲシテ疲勞ヲ恢復セシム、授業ハ可成外氣中ニ於テ若シ降雨アレバ開放セル教室ニテナス。

此方針ニヨリテ林間學校ノ兒童ハ普通學校ノ兒童ニ同ジキ教育成績ヲ達シ來レリ。

二、本校ニ收容スル兒童ハ悉クシヤロ、テンブルグ市市立小學校ヨリ前記ノ體質條件アルモノヲ採用ス其他ヨリ採用スルコトナシ、而シテ此收容ハ學校醫、校長及學級擔當教員ノ申込アルトキハ林間學校ノ校醫診察ヲ經テ學校委員ニヨリ決定セラル、收容兒席ニ空席ヲ生ジタル場合ニハ普通小學校ニ於テ林間學校ニ送ルベキ必要アル者ト認

第五圖

林間學校ハ「パラツタ」式ナリ圖ニ向ツテ入口ノ左方ニ校主長ノ室、右方ニハ教室アリ、著者參觀時ニハ冬期ナリシガ故授業中窓ヲ閉ヲ單簡ナル石炭暖爐ニテ暖室シ居タリ入口ニ立テルハ校長其左方ハ女教員ニシテ當時著者ヲ案内説明セリ



メタル豫備兒ヲ以テ補缺ス。

三、始業及終業、夏ハ午前八時冬ハ九時ニ始ム、兒童ハ遲クトモ始業前十五分マデニ學校ニ達スベシ、而シテ授業前ニ第一朝其ヲナシ得ベカラシム、必ズ遲刻スベカラズ、學校近隣ニ住居スル者ハ歩行シテ登校スベシ、其他ノ者ハ市街鐵道ヲ利用ス發車時刻其他乘車ノ注意事項ハ教員及兩親兩方ヨリ之ヲ兒童ニ知ラシムベシ。

夕刻ハ兒童ハ大凡ソ七時ニ退校ス。

四、兒童若シ疾病ノ爲ニ學校ヲ缺席スル場合ニハ必ズ遲クトモ次日ニ教員又ハ校長宛ニ之ヲ屆出ヅベシ、學校醫ハ其何病ニ罹リシヤヲ知ルコトヲ緊要トスルガ故ニ缺席屆ニハ常ニ其疾病ノ種類ヲ記載スベシ。

日曜日ト雖ドモ兒童ハ林間學校ニ登ルベシ、蓋シ林間滯在ハ治療ノ效アルヲ以テ可能的之ヲ利用スベキ主旨ナレバナリ。

五、乘車割引券、王國鐵道廳ハ林間學校兒童ニエストエント、ヘーア町トシヤロ、テンブルグ市ヘーア町間ノ區域ニ對シ特別月券ヲ二、二〇馬克約一圓五錢即チ普通券ヨリ一、三五馬克ヲ割引シタルモノ

第六圖

林間ニテ植物學ノ授業中ナリ

林間學校及「フ、リエンコロニー」

ヲ與フ、而シテ本券ハ唯林間學校長ヨリ之ヲ求メ得ベシ、其他ノ乘車券ハ兩親ヨリ與フベシ。

六、兒童ハ常ニ清潔ナル衣服ヲ纏フベシ、手巾ハ清潔ナラザルベカラズ、履ハ綺麗ニ磨キタル者ヲ履クベシ。

第七圖

兒童ハ午食後必ズ睡眠ス夏期ハ主トシテ林間外氣中ニテ如圖寢椅子上ニ毛布一枚ニテ、冬期ハ屋根ト後壁トノミナル風室ニテ毛布三枚ヲ與ヘテ睡眠セシム、時間ハ約三十分ナリ

第八圖

空氣浴

七、兒童ハ毎日五回學校ニ於テ食事ス、十分ナル分量ヲ給シ之ニヨリテ兒童ハ飽食スルコトヲ得ベシ、又食



物ハ可成變換ス、主食時ニハ肉ニ蕊菜又ハ有莢果又ハ米飯又ハ濃飩(マカロニー)其他ヲ添給ス、日曜日ニハ燒肉ニ馬鈴薯及甘煮果實ヲ供ス、其他ノ食時ニハ十分ニ牛乳ヲ與フ之レ榮養狀態ヲ良好ナラシムルニ必要ナレバナリ。

八、市教育課ハ林間學校兒童ノ兩親ニ對シ學校ニ於テ給與スル食事ニ對シ代價ノ支拂ヲ求ム、其額ニツキテハ市ハ兩親ノ家計ヲ調査シテ決定ス而シテ唯特別ノ事情アル者ニ限リテ之ヲ免除ス。

右ノ支拂ハ毎週月曜日ニ於テス、之ニ對シ受取證ヲ渡ス。

九、學校訪問時刻、兒童ノ親族ハ日曜日午後三時ヨリ五時ノ間ニ學校ヲ訪問スベシ。

學校ト家庭間ノ連絡ヲ良好ニシ兒童ノ教育ヲ完全ニナサンガ爲ニ教員ハ喜ンデ兩親ノ希望又ハ報告ヲ聞キ及ビ兒童ニ關シ兩親ニ注意ヲ與フベシ。

右ハシャロッテンブルグ市立林間小學校規定ノ大要ナリ余ハ一九一三年十一月中旬之ヲ參觀シタリ同所ニハ此外尙ホ中學程度ノ林間學校モアリ此林間小學校ニ於テハ「オステルン」(復活祭年ニヨリ變ズルモ四月ノ初)ヨリ十月迄ハ十三學級二百六十名ノ兒童ヲ收容シ冬期即チ十月ヨリ「ワイナハト」(十二月二十四日迄)ハ五學級八十名ノ兒童ヲ收容ス、其間ノ時期ニハ本校兒童ハシャロッテンブルグ市市立小學校ニ復歸スルナリ。

授業ハ夏期ハ全ク林間ニ於テ行フ冬期ハ暖室裝置(石炭「ストーブ」アル室内ニテ行フ、學科ノ授業ハ午前中トス、唱歌及體操ハ午後トス、又圖畫ト裁縫トハ夏期ノミ之ヲ教フ、兒童ハ前掲ノ規定ニ從ヒ朝ハ午前七時四十五分迄ニ昇校ス、退校ハ夕七時ナレドモ冬期ハ幾分カ之ヲ早ム。

著者ハ學校ノ齎所ヲ見タルガ單簡ナルモノナリキ、食事ハ一日五回ナリ、午前中第一回食事トシテ「カトオ」

林間學校及「フリエンコロニー」

ニ牛乳第二回ニ「パタ、パン」ニ牛乳、午食ニハ肉ト蔬菜、午後四時ニ牛乳ニ「ジヤム」、五時ニ御つゆニ「パタ、パン」合計五回ナリ日曜ノ午食ハ少々御馳走アリト云フ。

前掲規定ノ如ク此食事ニ對シ兒童ノ保護者ハ一定ノ費用ヲ支拂ハザル可カラズ、現在幾何ナリヤト云フニソハ保護者ノ社會上ノ地位貧富ノ程度ニヨル、即チ一日ノ食事代ハ一名五「ペンニヒ」、十「ペンニヒ」及五十「ペンニヒ」ノ三階級アリ極貧者ハ無代價ナリ、而シテ本校ニテ五十「ペンニヒ」ヲ支拂フ者ハ極メテ稀ナリト云ヘリ、「一「ペンニヒ」ハ、吾ガ四厘八毛」

夏期一日ニ要スル食物中ノ主ナルモノハ「パン」(「ハウスブロート」ニシテ圓形、直徑六七寸厚サ三寸位)四十箇、牛乳三百六十「リートル」、「バタ」十五斤乃至十六斤ナリ。

## (二) 京都東山林間學校開催趣意

東山林間學校

### 林間學校開催趣意

本市尋常小學校兒童身體檢査ノ成績ヲ閲スルニ明治四十三年以來年々平均約二千四百人ノ薄弱兒アリ此薄弱兒ヲ自然ニ放任セハ結核其他ノ重症ニ罹リ或ハ終生社會ニ活動スル能ハザル虚弱者ト爲ル者蓋シ鮮少ナラザル可シ是レ獨リ本人ノ不幸ノミナラズ實ニ本市繁榮ノ一大障碍ナリ此ニ於テカ歐米先進國ハ林間學校海濱保養院ヲ常設シ或ハ夏期休養園ノ催シアリ以テ其保護恢復ヲ圖ラザルナシ我ガ天橋立海濱保養所大閣坦ノ林間學校ハ夏期休養園ニ屬スル者ナリ其成績ノ良好ナルハ既ニ世間ニ了解セラルヽヲ以テ今更之ヲ辨ズルヲ要セズ今年復タ大閣坦ノ好山林ヲ利用シ前兩年ノ施設ヲ改良シ別記實施要項ニ從ヒ薄弱兒ノ救濟ヲ圖リ以テ本市繁榮ノ萬一ニ資セントス。

前兩年ノ如ク施設費ノ大部分ヲ有志ノ寄附ニ仰メバ開催頗ル困難ナルヲ以テ本年ハ之ヲ會員組織ト爲シ廣ク特志家ノ入會ヲ懇請シ左ノ規約ニ據リ豫ノ施設費ヲ貯蓄セントス

大方ノ諒彦冀クバ吾人微衷ノ在ル所ヲ諒察セラレ本市ノ爲ニ此舉ヲ贊助セラレンコトヲ

大正七年三月　發起人

京都高等女學校校長　朝倉曉瑞　京都市尋常小學校校醫　遠藤大太郎

京都高等女學校監事　田淵只一　京都市有隣尋常小學校校醫　塚本瓶子郎

京都幼稚園長　岩井榮之助

### 京都東山林間學校規則

○實施要項

場所　東山豐國廟下大閣坦深林及妙法院積翠園

期間　八月三日ヨリ同二十二日マデ三週間毎日午前八時ヨリ午後五時マデ

收容人員　本市尋常小學校兒童五、六學年薄弱者男女合計百名

食事　晝食及ビ午前午後一回ヅヽ間食ヲ給ス但シ實費トシテ一日金弗拾錢ヲ徵ス

安靜又ハ睡眠　晝食後一時間隨意安靜又ハ睡眠セシム

入浴　午後一回入浴セシム

娯樂　着樂。談話。珈琲。落語。手品。蓄音機

林間學校及「フェリエンコロニー」

運動　職員引率適度ノ遠足ヲ爲シ。又一定ノ區域内ニテ隨意散歩セシム。體操。遊戯。冷水摩擦深呼吸ヲ爲サシム。「ピンポン」。「テニス」。棍棒。リンズ」。半輪。其他運動遊戯器ヲ備フ

復習　毎日適當ノ時刻ニ學科ノ復習ヲ爲サシメ又日誌ヲ記載セシム

飲食　主食ヲ米飯トシ新鮮ノ副食物ヲ與フ。調理及獻立ハ衛生ヲ旨トシ係員之ヲ檢査ス。飲料及ビ間食モ衛生上ニ適スル者ヲ選定ス。食後ハ必ズ含嗽セシム

救護　毎日學校醫及看護婦出張シ救護ニ從事ス。救急藥

第九圖

**小學校ノ結核豫防**

品ヲ備ヘ臨時用ニ供ス。更ニ衛生係ヲ置キ常ニ注意ヲ爲サシム

第十圖

**身體檢査** 第一週第二週ハ其初日第三週間ハ始終兩日ニ於テ身體ヲ檢査シ體重ヲ測定シ其成績ヲ父兄ニ報告ス



第十一圖

○顧問

醫學博士　石原喜久太郎

林間學校及「フォリエンコロニー」

醫學博士　笠原道夫

○職員

校長　京都高等女學校校長　朝倉曉瑞

主監　同校監事　田淵只一

監督　岩井榮之助

教員　若干

學校醫　遠藤大太郎

學校醫　塚本瓶子郎

○申込

申込者ハ住所保護者氏名、兒童氏名、生年月日、學年、所屬學校名、電話番號、既往症アル者ハ之ヲ記入シ學校長ヲ經テ七月三十一日マテニ東山京都高等女學校內榊倉校長ニ宛テ差出サルベシ

但シ所屬校身體檢査ニ薄弱ト判定ヲ得タル者ニ限ル

○生徒心得

毎日午前八時十分前ニ東山妙法院裏私立京都高等女學校ニ集合スベシ

帽子、洋傘、落紙、手拭又ハタオルヲ持參スベシ

金錢又ハ紛失シ易キモノハ携帶セザルコト

飲食物ヲ持參ス可ラズ

言語動作ヲ愼ミ朋友相親ムベシ

病氣負傷其他身體ニ異常アル時ハ直ニ衛生係ニ申出ヅベシ

其他總テ監督及教員ノ指揮ニ從フベシ

## 第一章　目的

第一條　本校ハ京都市小學校ノ薄弱兒ヲ養護シ體質ノ改善ヲ圖ルヲ目的トス

## 第二章　位置

第二條　本校ハ事務所ヲ私立京都高等女學校ニ置キ教室及運動遊戯場ヲ大圓坦ノ林間ニ設ク

## 第三章　開期

第三條　本校ハ八月三日ヨリ二十二日マデ三週間開設シ毎日午前八時ヨリ午後五時マデトス

## 第四章　收容兒

第四條　本校ニ收容スベキ兒童ハ男五十名女五十名トシ各部常小學校五、六年生ヲ限ル

第五條　收容兒ノ資格ハ所屬小學校身體檢査ニ於テ體格薄弱ノ判定ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スル者トス

一、線病質　二、胸廓及呼吸器ノ發育不完全ナル者　三、貧血

四、榮養不良　五、病後衰弱者　六、慢性消化器病アル者

第六條　收容サレタル兒童ハ一日金貳拾錢ヲ食費トシテ納ムル者トス

第七條　收容サレタル兒童ハ別ニ規定セル兒童心得ヲ遵守スベシ

## 第五章　役員

第八條　本校ニ左ノ役員ヲ置ク



校長一名　主監一名　監督一名

教員若干名　學校醫二名　評議員若干名

第九條　校長ハ本校ヲ總理シ主監監督ハ之ヲ輔佐シテ一切ノ校務ニ從事シ評議員ハ校長發スル議案ヲ審議ス

第十條　教員ハ兒童ヲ指揮シ所定ノ事項ヲ實行シ學校醫ハ身體檢査、治療及其他ノ衛生事務ニ從事ス

## 第六章　實施事項

第十一條　本校ニ於テ實行スル要項ハ左ノ如シ

一、衛生上監督ノ下ニ晝食及午前午後各一回ヅヽ間食ヲ給ス

二、晝食後一時間隨意ニ安臥又ハ睡眠セシム

三、毎日午後三時後ニ於テ温浴セシム

四、音樂、談話、お伽噺、落語、手品、蓄音機等ノ娯樂ヲ爲サシム

五、毎日相當ノ時刻ニ學科ノ復習ヲ爲サシメ或ハ日誌ヲ記セシム

六、教員引率遠度ノ遠足ヲ爲サシメ又一定ノ區域内ニ隨意散歩セシメ其他林間清氣ノ下ニ體操、遊戯、冷水摩擦、深呼吸ヲ行ハシメ或ハ「ピンポン」、「テニス」、根梅等運動器械ヲ使用シテ適度ノ運動ヲ爲サシム

七、飲食物ハ衛生上ノ監督ヲ嚴重ニシ淡菜新鮮ノ物品ヲ選ビ食後ハ必ズ含嗽セシム

八、臨時ノ用ニ供スル爲救急藥及繃帶材料ヲ備ヘ毎日學校醫及看護婦出張シ救護ニ從事ス



九、三週間ニ四回身體檢査ヲ行ヒ其成績ヲ父兄ニ報告スコト

十、規律ヲ嚴重ニシ作業ヲ短時間ニ轉換シ兒童ノ疲勞ヲ防グコト

## 第七章　經費

第十二條　本校ノ經費ハ篤志家ノ贊助金ヲ貯蓄シタルヲ主トシ有志者ノ寄附及兒童ヨリ徵收シタル者ヲ以テ之ヲ補フ

第十三條　贊助及寄附金等ハ會計主任監督ノ下ニ凡テ銀行ニ預ケ置ク者トス

第十四條　經費ニ殘額ヲ生ジタル時ハ次年ニ繰越スモノトス

## 第八章　雜件

第十五條　本則所定外ニ臨時重要ノ事件發生シタル時ハ役員會ニテ之ヲ議定シ處理スルコトヲ得

## (三)　白十字會林間學校案内

林間學校トハドンナモノカ　林間學校ハ即チ體質虛弱ナル兒童ノ友ニシテ、普通ノ小學校ニ於テ健康兒童ト一緒ニ教育スルトキハ、心身倍々疲憊シテ終ニ恢復スベカラザル病氣ニ陷ルベキ虞アル體質虛弱ノ兒童ヲ收容シテ、專ラ其健康ノ增進ヲ圖リ、併セテ國民教育ヲ施サントスルモノニテ、人口稠密ナル大都市ニハ此種ノ兒童多キヲ以テ、其必要ニ應ジテ生レ出タタル特別ノ學校ナリ。

本會ノ林間學校　林間學校ノ制度ニ通學、寄宿ノ二種アリ。獨英等ニテハ通學制多ク、佛國ニテハ重ニ寄宿制ヲ採用セリ。大都市ノ近郊ニ校舍ノ敷地トナスベキ適當ノ森林又ハ海濱アレバ通學制ノ方簡便ナレドモ、不幸ニシテ東京附近ニハ好適ノ場所ナキヲ以テ已ムヲ得ズ、稍隔リタル相州茅ヶ崎海岸ノ松林地ヲトシ、校舍ヲ建設シ並ニ寄宿制ヲ採用スルコトトセリ。

建物校舍、寄宿舍及ビ病室　寄宿舍ハ一棟ヲ四室ニ畫シ、其一室ニ寮母ヲ置キ、他ノ三室ニ生徒ヲ收容ス。室内ニハ寢具ト衣服ヲ藏スル押入アルノミニテ、他ノ品物ハ一切室内ニ留ムルコトナク、專ラ清潔ヲ主トス。室外ニ幅一間長九間ノ廊下アリテ簡易ナル寢臺ヲ備ヘ生徒ノ午睡又ハ休息ニ充ツ、又日光浴ヲ取ルニ便ナラシムルタメ南及ビ南東ノ方位ニ向ツテ建テタリ。

寮母　寮母ハ家庭ノ母ニ代リテ生徒ノ世話ヲナシ授業時間以外ハ全部寮母ニ擔當セシメ最善ノ保護ヲナサシム。

食堂ト獻立　食堂ニハ衛生ニ適スル調理ノ心得アル人ヲ置キ校醫ト相謀シテ毎週ノ獻立ヲ定メ三度ノ食事以外ニ間食ノ菓子ヲモ調製セシメ坊間ノ食物ハ成ベク之ヲ避ケシム。

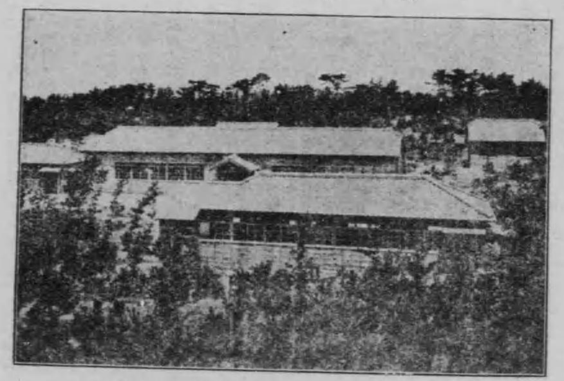
顧問　醫學博士石原喜久太郎氏ヲ顧問トス林間學校大半ノ責任者ハ醫師ニシテ其他主任ノ小兒科醫ヲシテ常ニ健康診斷ヲ行ハシメ、疾病ヲ未然ニ防ゲヲ努ム。若シ不幸發病シタルトキハ之ヲ病室ニ移シテ靜養治療ニ遺憾ナキヲ期スベシ。

病室ハ別ニ一棟ヲ設ケテ四室ニ別チ、熟練ナル看護婦ヲ置キテ看護ノ任ニ當ラシム。

校長ト教師、授業ノ方法



第十二圖



林間學校全景

白十字會林間學校ハ相州茅ヶ崎小和田ノ海岸ニテ、通称松林村ト云フ松林地ノ小高キ所ニアリ、南ハ海ニ面シ、北ニ山ヲ負ヒ、海岸ヨリ約五六町ノ距離ナリ。

東京驛ヨリノ旅程凡ソ一時間半。茅ヶ崎驛下車約三十町、人車ヲ傾トス。徒歩ナレバ辻堂驛下車ヲ便トス、其道程約十五町餘。

中央本館建坪百十六坪五合、教室、遊戯室、會堂等悉ク本館内ニアリ、島田甚太郎君ノ寄附ニ成ル。

寄宿舍三棟。一棟ノ建坪二十六坪五合。寮生十二名ヲ容ル。飯田義一君吉村鐵之助君各一棟ヲ寄附セラル。

病室。一棟。建坪十七坪。花ノ目會ノ寄附ニ成ル。其他ノ附帯舍及ビ内部ノ設備悉ク同情者ノ寄附ニ成レリ。

校長ハ江原素六氏ニシテ教育ハ校長自ラ終身ノ大要ヲ講話シ一般ノ授業ハ多年小學教育ニ經驗アル講導之ヲ擔當ス。學課ハ普通小學校ト同一ナレドモ、一週十九時間ヲ限度トシ、授業ノ間ニ休憩時間ヲ設ケ生徒ノ心身ヲ疲勞セシメザルヤウ注意シ又花卉ノ培養、家禽ノ飼育等兒童ニ興味アル實物教育ヲ施スコトトセリ。

入學及退學　在校期ハ一定セズ、生徒ノ健康狀態恢復シテ普通小學校ノ授業ヲ受クルニ耐フル程度ニ達スルヲ期トス。但三ヶ月以内ノ入校ハ之ヲ許サズ蓋シ三ヶ月以内ニテハ效果ヲ擧ゲルコトハ難ケレバナリ。

入學兒童ハ滿六歳以上十三歳未滿ノ男女ニシテ尋常小學第一學年乃至第六學年トス。

志望者ハ本會ニ來リテ診斷ヲ受ケ、入學ニ適當ト認メタルモノハ、其保護者ト東京又ハ横濱市ニ住スル身元確實ナル保證人ト連名ノ入學證ニ入學金貳圓ト一ヶ月分ノ學費トヲ添ヘテ本會ニ納附スベシ。

學費其他ノ費用　學費ハ一ヶ月金十八圓ニシテ、食費、文房具費、寄宿舍費等在校中ノ諸費用一切ノ支拂ニ充ツ但藥劑、施術料ハ別ニ徵收スルコトアルベシ。

保護者ハ入學ノ際新調又ハ洗濯シタル時服帶、足袋、腹卷、襁褓、手拭等ヲ含ム)ヲ携帶セシムベシ。在校中ハ食物其他ノ物品ヲ直接兒童ニ送附スルヲ許サズ若シ送附セントスル人ハ之ヲ學校ニ寄贈シ其處置ニ一任スベシ。

生徒ヲ訪問スル時　保護者其他兒童ニ緣故ノ人ノ兒童ヲ訪問スルハ自由ナレドモ必ズ寮母ノ承諾ヲ受クベシ但肺結核其他傳染性ノ病氣アル人ハ來校ヲ謝絶スルコトアルベシ。

# 第九章　低能兒童及補助學校

## 第一項　補助學校問題

本邦ノ國民教育上低能兒教育ノ必要ヲ首唱セルハ森岡常藏氏次デ乙竹岩造氏ナリ、而シテ本邦ノ現狀トシテハ單ニ試驗的ニ一二特別學級ヲ設ケタル所アルニ止マレルハ慨歎ニ堪ヘザル所ナリ

今日ニ至リテハ文明國ノ學校當生上補助學校ニ關スル事務ハ學校醫タル者ノ職務上ノ一主要部ヲ構成スルモノトナリ學校醫ハ此方面ニ對シテモ亦國家教育ノ爲ニ多大ノ貢獻ヲナシツヽアリ又最近ノ學校當生學トシテ低能兒ニ關スル事項ハ既ニ其重要ナル一章ヲナスニ至リシニモ拘ハラズ本邦ニ於テハ教育上ハ固ヨリ又學校當生上ヨリモ未ダ此方面ノ施設ヲ勸奬セルヲ聞カズ是レ大正三年第一回文部省學校當生講習科ノ開催セラルヽニ當リ余ハ當局ニ建言シテ其教課程ノ編成ニ當リ低能兒ニ關スル科目ヲ加ヘ斯學ノ專門家ノ分擔講義ヲ乞フニ至リシ所以ナリトス

國家教育ノ奏效ハ個人心身ノ狀態ニ應ジテ適當ナル教養ヲ施スニアリ然リト雖ドモ兒童ノ多數ハ普通者ナルガ故ニ實際上ニハ各個體各別ノ取扱ヲナスノ要ナク其一定範圍ノ者ヲ類別シ各適スル所ヲ選ミテ效果アル教養ヲ行フニアリ本邦ニ於テハ最極端ナル聾啞若クハ盲教育ノホカニハ未ダ此主義ノ實施ノ發達ヲ見ザルナリ隨テ國民教育ニ於テモ低能兒學校ハ固ヨリ吃唖ノ矯正、重聽學校矯正體操ヨリ林間學校等一般ノ治療教育、特殊體育等ガ發達セザルナリ

補助學校ノ由來

本邦國民教育上近時低能兒問題漸時注意セラルヽニ至リ學科成績ノ不良ナル者ニ就キ檢査スルニ往々近視又ハ重聽ナルガ爲ニ成績不良ナル者アリ、是等ハ身體檢査ノ不徹底並ニ教員ノ學校當生上ノ注意缺乏ノ結果ニシテ眞正低能兒ニハ非ズ、而シテ本邦專門學者ノ說ニヨレバ在學兒童中ノ低能兒ハ約一乃至一・五%ナラムト云フ。

抑、低能兒學級ノ主唱者ハライプチヒ市ノステッツナー氏ニシテ千八百六十四年ナリトス而シテ氏ノ計畫ニ基ヅキドレースデンノ教員ストイエル氏ハ市學校當局ニ建議シテ一八六七年同市ニ初メテ一學級ヲ創設セリ余ガ在歐中同校ヲ訪ヒシ時校長ハ同學級ノ創立ハ實ニ一八六七年十一月十六日ニシテ是レ公立低能兒學校ノ嚆矢ナリ當時十六名ノ兒童ヲ以テ始業シタリト、其後年ト共ニ進歩シ一九〇七年ニハ初メテ更ニ一豫備級ヲ設ケ又二學級ノ補習學校ヲモ加フルニ至レリ余ノ參觀當時ニハ補習科生徒三十四名ヲ算セリ如此本校ハ最古ノ歷史ヲ有スルヲ以テ英米ヨリノ來觀者ヲ絕タズト誇リ居タリ

(一、說ニハ第一ハハルレ市(一八六五年)ニシテ翌年ドレースデンニ二學校設立之ニ亞グト云フ)其後各地ニ增設ヲ見、初メハ國民又ハ市民學校內ニ副。又ハ補助學級トシテ施設シ後更ニ獨立ノ學校ノ建設ヲ見ルニ至レリ千八百九十四年ノ頃ニハ全獨逸國ニ三十個ノ學

校ヲ算シ百十學級二千二百九十名ノ收容兒童百十五名ノ教員ヲ算セシガ千九百十二年ニ至リテ二百八十五市町村ニ千六百九十九學級ノ設置三萬九千二百六名ノ收容兒ヲ有スルニ至レリ獨逸ノ統計ニヨレバ人口八百ニツキ一名學齡兒百名ニツキ一乃至一・五%ノ比ナリト云フ平均數ハ如斯ナレトモ土地ニヨリテ又多少ノ增減ナキニアラズ例ヘバ一九一〇年ハンノーバー市ノ統計ニヨレバ同市國民學校兒童總數(補助學校兒童共)

三二五〇九名　內　男　一六七二八　女　一五七八一

右ノ內低能兒八百十四名ナリ卽チ兒童總數ノ二・五%ニ相當ス內男三九二(二・三四%)女四二二(二・六八%)ナリ本邦未ダ統計ヲ有セザレドモ前記專門家ノ說ニヨルニ其數略ぼ似タルモノアラン

低能兒ヲ收容教育スル學校ハ之ヲ補助學校ト稱シ公立小學校卽チ義務教育兒童中精神的低能ナルモ同時ニ教育シ得ベキ者ヲ收容スル公立學校ヲ云フ(其重クシテ教育不可能ナル者ハ之ヲ白癡院ニ送ル)是等ノ兒童ハ普通ノ小學校ニ於テ教育スルモ其能力ニ適セザルガ爲ニ其目的ヲ達セズ反之補助學校ノ教育ニ委スル時ハ彼等ノ能力ヲ尙ホヨク發達シ得ルモノナリ依是彼等低格者ニヨル社會ノ安寧秩序ノ障碍ヲ豫防シ又彼等自身ヲシテ可能的自活ノ途ニ就カシメ得ルモノトス千九百六年獨逸ニ於ケル調査ニヨレバ補助學校ヲ了リタルモノ、七十五%ハ其生活上相當ノ職ニ從事シ得其十五%モ亦略ぼ同樣ノ好果ヲ得タリ唯殘餘ノ十%ハ或ハ奏效不十分又ハ毫モ自活ノ職途ヲ得難キ者ナリシト而シテ補助學校收容ハ義務的ナルアリ又非强制的ナルアリ土地ニヨリテ異レリ一般ニ教科程標準ハ普通小學ノ中級ニヨルヲ通例トス。

補助學校補習教育　余ガ見タル所ニヨレバ補助學校ヲ了ヘタル兒童ノ爲ニ更ニ補習教育ヲ開始シタルハ一九〇四年ブレスラウ市ナラン同市ハ之ヲ以テ誇トセリ其後各都市ニモ又之ヲ見ルニ至レリ一九一三年ニハブレスラウ市ハ既ニ十二箇ノ職業的補習學校ヲ有セリ又一九〇八年以來補助學校ヲ了ヘタル女生徒ニ對シテ家事學校ヲ開始シ是亦三校ヲ有ス一九一三年同市ニ獨逸全國學校衞生協會開催ノ時同市ハ是等ノ施設ヲ立テ低能兒教育上一新紀元ヲ劃ストシテ誇レリ。

一八九八年ハンノーヴァー市學務課長王國學務委員ドクトルウェーアハーン氏司會ノ下ニ同市ニ於テ全獨逸補助學校協會組織セラレタリ一九一四年ニハ一千九百名ノ會員ヲ算スルニ至レリ本會ハ低能兒ノ教育及教授ノ完成補助學校ノ發達社會生活ニ於ケル補助學校兒童ノ保護援助ノ促進等ヲ目的トナスモノナリ又機關トシテハルレ市マルボルトヨリ雜誌「補助學校」ヲ發行ス。

## 第二項　補助學校同學級兒童收容規程

各地多少ノ相違アレドモ大體ニ於テハ同主旨ノモノナリト信ズ墺國メーレン州ブリィン市ニハ同國知名ノ學校醫ドクトルコカール氏アリ其熱心ナル努力ニヨリテ同市ノ學

校衛生ハ特ニ進歩セルモノニシテ墺國中ノ一模範タリ、余ハ茲ニ之ヨリ得タル同市補助學校規程ヲ掲ゲテ曾遊ノ回想トス、本規程ハ一九〇七年十二月二十一日帝王國メーレン州學校委員會ノ發布セルモノナリ。依是一面ニハ低能兒ノ診斷及ビ學校收容ノ慎重ヲ要スベキ點モ推知スベキナリ。

第一條　補助學校(同學級)ハ唯教育可能ノ低能者ノミノ爲ニ設ク。

教育可能ノ低能者トハ精神上ノ理解力及判斷力ニ一定ノ缺損ヲ有シ而モ教育可能ナルモ普通兒童ト共ニ教育スル場合ニハ效果アル共同成績ヲ擧グルニ不適當ナル者ヲ云フ。

次ノ者ハ補助學校(同學級)ニ採用スルヲ得ズ。

一、高度ノ低能兒童或ハ癡呆

二、盲聾唖及顛癲兒童

三、悖德性ノ兒童

四、精神上異常ナシト雖モ不良ナル學校教育狀況、疾病其他ニ因リテ精神發育ノ後レタル者

補助學校(同學級)ハ普通當該地方竝ニ區學校管理ノ下ニ從屬ス。

第二條　兒童ノ收容ハ通常先ヅ最少限トシテ一箇年間普通ノ小學校ニ在學シテ效果無キ者ナリト認メラレタル者ニ非ザレバ之ヲ許サズ。

第三條　兒童ヲ補助學校(同學級)ニ收容ノ要求アルトキハ先ヅ兒童ノ法定上ノ代理者ヲ招喚ス。

右要求ハ兒童ガ最近在學シタル普通國民學校ノ擔當學級教員又ハ校長ニヨリテ提出シ得ベシ。

第四條　實際ニ兒童ヲ補助學校又ハ同學級ニ收容スルニ當リテハ豫メ先當該兒童ニ就キテ檢査ヲ施行スベシ。卽チ該兒童ハ普通ノ國民學校在學ニ不適合ナリヤ、又一方ニハ特殊學校ニ於テ充分教育可能ナリヤヲ檢査シ依是補助學校校長(同學級教員)、兒童ノ最近在學セル學校ノ校長、同擔當教員、當該自治體視學ノ代表者竝ニ學校衛生事務ヲ擔當セル當該學校醫ヨリ成ル一委員會ニヨリテ補助學校ニ收容ヲ決定ス。

但シ此檢査ハ無料トス。

兒童保護者ハ必要ノ場合ニハ當該區學校當局ニ對シ訴願ノ權利ヲ有ス。

第五條　兒童ヲ補助學校(同學級)ニ送ルモ同校(同級)ニ於テ陶冶ノ效果十分ナルカニ就キ疑ハシキ場合ハ該兒童ハ試驗的ニ之ヲ同學校又ハ(同學級)ニ送付スルモノトス。

第六條　收容ハ學年ノ初期ニ於テ之ヲ行フ、收容後ハ一學年ヲ經過セザレバ移動セズ(下略)

第七條　收容兒童ノ法定上ノ代理者ノ希望スル時、補助學校(同學級)ニ坐席アラバ義務教育年限ヲ過グルモ尙ホ之ヲ在學セシメ得。

第八條　補助學校(又ハ同學級)ニ收容シタル兒童ハ必ズ同學校(同學級)ニ在學スルノ義務ヲ負フ。

第九條　補助學校ハ最少限度トシテ三學級最大限度トシテ五學級ヲ有スルヲ定規トス、一教員ノ擔當兒童數ハ十五ヲ超ユルヲ得ズ唯除外例トシテ最大員數ヲ二十名トナスヲ得。

第十條　教科目ハ一般國民學校教科目ヲ規定セル帝國國民學校令第三條ヲ適用ス。

體操(外氣中ノ運動及遊戯共)及唱歌ニツキテハ特別ノ注意ヲ拂フベシ又男女兒童共手工ノ教授訓練ニツキテハ殊ニ多大ノ顧慮ヲ拂フベシ。

第十一條　一科目ノ授業ハ最下級ニ於テハ二十五分以上ヲ超ユルヲ得ズ。

第十二條　毎週ノ教授時數ハ十八時以上二十五時以下ナルヲ要ス。

第十三條　主要教科ハ國民學校ニ準據ス、各個人ノ能力ニ適應シ特ニ實生活ニ必要ナル知識技藝ヲ教授ス。

## 第三項　低能ノ原因及分類

兒童中一般小學校ノ訓育效果乏シク漸時進移スル學科課程ニ追隨スル能ハザル者アリ、然レドモ是等ヲ以テ凡テ低能兒トナスハ固ヨリ誤ナリ、兒童中ニハ疾病ノ爲ニ長ク學校ヲ缺席シタルニ由リテ、或ハ身體虛弱ノ爲ニ速ニ疲勞シ易ク爲メニ精神能力ノ低弱ヲ來セルニ由リテ小學教育ノ目的ヲ達シ能ハザルモノ少カラザル事ヲ記セザル可カラズ、如此者ハ其身體上ノ缺點ヲ檢診シ之ニ適當ナル恢復法ヲ講ジ且ツ學科課程上ニモ適當ナル注意ヲ拂フ時ハ是等ハ普通兒童ト同樣ニ小學學科課程ヲ修メ得ルニ至ル者ナリ。

反之而低能兒ナル者ハ是等普通ノ方法ニヨリテ改善ヲ計ルモ一般小學ノ學科課程ノ目的ヲ達シ難キモノナリ、換言スレバ低能兒ノ精神能力ハ小學校ノ一般教育學的方法ニヨリテハ教育スルヲ得ザルモノニシテ彼等ノ精神能力ノ低キハ、事實上其精神的概念ニ缺陷アルニ因ルナリ卽チ多少ノ差異コソアレ必ズ自己ノ考慮感情又ハ意志ニ於テ異常アルガ故ニ之ヲ普通ノ教育ニ委シテハ效果乏シキ所以ナリ、卽チ彼等ハ斯ル缺陷アルガ故ニ唯一定制限セラレタル範圍內ニ於テ教育シ得ラルヽニ過ギズ、マンハイム式進級系Förderklasse ニ於ケル虛弱兒童ハ恢復法ヲ講ジ其身體ノ良ク發育スルニ至リテ以前ノ不良成績ハ改善セラレ實生活ニ入リテモ一般小學ヲ卒ヘタル者ト比肩シ獨立生活ヲナシ得ルヲ見ルモ是等ハ低能ニ非ザル普通ノ兒童ナルコトヲ知ルベシ然レドモ低能兒ニアリテハ特別ノ注意ヲ以テ教育ストモ其本來ノ精神的概念 Geistige Verfassung 其智情意等ニ於ケル一定ノ缺陷ハ全然消失シ得ザルモノナリ是等ノ缺陷ハ常存スルカ若クハ最善ノ場合ニハ幾分輕減スルコトアルニ過ギズ、或ハ特別ノ場合ニ於テハ或ハ智或ハ情意等他ノ一、又ハ二等ノ發達ニヨリテ該缺陷ガ被覆セラルヽコトアルノミ如此普通ト低能兩者ニハ根本的相違アリト謂ハザル可カラズ然レドモ此相違點ハ屢〻識別容易ナラザル場合アルガ故ニ輕卒ナル判定ヲ愼ム可キモノトス。

少年低能者ト定義スル內ニハ種々ノ者ヲ包含ス、第一輕度ナル白癡 Idiot ニシテ常ニ一二ノ注意可能ナルガ爲ニ一定制限內ニ於テ教育シ能フ者、第二癡愚 Imbezillen ニシテ其精神的本態ニ於テ常ニ不定規ナレドモ尙比較的相當ニ智力ヲ有スル者ニシテ之ガ爲ニ易シク過失、危險ヲ伴フモノナリ。第三輕癡 Debilen ニシテ其考慮及行爲ハ單ニ狹キ範圍ニ限

ラレタルモノナリ。

如右類別スルトキハ一見甚ダ簡單ノ觀ヲナセドモ實際ニ當リテハ斯ク單一ナラザルナリ、精神能力ニ於テモ種々ノ階級過渡級アリ或者ハ殆ンド普通ト異ナラズ、又白癡ニシテ極メテ限少ノ範圍ニ於テ教育スルモ尚ホ目的ヲ達シ難キモノアリ、是等ハ土地ニヨリ學校ニヨリ又學者ノ類別法ニヨリテ其報告ニ多少ノ差異アルヲ免レズ、プロフェッソル シュミッド氏ノボーンニ於ケル統計ニヨレバ補助學校兒童ノ七〇%ハ完全ニ教育ノ目的ヲ達シ職業生活ヲナシ得ルモ二二.七%ハ一部分、殘餘ノ五三三%ハ全ク受職不能者ナリト

シュレージンガー氏ハ補助學校卒業者ノ七〇%ハ完全就職可能二〇%ハ一部分、一〇%ハ全然不能ト云ヘリ、同氏ハ補助學校修了者百五十二名中一四%ハ輕キ者、二九%ハ中等、四九%ハ重キ者、殘餘ノ八%ハ所謂陶冶可能性癡愚ニ屬セルモノナルガ此百五十二名ノ在校中ノ智力ノ發達順序ハ如次

三十七%ハ可ナリ平等ノ進調ヲ以テ發達セリ其内ノ八%ハ佳良二三%ハ中等六%ハ低度ノモノナリキ。

二十七%ハ時ノ經過ト共ニ發達昇進シ卽チ主トシテ下學級ニ於ケル著シク緩慢ナル發育ノ後ニ於テ發育ス。

十七%ハ右ト反對ニ後期ニ於テ進歩惡キモノナリ卽チ主トシテ國民學校ヨリ補助學校ニ移リシ際ノミ佳良ナル發育ヲ見タリ

九%ハ一二年間ハ進歩休止シタル者又三%ハ退歩シ、六%ハ毫モ進歩ヲ示サヾリキ。

白癡、癡愚及輕癡間ニ確定不拔ノ判別ハ容易ナラズ、實地上屢、困難ニ會スル場合少カラズ、然レドモ經驗ニ富メル補助學校長同學校醫ハ一定ノ觀察期ヲ經タル後一兒童ヲ補助學校ニ送ルベキカ否カノ最後ノ斷定ヲ與ヘ得ルコト屢、之レ有リトス本邦ニ補助級ヲ試設スルモ單ニ教員ノ考ノミニヨルコトアリ如此場合ニハ大ニ注意ヲ要スベキモノナラン。

又實地上凡テノ低能兒童ヲ公立補助學校ニ收容シ得ベキモノニ非ズ蓋シ特定ノ關係及異常狀況ノ伴フアル爲メニ之ヲ他種ノ施設ニ收容セザルヲ得ザル場合アレバナリ例ヘバ悖德者ノ如キ癲癇者ノ如キ或ハ五感器官ニ顯著ナル缺損ヲ有スル者ノ如キ佝僂性者或ハ重症言語障碍アル者(無語者 Aphasic)ノ類是ナリトス。

## 低能ノ原因

一、遺傳

二、胎兒期又ハ初生兒期ニ於テ母ヨリ傳染セル原因ニヨルモノ

三、幼時ニ於ケル環境ノ影響。

四、非遺傳性ノ疾病ノ後遺ニ因スルモノ

### 第一　遺傳

父又ハ母若クハ兩親、或ハ兩系ノ祖先ニ神經病、若クハ精神病ノ存在スル時ハ、直接ニ低能ノ原因トナルモノナリ、是等ガ遺傳的原因ヲナスコトハ、恰モ畸形、血友病、近眼、聾啞等ガ子孫ニ遺傳スルト同ジク、著シキ胚子的遺傳ヲ來スモノナリ。

補助學校ニ永年勤續スル教員ハ、兒童ノ同胞ガ同時ニ在學シ、若クハ一家族系ノモノガ續々新兒童ヲ送ルコトアルニ感ヲ深クスト云ヘリ、乍併歐米ニ於テハ屢〻補助學校兒童ニ於ケル遺傳關係ノ調査困難ニシテ、何レノ遺傳ガ主因ヲナスヤ等ヲ明白ニ決定シ難シ、卽チ婚姻出生關係ヲ明ニスルコト能ハザル場合アリ、或ハ兩親ガ供述ヲ拒ム場合アリ、本邦ノ如キモ大都市ニアリテハ是等ノ調査既ニ困難ナラン。

シュミット氏ノ調査ニヨレバ補助兒童一、七、五名中三十六名ハ毫モ何等供述ヲ得ズ四十二名ニ於テハ其供述中毫モ直接尊系ノ精神病的素因アルカヲ推定スベキ標準トナラズ、唯其體質ガ或ハ佝僂性或ハ腦水腫、小頭、發育遲緩、重聽、腺樣增殖等ノ徵候アリシヲ以テ、低能ノ發生原因ヲ推想シタリ、九十七名ニアリテハ精細ニ且ツ信用シ得ベキ供述ヲ得タリ、殊ニ母ヨリ之ヲ得タリ、卽チ當該兒ハ遺傳ニ因スルカ若クハ胎兒期又ハ初生兒期ニ於テ受ケタルモノナリヤヲ詳ニシ得タリ、然ラバ初メノ三十六名ヲ除クモ、カク過半數ニ(一七五對九七＝五五.%)精神病的素因ノ遺傳セルヲ知ルベシ、若シ更ニ身體的、精神的變質ノ存在ヲ以テ遺傳素因トナストキハ、此比率ハ尙ホ一層增加スベシ、更ニ細別シテ狹義ノ遺傳トシテ計上スレバ、第一尊系ノ低能ナリ、二十六名中十名ハ父低能ニシテ、十六名ハ母低能者ナリ、又前者十名ニハ尙ホ他ニ遺傳ノ徵スベキアリ、卽チ祖父母、叔伯父母等ニ之レ有リ、又兒童ノ同胞十二名ニ低能者アリキ、第二兩親竝ニ血族ニ神經病及精神病性ノ低能ヲ徵セリ、精神病及白癡(五例)、癲癇(三例)、神經系疾亞(十一例)、犯罪(三例)ナリ。

ストラスブルグ市ノブロフェッソルオイケン、シュレージンガーノ調査ニヨレバ兩親系ノ精神病的竝ニ神經病的體質トシテハ兩親系ニ顯著重症ナル精神病及ビ神經病ヲ證明ス麻痺狂、メランコリー、癲癇、癡愚等ノ遺傳二一.六%ヲ示ス、又是ヨリ輕症ニ屬スベキ精神的、神經的缺陷ナル輕癡、神經衰弱、ヒステリー、悖德者等二七.六%ヲ示ス以上合計四九.二%ノ遺傳ヲ徵セリ、又氏ハ補助學校兒童ノ同胞ニハ其三二%ニ智性缺損者ヲ見タリト云フ狹義ノ遺傳トシテ兩親ノ體內ニ於ケル「胚子發生ノ障碍」ヲ加フベシ、第一ニ慢性中毒ニ因スル胚子ノ中毒ニシテ、其內最モ多キハ精神的變質ノ原因タル亞爾個保兒中毒ナリ、シュミット氏ニヨレバ二十例中十六名ハ父ニ、二名ハ母他ノ二名ハ兩親ニ大酒家ヲ認ムシュレージンガー氏ハ兩親ノ亞爾個保兒中毒遺傳ハ補助學校兒童ニ三〇%ナリト云ヘリ、又ストローマイヤー、ロビノウィチ、グレベリーン、ブルチブーユ諸家ノ精神病院ニ於ケル調査ニヨレバ白癡及癡愚ノ四一乃至六二%ハ兩親ノ慢性亞爾個保兒中毒ヲ徵スト、要スルニ亞爾個保兒中毒遺傳ノ著シキヲ知ルニ足ル一般ニ父ノ大酒ハ受胎ニ大ナル影響ヲ及ボサヾレドモ母ノ大酒ハ受胎困難ナリ、從テ飲酒ニヨル低能ハ統計的ニハ父系ニ多ク來ルモノト

スシュレージンガー氏ハ亞爾個保兒中毒遺傳ノ比例ハ父對母ハ三八對三ナリト云ヘリ又鉛中毒、黴毒及結核ハ之ニ次グベキ胚子中毒ノ原因ナリ又玆ニ記スベキ事項ハ兩親ノ早婚若クハ晩婚ナリ、過度ノ房事ニヨル胚子腺ノ過勞、迅速頻回ノ出產(流產モ同ジ)兩親ノ甚シキ榮養不良若クハ榮養過多等是ナリ次ニ尙ホ遺傳トシテ記スベキハ兩親ノ胚子ハ不適合是ナリ卽チ高度ノ血族結婚是ナリ、如何ナル親近程度ノ結婚ガ產兒ノ心身ニ變性ヲ來タスヤノ問題ハ强チ單簡ニ解答ヲ與ヘ難ク、屢學者意見ノ相違ヲ見タリ、乍併精神的低能ノ原因ニ一定比率ヲ示スノミナラズ、聾啞ノ如キハ、諾威、デンマークニテハ聾啞ノ二十三%ハ近親結婚ニヨレリ獨逸ニ於テハ此比率必ズシモ一致セズ、シュレージンガー氏ノ言ヘル如ク下層社會ニハ近親結婚ハ上等社會ヨリハ稀ニ行ハル而モ低能兒ハ下層ニ多キハ事實ナリ本邦ノ地方上流社會ニハ代々親近結婚行ハル、而シテ右ノ關係ハ如何ナリヤ(本邦盲學校調査ニヨレバ血族結婚ガ失明原因ノ十五%ヲ占ムト云フ)又兩親ノ年齡相違甚シキ時例ヘバ父ノ齡ガ母ノ倍又ハヨリ以上ノ場合ニ低能兒ヲ見ルコト稀ナラズト云フ。

瑞西知名ノ學校醫ツュリヒ市ドクトル、クラフト氏ノ報告ニヨレバ補助學校兒童二百十七名中三十七名(一七%)ノミ其家族ニ徵スベキ確實ナル遺傳關係ナキ者ニシテ殘餘ハ凡テ單純若クハ複雜ナル遺傳ノ犧牲者ナリ、三十四名ハ重聽ノ併合セル中樞性低能ナリ、又兒童中ノ一定數ハ榮養不良者若クハ養育不良者ナリ、又特ニ注目スベキハ十三名ノ兒童ニシテ中樞性併發症ナキ純然タル末梢性重聽ニシテ腦ノ機能ノ發達セザリシ原因ハ全ク玆ニ在リトナセリ、十四名ノ兒童ハ枯液水腫症狀アル者(如此兒童ノ保護者タル者ハ子女ノ爲ニ醫師ノ診察治療ヲ求ムベキモノナリ)、遺傳ノ證明セラレタル百六十八名ノ兒童中

(イ)酒中毒ノミノ者(一尊族若クハ多尊族ニ)八十二名＝四八・八%。

(ロ)酒中毒(一尊族若クハ多尊族ニ)加、精神病若クハ神經病(一尊族若クハ多尊族ニ)二十七名＝一六%。

(ハ)酒中毒(同前)加、鉛毒(同前)四名＝二・三%。

卽チ合計百十三例ニ於テハ亞爾箇保兒ガ遺傳的ニ累ヲナセルヲ見ル可シ此原因ハ避ケ得ベカリシモノナリシナリ。ツュリヒニテハ一萬九千五百九十五名ノ小學兒童中ニ三百七十一名(一・九%)ノ補助學級兒童アリキ而シテ同市ハ人口四七一人ニツキ低能兒一名ノ割合ナリ。

異人種混淆ガ及ボス遺傳關係如何ハ明ナラズ。

次ニ注意スベキ事項ハ遺傳性低能ト先天的畸形ト併發スル點ニアリ、兎唇ト狼咽、一寸坊又ハ巨大發育、指ノ過不及、聾啞、進行性重聽、甲狀腺ノ萎縮、小頭、進行性筋萎縮血友病ノ類是ナリ、然而シテ是等ノ畸形ハ唯一部分ノミ低能ノ原因的關係ヲ有スルニ過ギズ、卽チ完全ナル普通能力ノ人ニモ亦是等ノ畸形ヲ見ルニヨリテ知ルベシ。

**第二**　胎兒期ニ於テ又ハ生後間モナク母體ヨリ傳染ノ結果低能トナルモノ

受胎後ノ障碍ニシテ低能ノ原因トセラルヽモノヲ云フ、是等ハ少數ナルノミナラズ其一部ハ腦ノ發育ニ作用スルヤ否ヤニツキ爭議ノ問題タリ、今之ヲ揭グレバ

胎盤傳染及中毒

### (一) 胎盤傳染及中毒

其多ハ妊娠中母體ノ傳染病又ハ中毒ガ胎兒ニ傳染シ早產又ハ死產ヲ來スモノナリ、殊ニ妊娠中遺傳セル黴毒ハ生兒ノ腦ノ疾患及低能ヲ殘スモノナリ、又母體ノ結核ガ胎盤ヲ通ジテ胎兒ニ如何程迄傳染シ得ルヤハ今日尙爭議ノ存スル所ナレドモ結核ガ低能ノ發生ニ對シテ意義アルモノニ非ザルハ明カナリ

妊娠中ノ傷害

次ニ毒物ガ胎兒ニ移行スル事實アリ、母ガ大酒家ナル時ハ胎兒ノ腦ノ發育ニ不良ナル影響ヲ及ボス事ハ毫モ疑ヲ容レズ、又シュレージンガー氏ノ記載セル一例ニヨレバ母ガ妊娠中腹痛ヲ病ミシ爲ニ長ク莫爾比涅ヲ用ヒタリ、而シテ生兒ハ生後ノ一年間ニ於ケル精神及身體ノ發育其ニ不良ナリキ、斯ク發育制止ガ莫爾比涅ノ長時攝取ト密接ナル關係アルヲ見ル可シ。

### (二) 妊娠中ノ傷害

妊婦ノ强度ナル轉倒例ヘバ癲癇者ノ轉倒ノ如キ或ハ劇シキ腹部ノ打撲ノ如キ傷害ヲ云フ、然而テ如此傷害ガ胎兒ニ移傳シテ腦振盪ノ如キ作用ヲナスヤ、或ハ又之ニ依リテ神經中樞ノ發育ニ對スル傷害ガ生後ニ至ル迄其有害作用ヲ及ボスモノナルヤハ勿論疑ハシキガ如シ、シュミット氏ハ如此三例ヲ有ス、三婦人皆其妊娠中ニ傷害ヲ受ケタリ而シテ其兒ノ低能ニ關係アルモノトセリ。

精神感動

### (三) 劇シキ精神感動

妊娠中急劇强烈ナル興奮、驚怖等ガ胎兒ノ腦ノ發育ニ影響ヲ及ボストセラル、事實上多キハ長時持續スル苦悶、例ヘバ將來ニ對スル心痛、恥辱ニ對スル深キ恐怖ト羞ノ如キ是ナリシュミット氏ノ一例ハ母ガ常ニ早產ニ對シ强キ恐怖心ヲ有セリ同婦人ハ既往六回流產シタリシガ故ナリ、但シ此ノ場合頻回ノ流產ノ原因ナルモノハ母ノ恐怖ノ及ボス影響ヨリハムシロ胎兒ノ發育ニ制止ヲ與フルモノナリト云フ方ガ重キ意味アルコトナリ、兎ニ角妊娠中ノ劇シキ精神感動及不幸ナル感情ガ後ニ精神低能ト關係アルモノト見ルベシ、

難產

### (四) 難產

不確實ナル原因ナレドモ難產モ亦小兒ノ腦ニ障碍ヲ與ヘテ輕度ノ不良成績竝ニ低能ニ關係アリトセラル。

シュミット氏ハ難產九例ヲ擧ゲタリ內三回ハ鉗子ニヨリシ者、一例ハ尾閭位產、一例ハ生兒ハ長時假死ノ狀態ニ在リシト、難產ガ脆弱ナル頭骨及內容ニ機械的壓迫ヲ加ヘ、或ハ腦ノ血液循環障碍ガ神經中樞器官ノ神經性成分ノ發育ニ不良ナル作用ヲ與ヘ、之ガ爲ニ持久性ノ障碍ヲ遺スコトアル可キハ想定シ得ベシ、但シ他方ニハ初產ノ場合ニ屢、經過重ク、母體ノ隘路通過ノ爲ニ兒頭ハ壓迫セラレテ强度ノ不等形ヲ來スコトアリ、然レドモ數週ノ後ニハ常形ニ復シ、又爾後ノ發育ニ於テ、兒童ハ毫モ精神的ニ異常ナキ事ヲ記セザルベカ

ラズ、故ニ難產ト精神低能トノ關係ハ確カナラズ、實際上兒童ニ難產ノ供述アルモ、精神ニ何等異常ナキコト多シ、要之ニ若シ實際低能兒アリテ其既往症ニ難產アリシ場合ニハ能ク之ヲ調査シ、且ツ兒童ノ發育ニ何等カ他ノ故障アラザルヤヲ搜索スルハ重要事ナリ、是ニ於テ難產テフコトガ意義ヲ呈スルニ至ルベシ。

生後傳染

### (五) 生後傳染

生後間モナク母體ヨリ生兒ニ傳染ノ結果、後ノ低能ト原因的關係アルモノトシテハ微毒結核等ノ傳染ニシテ腦膜及腦ノ疾患ヲ惹起シ得ベク、又母乳榮養ノ際ニ母ノ亞鉛個保兒濫用ガ腦ヲ中毒スル事等ヲ算スベシ。

榮養法

### (六) 榮養法

次ニ關係アルハ小兒ノ榮養法ナリ、若シ母ニシテ身體虛弱、榮養不良若クハ類似ノ事情ニヨリテ小兒ニ授乳ヲナシ得ザル時、牛乳其他ノ代用品ヲ用ヒタル場合ニハ、小兒ノ總發育ガ抑制セラレ、且侵害セラルベシ。

第三

**第三** 幼時ニ於ケル環境ノ影響

乳兒期ノ不充分ナル若クハ缺點アル榮養法ト同ジク、小兒ノ發育ニ大影響ヲ及ボスモノハ家庭ノ貧困及ビ小兒養護ノ不完全ナル事ナリ、發育不良、貧血、筋肉薄弱、言語發達ノ遲緩等ハ如此養護不良、榮養不良ノ結果ナリ而シテ是亦多クノ場合ニ精神發育ノ障碍ヲ來ス、勿論家庭貧困、住居衞生ノ不良ノミガ敢テ低能ヲ將來スルニハ非ズ、是等ハ屢、道德的低能ヲ來スコトアリ、一室ニ多數群住スルトキハ、小兒ハ早期ニ性慾ニ關スル事項ヲ覺知スルノミナラズ其他善良ナル風俗習慣ニ背反セル嫌フベキ行爲ヲ看做フ、是等ノ家庭ニ生育セル兒童ハ、秩序ヲ重ンジ整頓ヲ愛シ且ツ學習ニ對スル熱心等ニ乏シキモノニシテ、同級者ニ對シ羞恥心乏シク粗野ナリ、而シテ如此家庭ニテ生育シタル癡愚ノ如キハ補助學校ニ於テ敎育スルコト困難ニシテ、既ニ就學初期ノ齡ニ於テ驚クベキ腐敗ニ陷レル者アリ、獨逸各市補助學校ニ於テ既ニ一〇乃至一二歲ノ兒童ニシテ可忌犯罪行爲ノ認メラレタルモノアルハ生育環境影響ノ結果ナリトス。

第四

**第四** 非遺傳性ナル一定疾患ノ結果ニヨルモノ

此部ニ屬スル主要ナルモノハ腦若クハ腦膜ノ疾患ニシテ多クハ幼時(一乃至四歲)ノ間ニ來リ、其治癒後屢、叙智障碍卽チ精神低能ヲ遺スモノナリ、其內傳染性ノモノト非傳染性トアリ今順次之ヲ揭ゲン

流行性腦脊髓膜炎

### (一) 流行性腦脊髓膜炎

治癒後持續的精神低能ヲ遺スコト稀ナラズワイクセルバウム菌ニヨル傳染病ナルコトハ記スル迄モナシ。

腦性小兒麻痺

### (二) 腦性小兒麻痺

本病ハ通例一乃至四歲ノ間ニ麻疹、猩紅熱ノ如キ急性傳染病ニ續發スル者ナリ、嘔吐、意識ノ障碍、痙攣ヲ以テ始マル、其治癒後ニ於テハ、身體片側ノ麻痺ヲ來ス、下肢ノ麻痺ハ多ク

ハ全域ニ非ズシテ、小兒ハ尙ホ歩行ヲ學ビ得テ不十分ナガラ歩ミ得ルニ至ル、上肢ノ麻痺ハ健全側ノモノニ比スレバ發育後タル、其筋肉ハ屢〻搐搦ヲ來ス、其他多クハ喉頭筋麻痺ノ爲ニ言語障碍ヲ來スノミナラズ、又多タ智力障碍ヲ遺スモノナリ、本病ハ小兒ニ稀有ノモノニアラズ、シュミット氏ハ七十五名ノ補助兒童中三例ヲ擧ゲタリ。

### (三) 急性小兒腦炎

急性小兒腦炎

本病ハ發熱、嘔吐、頭痛、意識溷濁及痙攣ヲ主症トス、本病ハ猩紅熱、麻疹、實布垤里、腸窒扶斯等ノ如キ他ノ傳染病ト關係アリトシ、或ハ一個獨立ノ傳染病ナリトセラル、病竈腦底ニ存スル時ハ轉歸ハ多ク死ナレドモ、若シ主トシテ大腦皮質ノ一部ニ在ルトキハ一般ニ治癒ニ赴クモノナリ後遺症トシテ麻痺及叡智障碍アリ。

### (四) 癲癇

癲癇

低能ニ特殊ノ關係ヲ有スル神經病ハ癲癇ナリ、本症ハ神經病性障碍ノ遺傳ニシテ殊ニ父母ノ酒客ナル時ハ來ル事アリ、然レドモ本症ハ又遺傳ニ關係ナク、猩紅熱、麻疹、百日咳及腸窒扶斯等ノ後ニ來ルコトアリ、或ハ頭蓋創傷ノ後ニ起ルコトアリ、腦膜溢血、頭蓋骨傷後破損部ノ骨カ內方ニ凹入セシ爲メ、或ハ骨片ノ爲メ、或ハ治癒後骨膜ノ肥厚或ハ增生ノ爲メニ持久的ニ腦ノ一部ニ限局セル壓迫作用ヲ加フル爲ニ來ル、其他急劇强烈ナル精神感動ノ後、亞爾個保兒中毒ノ後、癲癇發作ヲ見ルコトアリ、然而頻回襲來シ痙攣及人事不省ヲ伴フ發作アルモ、尙ホ智能完全ニ保存セラル、場合少カラザルナリ、乍併、長時繼續スルニ於テハ終ニハ漸次ニ精神的變質及低能ニ到達スルモノトス。

頻回發作來リ且ツ劇症ナル者ハ、事實上補助學校兒童タルコト不可能ナリ、蓋シ其發作ハ同級者ヲシテ嫌忌ノ念ヲ起サシムルヲ以テナリ、如此ハ當然他ノ處置ヲ講ズベシ、卽チ癲癇者收容所ニ送ルベシ、若又、補助兒童中ニ如此者ヲ發生セバ退學セシムベキモノナリ。

重キ痙攣發作ナシト雖モ、往々反復往來スル精神的作用ノ發作アルモノ稀ナラズ、例ヘバ痙攣ナクシテ急ニ意識障碍ニ陷リ、或ハ最モ多キハ强キ興奮狀態ニ陷リテ、不定ノ運動ヲナシ、精神昏亂シ、錯覺ヲ發シ、又周圍ニ對シ暴行ヲ爲スコトアリトス、如此ハ所謂朦朧狀態是ナリ、此時當該兒童ノ意識ハ必ズシモ全然消失セザルモ、强ク溷濁シ、此間爲セル擧動竝ニ此際ノ强迫觀念ニヨリテ爲セル行爲ヲ乍朧回想シ得。

如此發作ヲ有スル兒童ハ輕重ヲ問ハズ低能ナルヲ通常トス、而シテ補助學校ニ來ル癲癇者ハ、多ク該癲癇性朦朧狀態ノ者ナリ、事實問題トシテ如此兒童ヲ果シテ補助學校ニ置クベキヤ否ヤナリ、曰ク若シ癲癇性興奮强度ニシテ同級者ニ對シ襲擊的態度ヲ示シ其害アラバ之ヲ他ニ移ス可シト、補助學校教員ハ此點ニ於テモ亦平素能ク是等ノ病的狀態ニ通曉セザルベカラズ。

### (五) 强度ノ頭蓋損傷ニ因スル腦震盪

腦震盪

墜落等ニヨリテ頭部ヲ衝チ或ハ打撲ニヨリ若クハ衝突ニヨル腦震盪是ナリ、此際ハ顏面蒼白、心鼓動弛緩、嘔吐等ヲ見ル、心身ヲ全然安靜ナラシムレバ意識再ビ明瞭ニ復シ、腦貧

血狀態恢復ス、然レドモ負傷直後ノ出來事ニ對スル記憶ハ明ナラズ、此後日ヲ經テ眩暈ノ感、失神ノ感、四肢ノ麻痹感アルコト屢〻ナリ。

腦震盪ハ完全ニ恢復スルヤ、或ハ持續性障碍ヲ遺スヤハ第一ニ懸リテ働力ノ强弱ト負傷ノ程度トニ關シ、次ニハ頭蓋ノ强弱及ビ神經中樞器官ノ抵抗性ノ大小ニ因ル、若シ兒童ニシテ元來神經病的素質ヲ有スル時ハ早ク持續性障碍ヲ遺スモノトス、腦震盪ハ神經性微細組織ノ破碎ヲ來シ、同時ニ微細血管破裂シ腦質中ニ小溢血ヲ來シ得、是等ノ傷害ハ、腦ノ小部分ニ持續性ノ變性ヲ來シテ、種々ノ症候ヲ呈ス、從テ劇シキ腦震盪ノ後ニハ、管ニ甚シキ精神及身體ノ疲勞性ヲ遺スノミナラズ、又道義觀念ノ消失ヲ來スガ如キ、著シキ性格ノ變化ヲ見ルコトアリト知ルベシ、如此兒童ハ興奮シ易ク、容易ク發怒シ、又些々タル事ヨリ强烈ニ狂暴狀ヲ呈シ、癲癇ニ類スル症狀、朦朧狀態等ヲ呈スルコトアリ、又疲勞シ易ク、記憶衰退、健忘性ヲ遺スコト少カラズ、若シ如右傷害ガ破瓜期ノ初ニ來ル時ハ爲ニ生殖ニ對スル非正規的ノ行爲ニ耽溺スルコトアリ、殊ニ重症腦震盪ノ後ニ智能ノ衰弱乃至低能シカノミナラズ癡呆ニ至ルコト少カラズ。

シュミット氏ハ七十五例ノ低能者中十一名(一四六%)ガ恐クハ腦震盪ニ原因ストナセリ、內一名ハ顳顬骨ニ、他ノ一名ハ顱頂骨ニ一馬克貨大ノ骨損傷ヲ來シタル者ナリト。

### (六) 頭骨ノ畸形

頭骨ノ畸形

寧ロ腦ノ畸形ト稱スベキモノニシテ、是亦低能ノ原因ニ大關係アリトセラル、卽チ所謂小頭顱ナルモノニシテ、頭蓋及腦ノ發育障碍及制止是ナリ、尙ホ詳シク言ヘバ腦ノ容積及重量ガ身體ノ發育ニ比シテ小ナルモノナリ。

小頭ハ往々遺傳ス、而シテ其多ク現ハル、ハ一乃至四歲ノ間ニシテ、此間ハ元來腦ガ最大最著ニ發育スル期ナリ、此期間ニハ腦ノ重量ハ三倍大トナル、卽チ約三三〇ヨリ一一〇〇瓦ニ發育ス。

小頭ニ於テハ屢〻左右腦ノ形狀不等殊ニ穹窿少ク、前頭葉彎屈腦回轉ノ畫線等著シ、主タルハ大腦ノ小ナルニアリ、小腦ハ反之テ比較的ニ尋常ノ大サヲ有ス、頭骨全體ヲ觀察スレバ唯腦部ガ小ニシテ前頭ハ低下シ少幅ナリ、反之テ顏面骨ノ發育ハ尋常ナリ、於是一見頭小ニシテ顎骨著大ノ相ヲ呈スルナリ。

腦ノ發育障碍ノ原因ニ關スル吾人ノ知見ハ未ダ全カラズ、遺傳ノ他ニ中毒ニ父母ノ酒客ナル時、鉛及水銀中毒ノ移行等ニモ亦原因タラン、多クノ地方例ヘバ瑞西、サヴォイエン等ノ山地ニハ小頭兼クレチニスムス」ガ地方病的ニ來ル、如此モノハ救濟策ナキ癡呆ニシテ卽チ補助學校ニハ收容シ難キモノナリ。

特有ノ腦形トシテ觀察スルトキハ「低下セル前頭形狀」ナルモノハ頭骨ノ病的小形ヲ示スモノニシテ補助學校ニ於テ大頭圍測定上殊ニ注意スベキ意義ヲ有ス。

今兒童ノ頭圍比較ニツキ二三ノ表ヲ掲グ。

## (A) 日本普通兒童頭圍最大最小平均及各年發育表(醫學博士三島通良氏)

| 年齢 | 男 最大 | 男 平均 | 男 最小 | 女 最大 | 女 平均 | 女 最小 | 各年增加 男 平均 | 各年增加 男 最小 | 各年增加 女 平均 | 各年增加 女 最小 | 檢査人員 男 | 檢査人員 女 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 滿一年 | 四七・〇 | 四五・四 | 四四・五 | 四七・〇 | 四五・四 | 四四・六 | 四三・〇 | 一・三 | 一・七 | 一・七 | 七七 | 六四 |
| 一歳 | 五一・〇 | 四六・七 | 四一・〇 | 四八・五 | 四六・七 | 四五・八 | 四一・三 | 〇・九 | 一・一 | 〇・九 | 三一五 | 二八〇 |
| 三歳 | 五〇・〇 | 四七・六 | 四四・三 | 四八・五 | 四六・九 | 四二・五 | 一・三 | 〇・九 | 〇・九 | 一・三 | 二六二 | 二三〇 |
| 四歳 | 五一・五 | 四八・九 | 四七・〇 | 五〇・三 | 四七・八 | 四六・五 | 〇・四 | 〇・九 | 〇・九 | 〇・四 | 二三〇 | 二五三 |
| 五歳 | 五二・三 | 四九・三 | 四五・七 | 五六・三 | 四八・七 | 四五・〇 | 〇・九 | 一・〇 | 一・〇 | 〇・九 | 七〇一 | 五二七 |
| 六歳 | 五三・〇 | 五〇・二 | 四七・〇 | 五二・五 | 四九・七 | 四七・〇 | 〇・四 | 〇・二 | 〇・二 | 〇・四 | 八八一 | 七六九 |
| 七歳 | 五三・五 | 五〇・六 | 四七・〇 | 五三・〇 | 四九・九 | 四七・七 | 〇・三 | 〇・三 | 〇・三 | 〇・三 | 一〇五六 | 七二〇 |
| 八歳 | 五四・〇 | 五〇・九 | 四八・〇 | 五三・五 | 五〇・〇 | 四八・〇 | 〇・三 | 〇・三 | 〇・三 | 〇・三 | 九三三 | 九〇五 |
| 九歳 | 五四・〇 | 五一・二 | 四八・〇 | 五三・〇 | 五〇・五 | 四六・〇 | 〇・三 | 〇・三 | 〇・八 | 〇・三 | 七八六 | 六〇五 |
| 一〇歳 | 五四・七 | 五一・五 | 四〇・〇 | 五四・〇 | 五一・三 | 四九・〇 | 〇・四 | 〇・四 | 〇・四 | 〇・四 | 八〇四 | 五三三 |
| 一一歳 | 五四・〇 | 五一・九 | 四九・〇 | 五四・五 | 五一・七 | 四〇・〇 | 〇・二 | 〇・二 | 〇・五 | 〇・二 | 六四九 | 四〇一 |
| 一二歳 | 五四・〇 | 五二・一 | 四九・〇 | 五五・〇 | 五二・二 | 四九・〇 | 〇・四 | 〇・四 | 〇・六 | 〇・四 | 五四六 | 三六七 |
| 一三歳 | 五六・〇 | 五二・五 | 四九・五 | 五八・五 | 五五・八 | 四八・〇 | 〇・五 | 〇・五 | 〇・六 | 〇・六 | 四七〇 | 二八〇 |
| 一四歳 | 五七・〇 | 五三・〇 | 四九・〇 | 五六・五 | 五三・四 | 四八・〇 | 〇・六 | 〇・六 | 〇・三 | 〇・三 | 三〇八 | 二四五 |
| 一五歳 | 五六・五 | 五三・六 | 五〇・五 | 五七・〇 | 五三・七 | 四九・五 | — | — | — | — | 二七九 | 二二六 |

(B) 普通兒童平均頭圍(ダフナー氏)

| 年齢 | 男 | 女 |
|---|---|---|
| 自五年六ケ月至六年六ケ月 | 五〇・四七仙 | 四九・三一仙 |
| 自六年六ケ月至七年六ケ月 | 五一・一八仙 | 五〇・一三仙 |
| 自七年六ケ月至八年六ケ月 | 五一・八一仙 | 五〇・五〇仙 |
| 自八年六ケ月至九年六ケ月 | 五二・一七仙 | 五〇・九一仙 |
| 自九年六ケ月至十年六ケ月 | 五二・三一仙 | 九一・〇九仙 |
| 自十年六ケ月至十一年六ケ月 | 五二・三七仙 | 五一・二五仙 |

頭圍ニ於テハ本邦ノ兒童ト大差ナキヲ示セリ。

(C) 一二八名ノ補助兒童ニツキシュミット氏ノ測定(男女兒共平均シタルモノ)

| 年齢 | 員數 | 平均ヲ超過セルモノ | 平均以下ノモノ | 最小頭圍ノモノ |
|---|---|---|---|---|
| 五年六月—六年六月 | 六 | — | 四人—四八仙及以下 | 四四仙 |
| 六年六月—七年六月 | 一一 | 三人(五二・五—五三・五仙) | 二人—四八・五仙以下 | 四六・五仙 |
| 七年六月—八年六月 | 三七 | 六人(五二・五—五五仙) | 一三人—四九仙以下 | 四七・五及四七仙 |
| 八年六月—九年六月 | 二九 | 二人(五二・五及五三・五仙) | 七人—四九仙以下 | 四六・五及四五仙 |
| 九年六月—十年六月 | 一八 | 二人(五二・五及五三仙) | 九人—四九・五仙以下 | 四八 四七・五及四七仙 |
| 十年六月—十一年六月 | 一三 | 四人(五二・三—五二・五仙) | 五人—四九・五仙以下 | 四八 四七・五及四六仙 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 十一年六月 | 一 | 三人—五〇仙以下 | 四九・四八・四七仙 |
| 十二年六月 | 一 | 二人—五〇仙以下 | 四八・五及四六・八仙 |
| 十二年四六月 | 六 | | |
| | 計一七人 | 計四五人 | |

百二十八名中四十五名(三・六%)ハ平均ヲ下ル者ニシテ多少ニ拘ラズ小頭タルヲ示スモノトス、而シテ此者等ノ教育可能性ハ其範圍狹小ナルモノニ屬セシモ、他ハ是ニ比スレバ優良ニシテ、低能中ノ輕キモノニ屬セリ、而シテ其最小頭圍ノ者ニ就テ見ルニ、如此小頭ノ者ナリト雖モ、單ニ頭圍ノミヲ以テシテハ何等智能ノ大小ノ規準タルモノヲ見出シ得ズ。

ウルムスノ補助學校醫ドクトル「バイエルタール」氏ハ「學齡期ニ於ケル頭圍ト智能」ニツキ報告セリ、氏ハ多數者ヲ檢査シタリ、而シテ氏ハ學科成績優良者ハ頭圍大ナル者ニ、比較的多ク、其小ナルモノニハ稀ニ、又嘗テ最小頭圍ノ者ニハ優良者ナシトナセリ、又氏ハ學齡者中進歩ノ方法ナキ者ノ早期診斷トシテ頭圍ノ意義ヲ說明セルハ注意スベキモノナリ、氏ハ「何等外界ノ支障ナクシテ第一學年ノ學科課程ヲ修了シ得ザル者ニシテ頭圍男五〇仙以下、女四九仙以下ナル時ハ、爾後モ常ニ成績不良ナリ、六歲ノ者ニシテ男四六仙、女四五仙ノ頭圍アル者ノ大多數ハ上級ニ達シ得ザル者ナリト、左表ハ氏ガ頭圍ノ最小限界トシテ示セルモノナリ。

| | 年齡 | 頭圍 |
|---|---|---|
| 男 | 七 | 四八以下 |
| | | 四九・五以下 |
| | 一〇 | 五〇・五以下 |
| | 一二—一四 | 四七以下 |
| 女 | 七 | 四八・五以下 |
| | 一〇 | 四九・五以下 |
| | 一二—一四 | |

## (七) 水頭(水腫腦)

水頭ニアリテハ恰モ小頭ガ其大小ノ程度ニヨリテ或ハ眞ノ癡呆ニ或ハ教育可能ノ輕キ低能ヲ來スガ如キ類似現象ヲ呈ス、水頭ノ頭圍ハ全ク小頭ト反對ニシテ普通ノモノヨリハ大ナリトス、補助學校兒童頭圍ノ「平均超過」ヲ示ス者ノ內ノ或者ハ顯著ナル水頭形ニシテ前頭及側頭圓ク隆起膨脹セルモノ是ナリ、水頭ハ腦脊髓液ガ腦膜間及腦室內ニ異常量ニ滯積セル物ナリ、健康者ニ於ケル該液量ハ六〇乃至一五〇立仙間ヲ上下スルガ故ニ是亦個人ニヨリテ大差アリト謂フ可キモノナルガ、水頭ニ於テハ二〇〇立仙ニ上リ極端ノ場合ニハ一「リーテル」ニ達スルコトアリ、如此多量ノ液體ノ爲ニ頭形膨大シテ圓ク且廣クナリ顏門ハ屢異常ニ哆大ス。

水頭ノ原因トシテ算ヘラルヽモノハ種々アリ、素質ヲ初メトシ、妊婦中胎兒ノ腦震盪、母體ノ黴毒、窒扶斯ノ胎兒感染、母ノ大酒ノ胎兒中毒等是ナリ、此他生後急性腦炎ノ後又ハ頭骨ノ佝僂病的疾患ノ後ニ發生スルモノアリ。

水頭ハ智能發達ニ及ボス影響如何　腦室ノ水頭性擴張ハ完全ナル癡呆ヲ伴フコト甚ダ多キナリ、先天性水頭、是ナリ、又水頭ハ屢盲トナル、輕度ノ水頭ハ唯低能タルカ又ハ亳モ智能缺損ナシ、前者ハ低能者ノ無慾型ニシテ殊ニ凡テノ精神作用ガ緩慢且ツ難澁ニ進行ス、隨テ總精神發育ハ遲緩ス、然レドモ亦或ル特殊ノ偏側不平等能力ノ發達ヲ伴フ事アリ、水頭中一種ノ特形ハ塔頭ト稱スルモノナリ、是ハ必ズシモ補助兒童タラズ、普通小學校ニ入リテ普通兒童ニ伴ヒ進級シ得ルモノアリ、然レドモ塔頭者ハ後ニ視神經萎縮ヲ來シ爲ニ失明スルコト稀有ナラズ。

「ヒステリー」

## (八)「ヒステリー」

「ヒステリー」ハ之ヲ補助學校兒童中ニ見ル、又低能ノ原因的關係アル疾病ナリトセラル、元來「ヒステリー」ハ發情期又ハ其後ニ發スルモノ(十五乃至二十五歳)ナレドモ亦小兒「ヒステリー」ナルモノアリテ既ニ三歳ノ頃ニ於テ來ル事アリ男女兒ノ多少比較トシテハ女兒ニ專ラ多シ、本邦小兒「ヒステリー」ノ少カラザルハ柳瀨博士報告以來之ヲ知リ得ベシ、「ヒステリー」ノ精神能力ニ及ボス影響ハ種々ナリ、或者ハ異常ナク成績モ常者ニ異ラズ、反之屢、又低能者アリテ中ニハ顯著ナル程度ノ者アリ、殊ニ注目スベキハ「ヒステリー」性兒童ニハ道德的低能者ヲ見ル點是ナリ「ヒステリー」者ハ著シク「ズケスチオン」ニ陷リ易キヲ以テ、容易ニ犯罪ニ陷ルコトアリ「ヒステリー」兒ニ顯著ナル事ハ巧緻ニシテ想像ニ富メル物語ヲ勿體ラシクナスニアリ(Pseudologia phantastica)、如此ハ決シテ無害無危險ニ非ザル場合アリ、



例ヘバ第三者ニ對シ想像ヲ逞シタル善良ナル風俗ニ背違セル事ニ就キ物語ルガ如キ是ナリ、往々想像ノ結果、是等行爲ノ疑ヲ同級女生、教員等ニ歸セントスルガ如キ場合ニ遭遇スルガ故ニ常ニ繼續注意ス可キモノトス。

「ヒステリー」ハ先天性神經病的遺傳ニヨリ若クハ稀ナレドモ後天性ニ來ルモノナリ、而シテ麻痺、運動障碍、痙攣發作、無語等ノ症狀ヲ有スルモノハ固ヨリ學校ニ置ク可カラズ、是等ハ相當ノ病院治療ニ委スベシ、學校ニ置キ得ルハ唯單獨ノ症候ヲ有スル輕症ノ者ニ限ルベシ。

## (九) 重聽

低能ノ後天的原因ノ一ニ算セラル、モノハ重聽ナリ、殊ニ腺樣增殖ガ鼻咽頭腔ニ發生セル爲メ鼻呼吸ノ障碍セラレタルニ因スルモノ是ナリ、補助學校ニ於ケル重聽者ノ數ハ普通國民小學校ニ於ケルソレニ比シテ著シク多數ナルコトハ各地ノ調査相一致セリ今左ニ一表ヲ掲グ。

| 地名 | 檢査員數 | 重聽者 | 檢査者 |
|---|---|---|---|
| 伯林 | 補助兒童一一五五 | 三五％ | カリシュアー |
| ブラウエン | 〃 | 二六・八％ | ウォルナー |
| ストラスブルグ | 〃 | 一五・％ | ミュレージンガー |
| ボン | 〃 | 二七％ | シュミット |

又ワンナー氏ハ民賢ニ於テベツォルド、エーデルマン氏法(音叉)ニヨリ、三十九名ノ補助兒童ニツキ檢査シタルガ六九・一%ノ重聽者ヲ診定セリ。

凡テ學校、醫ハ多年補助學校兒童ノ檢査ニ從事ストモ、其五感器官ノ缺點ヲ確定判斷スルコトノ困難ナルヲ知悉セリ、一定期間ノ視察檢査(或時ハ數年ヲ要ス)ヲ經タル後ニ至リ始メテ之ヲ決定シ得ルコト少カラズ、殊ニ初メテ補助學校ニ入リタル兒童ニ於テハ、多クハ總テ精神發育後レ居ルガ爲ニ、檢査上必要ナル答辯ニ信ヲ置キ難キコトアリ、或者ハ言語發育セズ屢、唖者ノ如キアリ、又短時間ト雖モ一定ノ物體ニ注意ヲ向クルコト能ハザルコトアリ、質問スルモ答ヲ得ズ、或ハ得ルモ不定ニシテ之ニ由テ何等五感器ノ狀態ヲ定ムルコト能ハザルナリ、是等ハ補助學校ニ於テ基礎教養ヲ與ヘ殊ニ發語法ヲ教ヘテ然後漸ク答辯ヲ得ルガ如キ場合アリ、凡テ如此狀況ヲ顧慮シ兒童ノ視聽力ヲ檢定シ、十分檢査上ノ遺漏ナキヲ得ルモ、補助學校ニ於テハ尚ホ普通ノ國民學校兒童ニ比シテ、二乃至三倍ノ重聽者アルノ事實ナリ。

補助學校重聽檢査法　通例學校教育ノ目的ニ對シ次ノ方法ニヨル五乃至八米ノ距離ニテ呟語ヲ解セバ中度ノ重聽トシ四米以上ニテ解シ得ザレバ高度トス。

重聽ノ檢査ニ當リ注意ヲ要スル點ハ被檢者ノ鄕土音、鄕土語、又檢査醫ノ用語等ノ關係ナリ東北出身ノ學校醫ガ九州ノ小學校ニ於テ檢査スル場合等ハ大ニ之ヲ顧慮セザレバ重聽ノ程度判定ヲ誤ルコト少カラズ(本邦ノ檢査用語トシテハ岩田博士耳科書參照)。

學校ニ於テ小兒傳染病ノ豫防ノ重要

**重聽ノ原因**　後天性ナルトキハ原因數多ナリ、最多ハ中耳ノ疾患ニシテ實扶垤里猩紅熱、麻疹、流行感冒ノ如キ急性傳染病ノ後ニ起リ或ハ鼻咽頭腔增殖ノ結果ニ來ルモノナリ、滿四歲(普通無異常ノ發育ニ於テハ此歲ニ言語ノ發達モ亦完了ス)ヨリヨリ以前ニ聽力ニ障碍來ルニ從ツテ言語發育モヨリ多ク障碍セラルト共ニ精神發育モ亦一層障碍ヲ受クルモノナリ身體檢査ノ項ニ述ベシ『質問事項』ノ必要ナル理由ハ此點ニ就キテモ明ナリ早期ニ發生スル重聽ハ全觀念及感覺生活ヲ狹縮ス、兒童ハ唯其周圍、父母、同胞ノ談話ノ斷片ヲ聽覺スルニ止マレリ、況ヤ微々タル雜音、音色等凡テ環境ニ特色ヲ與フルモノ、例ヘバ樹葉ノ颯々、流水ノ潺々、蟲ノ音、鳥ノ歌ヲ聞キ得ンヤ。

鼻咽頭腔ノ腺樣增殖ト低能

鼻咽頭腔ノ腺樣增殖ハ甚ダ多シ、而シテ精神的低能ノ發生ヲ助成ス、茲ニ重聽ノ上ニ常ニ鼻呼吸ノ支障ニヨリ頭ノ內部ニ絕エズ陰鬱ナル壓感ヲ來ス、加之他ノ續發症狀ヲ來ス、扁桃腺ノ肥大ガ鼻咽頭腔ヲ閉塞シ、後鼻竅ハ塞ガレ、歐氏管口モ亦閉塞セラレ、上顎及其齒牙ノ發育ニ故障ヲ與フル依是言語障碍ヲ來サシム、少クトモ言語ヲ不明瞭ナラシム、兒童ハ口腔呼吸ヲナシ睡眠時ニハ鼾ヲナシ、屢、睡眠中恐ロシキ夢ニ襲ハレテ驚起スルコトアリ夜間恐怖症是ナリ。

ライプチヒ市ノバルト氏ノ調査次ノ如シ。

八百八名ノ耳病兒童中二百二名(二五%)ハ扁桃腺肥大者ナリ其內百十名(一三%)ハ鼻呼吸障碍アリ四十四名(五四%)ハ强度ノ重聽ナリ。

鼻ノ閉塞後鼻竅部ノ持續的陰鬱ナル壓感ハ兒童ヲシテ教授ニ從追傾聽スル事ニ支障ヲ與ヘシム、重聽者ニハ前方ニ坐席ヲ與ヘ能ク教員ノ教授ヲ了解シ易カラシメ、故障アル聽力ヲ補フニ視力ヲ以テセシメ、教員ノ口ノ運動ノ注目ニヨリテ所謂「口ニヨル言語ノ讀解」ヲナサシムベシ。

視力障碍

身體檢査ノ際ノ注意

## (一〇) 視力障碍

視力ハ聽力障碍ニ比スレバ低能トノ關係僅疏ナリ、事實上、失明兒童ニアリテハ其一〇%ガ低能ナリ失明ノ他ニハ結膜炎及角膜炎ノ後遺ナル角膜溷濁アルコト多ク、早期ニ發生ノ場合ニハ、之ニ由テ觀念圏ヲ狹縮シ智力發育ニ不利ナルハ明ナリ。

又補助學校兒童ニ少カラザル斜視ハ低能ト直接關係ナシト雖モ低能ニ關係アル一定ノ腦髓作用ノ存在スル場合ニ於テハ斜視ハ其部分的症候タルモノナラン。

色盲ハ低能兒ニアリテ普通者ヨリ一層多ク來ルモノナリトノ說少カラズ、然レドモ色盲色弱等ハ何等低能者ニ特殊關係ナシ、唯低能者ニ著シキハ辨色力ノ缺乏ニシテ是レ明ニ低能者ニ定型的ナル一現象ナリ、而シテ其能ク識別スルハ黑白赤ナルガ、青ト藍色トハ屢混同シ、褐色ト鼠色トハ識別一層困難ニシテ八九歲ニ及ベル低能兒ト雖モ尙ホヨタ之ヲ辨ジ難シ、紫色ト「ロザ」色トハ一層年長ケタル者ニモ尙ホ區別困難ナリ、如此辨色力ノ缺乏ハ普通兒童ニ比シテ顯著ナリ(ウ。ルデルムート氏色弱)

茲ニ注意スベキハ精神能力普通ナル兒童ニ於テモ家庭教養ノ狀況ニヨリテハ就學當時辨色力否ナ視覺ニ異常ナキモ各色ノ區別ヲ知ラザル爲メ之ヲ各別ニ言表シ得ザルコト多シ、然レドモ是等ハ練習ニヨリテ容易ニ學得シ得ルモノナリトス。

佝僂病

## (一一) 佝僂病

低能トノ關係有無ニツキテハ爭議アレドモ早期發生ノ佝僂病ト低能トハ一定ノ關係存スルモノナリ、佝僂病ハ生後三ケ月乃至二年間ニ發生スルモノニシテ、歐洲ニ於テハ腺病ト共ニ蔓延セル小兒ノ全身病ナリ其治癒後、種々重症ノ畸形ヲ遺スモノナリ、本邦ニ於テハ以前ハ佝僂病ノ存在ハ疑ハレシモ富山縣下ニ於ケル諸學者ノ檢査ニヨリテ確定セラレ、其後所々ニ於テ本病檢出セラレタルガ故ニ本病ハ本邦ノ低能兒問題乃至學校衞生問題トシテ既ニ意義アル實在タリ。

佝僂病ハ脊柱、胸廓、四肢殊ニ下肢ノ畸形、關節ノ肥厚ヲ來シ又頭骨ノ發育障碍ヲ來ス、後頭骨ノ扁平及軟弱、顚門ノ開大及縫合ノ不閉、齒牙發生緩慢及畸形、全頭形ノ不正等ヲ呈ス。

本病ノ原因ハ未ダ明白ナラズ、哺乳期ニ於ケル不良ナル人工榮養法、食物ノ石灰成分缺乏、光線及通氣不十分ナル多濕ノ住居等ヲ算シ又本病ガ時トシテ流行性ニ來ルガ爲ニ病原不明ノ一傳染病ナラント稱スル人アリ。

低能トノ關係ハ、歐洲ニ於テハ低能兒及白癡トニ就キテ見ルニ其內ニ佝僂病性ノ體質ヲ有スル者多シ、換言スレバ佝僂病ノ徵候ヲ有スル兒童ニ低能及白癡多キナリ。

シュミット氏ノボン市補助學校兒童調査ニヨルニ、其四六乃至五〇二%ニ佝僂病ヲ證明シタリ、而

シテ同市ノ普通國民小學校兒童ニ於テ一八乃至二五%ヲ見タリ、但シ同市中人口最稠密區ヨリ來ル兒童ニ最モ多カリシト、如此低能者ハ普通兒ニ比シテ往々倍以上ノ佝僂性者アリトス。

本病者ニ於テ低能ノ發生ヲ促スモノハ、先ヅ本病ガ發育ヲ抑制スルニ在リ、兒童ハ骨格ノ軟弱ナルニヨリ、三歳乃至四歳ニ至リテ初メテ歩行走行シ得、從テ其前ニ同年齢者ガ既ニ嬉々トシテ交遊シ得ルニモ拘ハラズ、彼等ハ不快ノ機嫌ニ生活シ、且ツ又精神發育ニ重要ナル刺戟ヲ同輩ヨリ受クルコトナキナリ、從テ言語ノ發育遲緩ス、如此心身ノ發達共ニ後レ且ツ低度ナリ。

又本症ニハ水頭ノ併合スルコト稀ナラズト云フ、又軟弱ナル後頭骨ガ扁平トナリ重症ナル神經症狀ヲ將來シ殊ニ聲帶痙攣等ヲ來スコトアリト云フ。

佝僂病ニヨル頭骨ノ發育障碍ハ、腦ノ發達ヲ害スルモノナリトス。

要之以上列記スル如ク種々ノ原因ガ佝僂病ト低能トノ間ノ原因的關係ヲナスモノト謂フ可シ。

甲狀腺ノ缺損又ハ變性

### (一二) 甲狀腺ノ缺損又ハ變性

「クロップ」ノ爲ニ甲狀腺ヲ剔出スル時ハ粘液水腫ヲ來ス、甲狀腺全剔出ニヨリ該腺ノ機能消滅スレバ全身ノ皮膚ニ固有ノ腫脹ヲ來シ殊ニ顏面ヲシテ異樣ノ醜貌ヲ呈セシム、如此皮膚ニ浮腫ヲ呈スルト共ニ他方ニハ智能障碍ヲ現ハスニ至ル卽チ無慾ヨリ痴鈍ニ至リ、判斷力ノ減衰、記憶減弱、進行性癡呆等ナリ故ニ手術ニ際シ甲狀腺質ノ一部分ヲ殘スヲ法トス、蓋シ甲狀腺ノ分泌液ハ新陳代謝上必要ニシテ體內ニ產スル毒物ヲ破壞スルノ作用ヲ有スルナルベシ、犢又ハ羊ノ甲狀腺液ヨリ製セル「チュレオイヂン」又ハ沃度「チュリン」錠ノ服用ニヨリテ症狀ハ減退ス。

歐洲ニテハ或地方ニ屢〻「クロップ」ト「クレチニスムス」ト同時ニ來ル所(又單獨ニ之ヲ見ル所アリ)アリテ一種ノ精神的變質ヲ呈ス、其臨牀的症候ハ粘液水腫ニ類シ先天的ニ甲狀腺ノ缺如セル者若クハ五六歳頃ニ至テ甲狀腺ノ變性ヲ來ス者ニ之ヲ見ル、如此ヲ小兒粘液水腫ト云フ、其症候ハ甲狀腺剔出後ノ粘液水腫症ニ等シク。一、皮膚ノ異樣腫脹殊ニ顏面ニ著シク、舌ハ異常ニ厚ク、手ハ肥大、指爪缺損。二、智能障碍ハ完全ナル癡呆乃至低能、又一定ノ敎育可能性ノ輕癡ニシテ患者ハ常ニ擧動遲緩且無慾ナリ言語ハ緩慢且難澁ナリ又、三、骨骼ノ發育制止ノ爲ニ小兒ハ矮小ニシテ侏儒ノ如キ者アリ、稀ニハ反對ニ巨人發育ヲ呈スル者アリト云フ、小兒粘液水腫ニ「チュレオイト」錠ハ有效ナリ又ライプチヒノプロフェッソル、バイル氏ハ母體ヨリ甲狀腺ノ一片ヲ取リ之ヲ脾臟ニ縫著スル時ハ全然治癒シ且ツ發育ヲ促進スト云ヘリ。

## 第四項　補助學校ニ於ケル特殊衞生狀態

### (甲)

低能兒ハ先天的遺傳及後天的非遺傳性原因ニヨリ發生シ、又大部分ハ家庭狀況ノ不良、

且ツ變質的系統ヨリ來ルガ故ニ單ニ精神能力ノ缺損ノミナラズ其身體ニ於テモ亦缺點アル者多シ補助學校ニ於テハ兒童ノ罹患率多ク隨テ特ニ衞生上ニ重キヲ置カザル可カラザルナリ。

茲ニ補助兒童身體健康狀態ノ概況ヲ例示セン。

次表ハブロフェッソル シュミット氏ガ凡テ自身檢査セシボン市各學校兒童ノ比較ナリ。

| 體質 | 市立「レアールシュール」 | 「スチフトシュール」（國民學校） | 「キルヘルムスシュール」（進級系） | 補助學校 |
|---|---|---|---|---|
| 良 | 五五・三％ | 二四％ | 二一・八％ | 一三・三％ |
| 中等 | 四一・一％ | 六七・五％ | 六五・九％ | 六四・七％ |
| 不良 | 三・六％ | 八・五％ | 一二・三％ | 二二・〇％ |

備考　「レアールシュール」ハ全級二百二十一名、國民學校ハ下級ノ二級、貧民區ノ一校ナリ。「キルヘルムスシュール」ハマンハイム式ニヨル進級系ニシテ上級a及b級、補助學校ハ全級百八十三名ノ兒童ヨリ統計セリ。

由是觀之家計良好ナル家庭兒童ヨリナル「レアールシュール」ノ兒童ト補助學校兒童トノ體質ヲ比較スルニ實ニ別世界ノ觀アリ如此ノ大差ハ他ノ「スチフト」國民學校「キルヘルムス」學校ト補助學校トノ間ニハ存在セズ此表ニヨレバ精神及身體發育間ニ一定ノ關係ノ存在ヲ想見スベシ、又依是低能者身體發育ノ平均ガ同年齢級ノ國民學校兒童ニ比シテ劣レルコトヲモ想像シ得ベシ。

ストラスブルグノシュレージンガー氏ハ九百名ノ普通小學兒童ト三百名ノ補助學校兒童ニツキ體質ヲ比較シタルニ如次

| 體質 | 國民學校 第一學年 | 國民學校 第四學年 | 國民學校 第七學年 | 補助學校 下級 | 補助學校 中級 | 補助學校 上級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 良 | 五九％ | 五九％ | 六七％ | 三四％ | 四三％ | 四二％ |
| 中 | 三八％ | 三九％ | 三二％ | 五〇％ | 四七％ | 五〇％ |
| 不良 | 三％ | 二％ | 一％ | 一六％ | 一〇％ | 八％ |

如此體質ノ不良ナル者多シ普通ノ小學校兒童ハ學校教育經過中一般ニ體質ガ漸次向上スルヲ例トス殊ニ後ノ三分ノ一期間ニ佳良トナレドモ補助學校兒童ハ反之而一般ニ如此傾向少ク其三〇％ハ在校中體質改善ヲ見ルト雖モ他ノ當初ヨリ不良ナリシ者ハアラユル改善法ヲ講ズルモ奏效シ難シ而シテ比較的多數ノ兒童(一三％)ニアリテハ多少逆行ノ傾アリテ良ハ中トナリ中ハ不良トナルコトアリ。

ボン市ニ於グル一九〇三年國民學校校長レッセニヒ及シュミット兩氏ノ調査セル國民學校兒童ノ身長體重ノ發育ヲ見ルニ

| 年齡 | 男 身長(仙) | 男 體重(基瓦) | 女 身長(仙) | 女 體重(基瓦) |
|---|---|---|---|---|
| 五―六 | 一〇八・九 | 一九・六 | 一一〇・六 | 一九・五 |
| 六―七 | 一一五・九 | 二一・二 | 一一五・一 | 二〇・九 |